4-130-104-**05**(1)

ネットワーク
サーベイランス
サーバー

ユーザーガイド

ソフトウェアバージョン 1.5 以降

NSR-1000 Series

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、
いつでも見られるところに必ず保管してください。

IPELA

目次

第 1 章　はじめに

第 2 章　管理メニュー

第 3 章　基本操作

第 4 章　各種設定

第 5 章　日常の運用

第 6 章　　その他

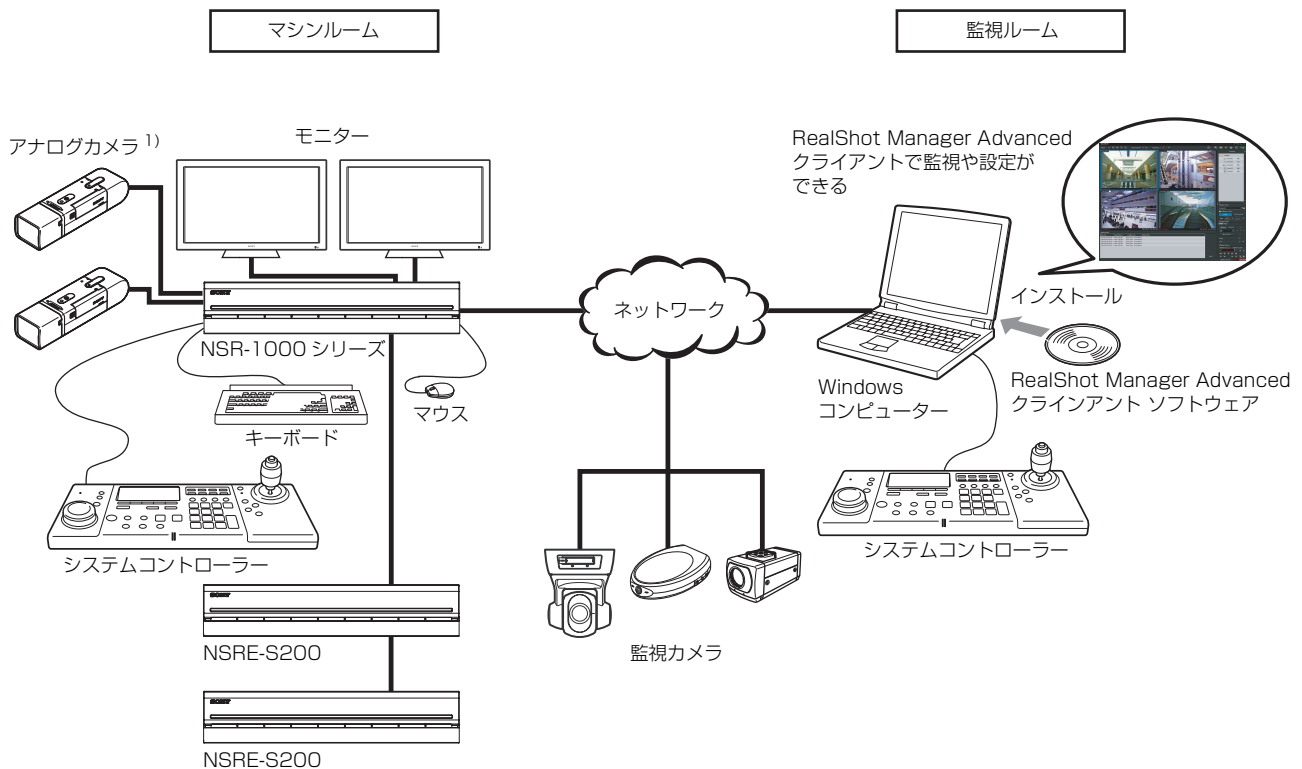
商標について

・“IPELA” および IPELA は、ソニー株式会社の商標です。
・Microsoft、Windows、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
・HDMI、HDMI、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
・その他、本書に記載されているシステム名、製品名、会社名は一般に各開発メーカーの登録商標または商標です。
・本機をお使いになる前に、必ず本書のエンドユーザーライセンス契約をお読みください。

なお、本文中では、®、™ マークは明記していません。

はじめに 第1章

機能概要

NSR シリーズはネットワークカメラに対応したネットワークサーベイランスサーバーです。ネットワークカメラの JPEG、MPEG-4 または H.264 の画像をネットワーク経由でモニタリングしたり、記録することができます。また、記録した画像を検索、再生することもできますので、監視システムとして幅広い用途にお使いいただけます。

1) NSR-1050H には標準でアナログエンコーダーボード NSBK-A16 が内蔵されていますが、NSR-1200/1100 は NSBK-A16 または NSBK-A16H の増設が必要になります。NSBK-A16H を使用する場合は、本機のソフトウェアバージョンを 1.4 以上にする必要があります。

メモ

本機にモニターを2台接続したときは、モニター1でモニタリングと設定が行えます。モニター2は、ホットスポット用となります。

対応ネットワークカメラの遠隔操作が可能

パン（左右）・チルト（上下）・ズーム（拡大）に対応したカメラであれば、カメラの動作を制御できます。

アナログカメラにも対応

アナログカメラを直接本機に接続[1]し、画像をモニタリングしたり、記録することが可能です。

1) NSR-1200/1100 は、NSBK-A16/A16H（オプション）の増設が必要です。NSR-1050H には、あらかじめ NSBK-A16 が搭載されています。

大容量ハードディスクに長時間記録

大容量ハードディスクを内蔵していますので、高画質でも長時間記録可能です。参考例として、「設置参考データ」（11 ページ）をご覧ください。

省スペースの 2U、19 インチラックマウントタイプ

オプション（別売り）のラックマウントキットを使うと、EIA STANDARD（ユニバーサルピッチ）の 19 インチラックに設置できます。

最大 480 fps（VGA、JPEG）での高画質記録

NSR-1200 は最大 64 台（NSR-1100 は 32 台、NSR-1050H は 20 台）のカメラを接続できます。また、NSR-1200 では、トータルフレームレート 480 fps[1]（NSR-1100 は 240 fps、NSR-1050H は 120 fps）で、VGA（640 × 480）[2]、JPEG 画質（1 フレームあたり約 31 KB）の画像を記録できますので、自然でなめらかな高画質記録を実現します。

1) カメラ 16 台接続時の合計フレームレート最大値。1 台あたりのフレームレートは 30 fps。ハードディスク内のフラグメンテーション（断片化）により低下する場合があります。値は、弊社内環境での測定によるものです。お客様の環境によって性能は変化するため、必ずしもこの値を保証するものではありません。
2) QuadVGA（1280 × 960）の解像度の場合にはフレームレートは VGA の 1/4 になります。

高信頼性の実現

NSR-1200 は RAID 5[1] に対応し、高信頼性を実現しています。仮にハードディスクのうち 1 台が故障した場合でも、システムの運用が継続できます。さらに、UPS（無停電電源装置）[2]にも対応し、システムとしての高い信頼性を実現しています。

1) RAID 5 とは、データだけでなくパリティと呼ばれる誤り訂正符号も複数のハードディスクに分散して記録するシステムです。これにより 1 台のハードディスクが故障しても、運用を継続可能とする仕組みですが、データ復旧を保証するシステムではありません。また、故障したハードディスクを交換後の再構築中は、内部処理の負荷が高くなりますので、設定している記録レートで画像を記録できなくなる場合があります。
2) 本機が動作中に、突然電源が切れた場合、データが壊れる可能性があります。
データを保護するために、UPS（無停電電源装置）を必ずお使いください。

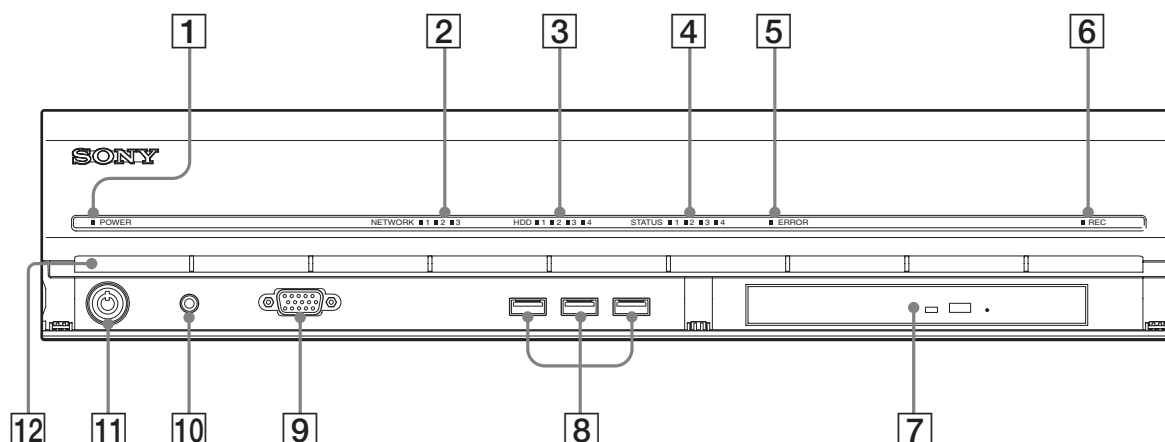
その他の機能

- 2 × 2、3 × 3 といったの標準的なレイアウトだけではなく、柔軟な配置ができるカスタムレイアウトにも対応しています。
- マニュアル記録、スケジュール記録、アラーム記録などの多彩な記録モードをサポートしています。
- レコーダーによる動体検知機能[1]（Video Motion Detection（レコーダー））を標準装備しています。
- カメラ名、日時、アラームなどをキーにして、記録画像を検索できます。
- 画像の特定部分を覆い隠し、プライバシー保護などに利用できるダイナミックマスキング機能[2]を標準搭載しています。マスキングエリアはパン（左右）、チルト（上下）やズーム（拡大）にも追従します。
- カメラから配信される画像処理結果である物体情報のメタデータを用いた各種フィルタリング[3] を行うことによって、高度なアラーム処理が可能となりました。記録済みのメタデータに対してもフィルタリングが可能なため、記録後に、気になる部分について検索できます。
- サポートされているネットワークカメラからの音声の記録／再生[4]にも対応しています。

1) 接続するカメラの台数によっては、機能に制限があります。
2) 接続するカメラの機種によっては、機能に制限があります。
3) メタデータを使用して動体、不動体検知を行う場合は、動体検知メタデータに対応しているカメラが必要です。メタデータの利用は、32 台までを推奨しています。
4) 別売のオーディオアンプやスピーカーが必要です。

各部の名称

前面（カバーを開けた状態）

NSR-1200/1100/1050H

1 **POWER LED**
電源が入ると、緑色に点灯します。
スタンバイモードのときはアンバー色に点灯します。

2 **NETWORK LED（1 ～ 3）**
背面の LAN コネクター（1 ～ 3）にそれぞれアクティビティがあるときに緑色に点灯します。

3 **HDD LED**
内蔵ハードディスクのアクセス時に緑色に点滅します。
ハードディスクにエラーが発生したときはアンバー色に点灯します。

4 **STATUS LED（1 ～ 4）**
本機の起動時に、1 → 2 → 3 → 4 の順で点灯します。
また、エラーが発生したときには、ERROR LED が点灯／点滅するとともに STATUS LED が点灯し、エラーの内容を表示します。
詳細は、「STATUS LED の見かた」（137 ページ）を参照してください。

5 **ERROR LED**
エラーが発生した場合に点灯／点滅します。

6 **REC LED**
画像の記録中に点灯します。

7 **DVD/CD ドライブ**
本機の内蔵ハードディスクに保存されているデータを、DVD、CD メディアに記録できます。

8 **USB 端子**
USB キーボード、USB マウス、USB フラッシュメモリーや、システムコントローラー（RM-NS1000）を接続します。

9 **モニター端子 1**
モニターを接続します。
モニター端子 1（後面のモニター端子 1 を含む）と後面の HDMI 端子 1 は、同時には使用できません。

10 **電源スイッチ**
押すと、電源が入ります（電源を切ることはできません）。

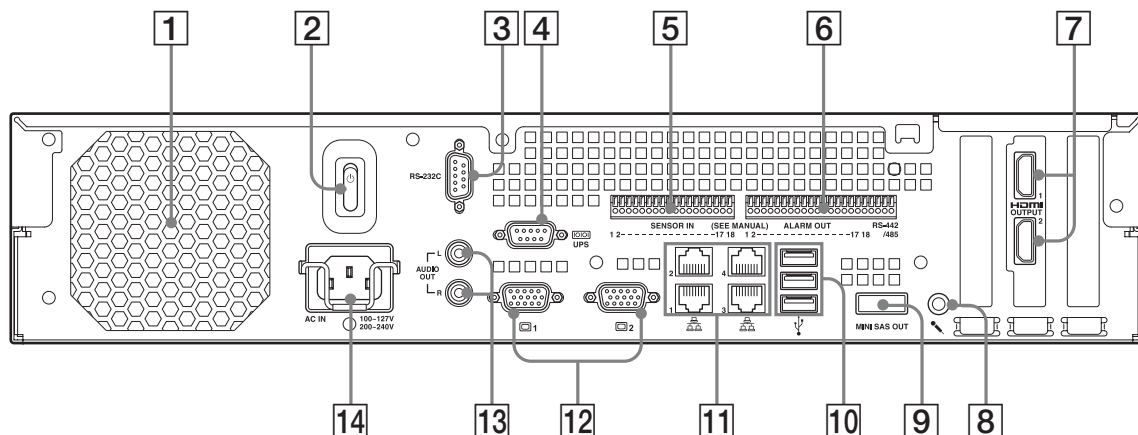
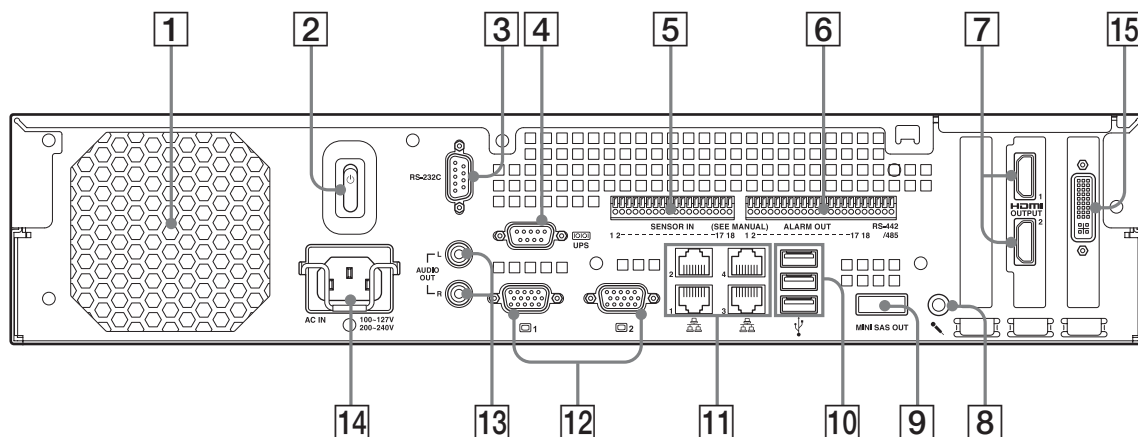
11 **鍵穴**
付属の HDD トレイ施錠鍵を使って、フロントベゼルをロックします。ロック時には、フロントベゼルは引き出せません。また、フロントベゼルを引き出した状態でロックしないでください。
ロック時とロック解除時の鍵穴の位置は、以下のとおりです。

ロック時

ロック解除時

12 **通風孔**
本体前面から背面へのエアフローの入り口です。
通風孔をふさいだり、通風孔の内側のメッシュにほこりがたまったりして、エアフローが妨げられないようにしてください。エアフローが妨げられると内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

背面

NSR-1200/1100

NSR-1050H

1 **ファン**
ファンの通風孔をふさがないように注意してください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

2 **電源スイッチ**
⏻ の方に押すと、電源が入ります。

3 **RS-232C 端子**
アナログカメラをコントロールする場合に使用します。RS-422/485 端子（6 のアラーム出力端子の右側 4 ピン）と同時には使用できません。

4 **UPS（RS-232C）端子**
UPS（無停電電源装置）のコントロール系を接続します。
UPS で自動シャットダウンを行う場合は、別途設定が必要です。「セットアップメニュー」の「UPS」画面で［Enable］を選択し、お使いの UPS に合わせてプロトコルを設定します。詳しくは、「「UPS」画面の設定項目」（20 ページ）をご覧ください。

5 **センサー入力端子**
センサーを接続します。
接続のしかたとセンサー入力への配線図については、「I/O ポートについて」（135 ページ）を参照してください。

6 **アラーム出力端子**
アラームを接続します。
接続のしかたとアラーム出力への配線図については、「I/O ポートについて」（135 ページ）を参照してください。

7 **HDMI モニター端子（1、2）**
HDMI 入力に対応したモニターを接続します。
HDM I モニター端子 1 と 12 のモニター端子 1（前面のモニター端子 1 を含む）、HDM I モニター端子 2 と 12 のモニター端子 2 は、それぞれ同時には使用できません。

8 **マイク入力端子（将来拡張用）**
マイクからの音声を入力します。
プラグインパワー式マイクに対応しています。

9 **ミニ SAS 出力端子**
NSRE-S200 に接続するためのミニ SAS ケーブルを接続します。
NSRE-S200 は、別売の拡張ストレージユニットです。

10 **USB 端子**
USB キーボード、USB マウス、USB フラッシュメモリーや、システムコントローラー（RM-NS1000）を接続します。

11 **LAN 端子（1 ～ 4）**
10 Base-T/100 Base-TX/1000 Base-T のネットワークケーブルを接続します。
LAN1：ネットワークカメラ [1)]
LAN2：ネットワークカメラ [1)]（LAN1 と別のセグメントを使用する場合のみ LAN2 の使用が可能です。）

1) リモートクライアントは「サーバー設定」画面の［リモートクライアントとのネットワークインターフェイス］で指定したネットワーク（LAN1 または LAN2 のどちらか一方）に接続してください。「サーバー設定」画面については、「サーバーに関する設定をする」（22 ページ）をご覧ください。

LAN3：iSCSI ストレージ [2)]
LAN4：iSCSI ストレージ [2)]

2) iSCSI ストレージをお使いになる場合は、お買い上げ店にご相談ください。

12 **モニター端子（1、2）**
モニターを接続します。
モニター端子 1（前面のモニター端子 1 を含む）と 8 の HDMI モニター端子 1、モニター端子 2 と 8 の HDMI モニター端子 2 は、それぞれ同時には使用できません。

13 **オーディオ出力端子 (L/R)**
音声を出力します。

14 **電源端子**
付属の電源コードを接続します。

15 **アナログカメラケーブル入力端子**
アナログカメラを接続するためのアナログカメラ入力用ケーブルを接続します。
この端子は、NSR-1050H には標準で装備されていますが、NSR-1200/1100 の場合は NSBK-A16/A16H（オプション）の増設が必要です。

必要なシステム

本機を操作するために必要なハードウェアは以下のとおりです。

- ネットワークカメラ
  本機で使用できるネットワークカメラについては、お買い上げ店にお問い合わせください。
- モニター 1)
- USB キーボード 2)
- USB マウス 3)
- USB リモコン 4)
- ネットワークスイッチ
- 1000 Base-T/100 Base-TX/10 Base-T ケーブル
- USB フラッシュメモリー 5)

1) 本機で使用できるモニターは、HDMI 対応機器および RGB 入力対応のコンピューターディスプレイです。
   指定できる解像度は、以下のとおりです。
   - フルハイビジョン（1,920 × 1,080）
   - WUXGA（1,920 × 1,200）
   - フルワイド XGA（1,360 × 768）
   - UXGA（1,600 × 1,200）
   - SXGA（1,280 × 1,024）
   - XGA（1,024 × 768）
2) USB キーボードは、ケーブル接続タイプをお使いください。無線接続や赤外線接続タイプの USB キーボードでは動作しない場合があります。また、拡張ボタンなど、標準以外の機能も動作しない場合があります。
3) USB マウスは、ケーブル接続タイプをお使いください。無線接続や赤外線接続タイプの USB マウスでは動作しない場合があります。また、3 ボタンやホイール以外の機能も動作しない場合があります。
4) カメラのパン、チルト、ズームのコントロールを行う際にリモコンを使用できます。
   - USB リモコンは、RM-NS1000 および CH Products 社の IP Desktop USB に対応しています。他のリモコンはお使いになれません。また、リモコンの接続は 1 台だけにしてください。
5) ログなどのシステム情報を取得するために必要です。
   - USB フラッシュメモリーは、一般的な USB 2.0 マスストレージに対応しています。USB 2.0 マスストレージでも一部の製品によってはデータの書き込みの際にエラーとなる可能性があります。書き込みの際にエラーが発生した場合には、別の機種の USB フラッシュメモリーをお使いください。
     また、USB フラッシュメモリーは、FAT32 フォーマットのみ対応しています。

設置参考データ

消費電流および、突入電流

機種	電源	消費電流	突入電流
NSR-1200	100 V	2.66 A	13 A
	220 V	1.14 A	
NSR-1100	100 V	1.84 A	
	220 V	0.79 A	
NSR-1050H	100 V	1.75 A	
	220 V	0.76 A	
NSRE-S200	100 V	0.79 A	
	220 V	0.34 A	

記録データ容量

NSR-1200/1100/1050H や別売の拡張ストレージの構成、およびハードディスクドライブの容量 1) は、NSR-1000 シリーズの「ログオン」画面で［情報］をクリックし、表示される「情報」画面で確認することができます。実際に記録を行えるストレージの容量 2) も同様に、「サーバー」画面の［ストレージ］タブで確認できます。

1) ハードディスクドライブの容量計算に関しては、1 GB を 1,000 × 1,000 × 1,000 ＝ 10 億バイトとして計算しています。
2) ストレージの容量に関しては、1 GB を 1,024 × 1,024 × 1,024 ＝約 10 億 7,374 万バイトとして計算しています。

カメラ台数について

最大カメラ台数

機種	最大カメラ台数
NSR-1200	64 台
NSR-1100	32 台
NSR-1050H	20 台

最大カメラ台数のうち、最大アナログカメラ台数

機種	最大アナログカメラ台数
NSR-1200	16 台（NSBK-A16/A16H（オプション）の増設時）
NSR-1100	16 台（NSBK-A16/A16H（オプション）の増設時）
NSR-1050H	16 台

最大音声チャンネル数

機種	最大音声チャンネル数
NSR-1200	64
NSR-1100	32
NSR-1050H	20

管理メニュー

概要

「管理メニュー」では、NSR の起動時にセットアップウィザードで行った初期設定を変更したり、サーバーに関する設定や操作が行えます。
本章では、「管理メニュー」の以下の設定や操作について説明します。

- 「管理メニュー」を表示する（13 ページ）
- 「セットアップメニュー」で初期設定を変更する（14 ページ）
- サーバーに関する設定をする（22 ページ）
- パッチファイルをインストールする（24 ページ）
- 構成データを保存／復元する（25 ページ）
- システム情報をエクスポートする（27 ページ）

メモ

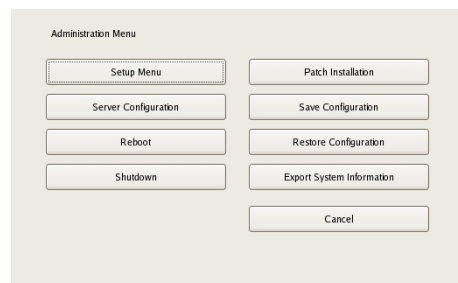
再起動とシャットダウンの操作については、第 3 章「電源を切る／再起動する」（34 ページ）をご覧ください。

「管理メニュー」を表示する

1 「ログオン」画面で、ユーザー名とパスワードを入力し、［管理メニュー］をクリックする。

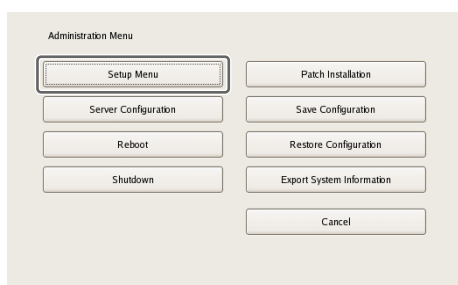
メモ

すでに NSR にログオンしているときは、メイン画面右上の ⏻/👤 をクリックし、表示されるダイアログでログオフすると、「ログオン」画面が表示されます。

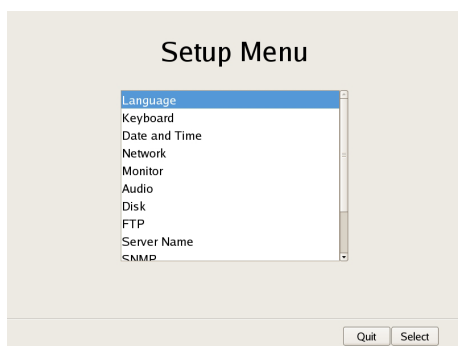
「管理メニュー」画面が表示されます。

「セットアップメニュー」で初期設定を変更する

「セットアップメニュー」で、NSR の起動時にセットアップウィザードで行った初期設定などを変更できます。

「セットアップメニュー」を表示する

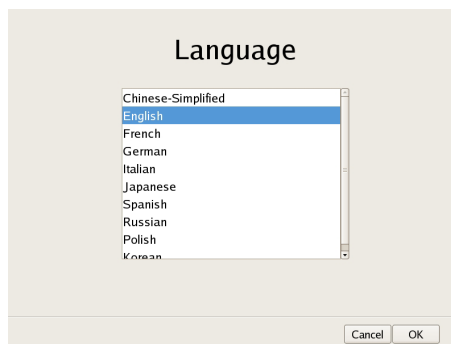
1 「管理メニュー」で、［セットアップメニュー］をクリックする。

［管理メニュー］の項目は、サーバー、クライアントによって異なります。

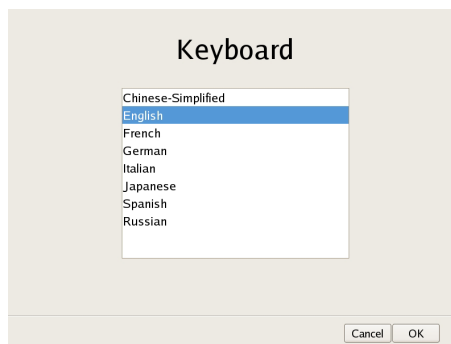
「セットアップメニュー」画面が表示されます。

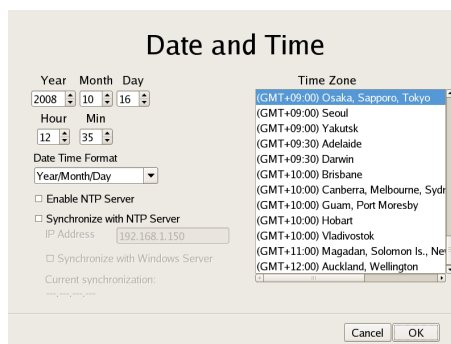
2 設定したい項目を選択し、［選択］をクリックする。

項目に応じた画面が表示されます。

設定項目の詳細

「Language」画面の設定項目

画面に表示する言語を選択し、［OK］をクリックします。

「Keyboard」画面の設定項目

NSR に接続している USB キーボードの言語を選択し、［OK］をクリックします。

「Date and Time」画面の設定項目

本機の日付けと時刻を設定し、［OK］をクリックします。

Year/Month/Day

年月日を入力します。

Hour/Min

時刻を入力ます。

Date Format

日付けと時刻の形式を選択します。

Enable NTP Server

NSR の NTP サーバーを有効するときにチェックマークを付けます。

ご注意

NSR の NTP サーバーを有効にした場合、他の NTP サーバーから情報を取得する設定も行ってください。設定しない場合、時刻のずれが大きくなります。

Synchronize with NTP Server

ほかの NTP サーバーから現在の時刻を取得するときにチェックマークを付けます。

IP Address

情報を取得する NTP サーバーの IP アドレスを入力します。

Synchronize with Windows Server

NTP サーバーとして Windows サーバーを使用したときに時刻の同期ができない場合にチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けると、Windows の NTP サーバーに強制的に時刻同期をするようになります。

Current Synchronization

現在情報を取得している NTP サーバーの IP アドレスが表示されます。

Time Zone

日付と時刻を設定する地域を選択します。

メモ

夏時間の有効／無効の指定はありません。夏時間があるタイムゾーンを選ぶと、自動的に夏時間調整が行われます。

「Network Device Menu」画面の設定項目

ネットワークの設定には、一般設定の「General Network」と LAN 端子を設定する「Network Device1 ～ 3」があります。
設定したいネットワークを選択し、［OK］をクリックします。

ご注意

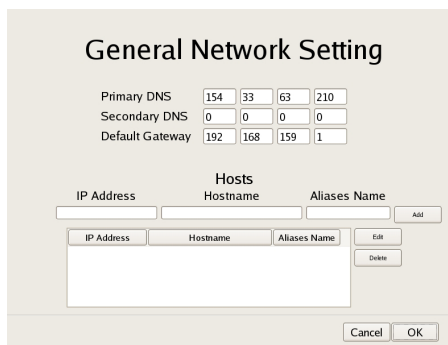
各 LAN 端子に以下の機器を接続してください。
LAN1：ネットワークカメラ [1)]
LAN2：ネットワークカメラ [1)]（LAN1 と別のセグメントを使用する場合のみ LAN2 の使用が可能です。）

1) リモートクライアントは「サーバー設定」画面の［リモートクライアントとのネットワークインターフェイス］で指定したネットワーク（LAN1 または LAN2 のどちらか一方）に接続してください。「サーバー設定」画面については、「サーバーに関する設定をする」（22 ページ）をご覧ください。

LAN3：iSCSI ストレージ [2)]

2) iSCSI ストレージをお使いになる場合は、お買い上げ店にご相談ください。

■「General Network」画面の設定項目

各項目を設定し、［OK］をクリックします。

Primary DNS

プライマリ DNS（Domain Name Server）の IP アドレスを入力します。
プライマリ DNS がない場合や必要としない場合は、入力しないでください。

Secondary DNS

セカンダリ DNS の IP アドレスを入力します。セカンダリ DNS がない場合や必要としない場合は、入力しないでください。

Default Gateway

デフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力します。ローカルネットワークのみの場合や他のネットワークへの接続が必要ない場合は、入力しないでください。

Hosts

ホスト名の登録が必要な場合に、IP アドレスとホスト名の組み合わせを入力し、[追加] をクリックして、一覧に追加します。

■「Network Device1 ～ 3」画面の設定項目

各項目を設定し、[OK] をクリックします。

お使いの環境に応じて、以下のように設定してください。

DHCP を利用してアドレス設定を自動取得する場合
[DHCP] を選択します。
アドレス設定を手動で行う場合
① [Static] をクリックする。
② 以下のアドレスを入力する。

IP Address

IP アドレスを入力します。

ご注意

- IP アドレスは、同じネットワーク上に同じ値を使用しているマシンが存在しないことを確認してから、入力してください。同じ値を使用しているマシンがすでに存在していても、エラーメッセージは表示されません。複数のマシンで同じ値を使用すると、誤動作の原因になりますのでご注意ください。
- IP アドレスの割り当て規則上、禁止されているアドレスを設定しても、システムには反映されません。
  例：224.0.0.0 ～ 255.255.255.255
  0.0.0.0
  127.0.0.1 など

Netmask

サブネットマスクを入力します。

メモ

ネットワークデバイスのデフォルト値は、以下のとおりです。
IP Address：192.168.［0/1/2］[1].1
Netmask：255.255.255.0
1) ネットワークデバイス［#1/#2/#3］ごとの設定値です。

Route Setting

別のネットワークへのルートを設定する必要がある場合にクリックします。
表示される「Route For Network Device 1」画面で、以下のように設定します。

① 接続する別のネットワークのアドレス、ゲートウェイ、ネットマスクを入力し、[追加] をクリックして、一覧に追加します。
詳しくは、接続するネットワークの管理者にお問い合わせください。
② [OK] をクリックする。

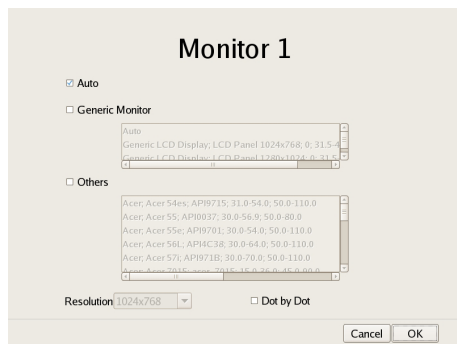
「Monitor Menu」画面の設定項目

設定するモニターを選択し、[選択] をクリックします。
NSR に 2 台のモニターを接続して使用する場合は、[Dual Head] にチェックマークを付けると、2 番目のモニターを設定できます。

ご注意

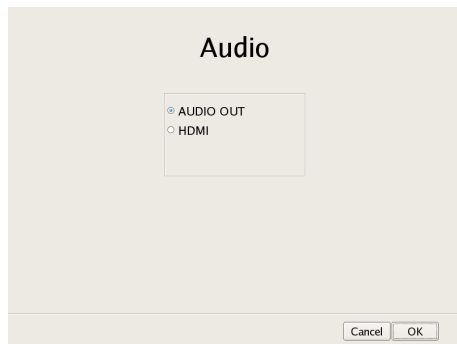
2 番目のモニターを設定した場合は、2 番目のモニターを接続した状態での再起動が必要です。

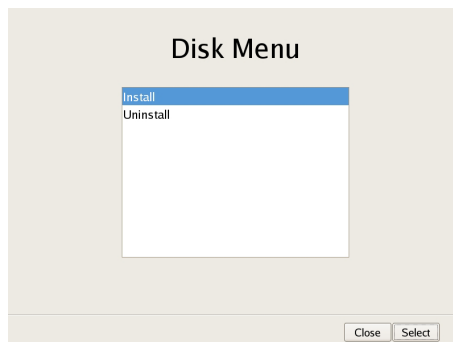
■「Monitor 1 ～ 2」画面の設定項目

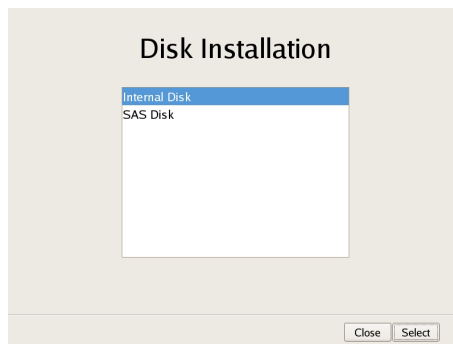
本機に接続しているモニターの種類と解像度を選択し、［OK］をクリックします。
［Auto］を選択すると、接続されているモニターの種類と解像度を自動検出して設定します。

メモ

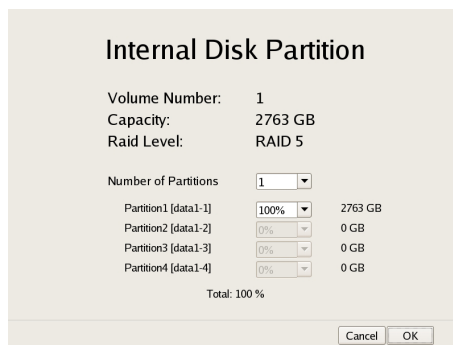
HDMI モニターに接続する場合、はみ出し防止のため映像が縮小されて表示され、文字がにじんだり映像がつぶれたりすることがあります。［Dot By Dot］にチェックマークを付けると、拡大／縮小などの処理を加えずに映像データの1ピクセルをモニターの1ドットに対応させて表示しますので、よりきれいな画質で表示できる場合があります。なお、モニター側の設定が必要な場合もありますので、お使いのモニターの取扱説明書をあわせて参照してください。

「Audio」画面の設定項目

使用する音声端子を選択し、［OK］をクリックします。

「Disk Menu」画面の設定項目

ハードディスクドライブに関する操作を選択し、［選択］をクリックします。

■「Disk Installation」画面の設定項目

操作したいハードディスクドライブを選択し、［選択］をクリックします。

■「Internal Disk Partition」画面の設定項目

内蔵ハードディスクドライブのパーティションを設定し、［OK］をクリックします。

Capacity

内蔵ハードディスクドライブの容量が表示されます。

Raid Level

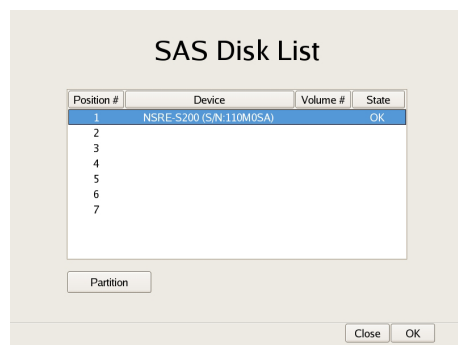
RAID タイプが表示されます。

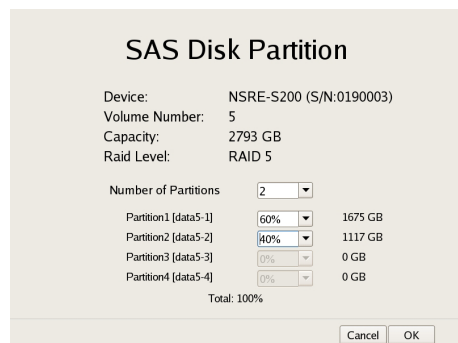
Number of Partitions

パーティションの数を選択します。

Partition1［data1-1］
各パーティションに割り当てる容量を％で選択します。

■「SAS Disk List」画面の設定項目
パーティションの設定をしたいNSRE-S200を選択し、［Partition］をクリックします。設定が終了したら、［OK］をクリックします。
（この画面は、NSRE-S200を接続しているときに表示されます。）

ご注意

NSRE-S200を接続している場合は、UPSを使用してください。

■「SAS Disk Partition」画面の設定項目
NSRE-S200の内蔵ハードディスクドライブのパーティションを設定し、［OK］をクリックします。

Capacity
内蔵ハードディスクドライブの容量が表示されます。

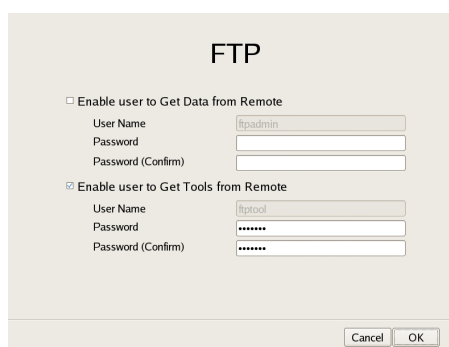
Number of Partitions
パーティションの数を選択します。

Partition1［data1-1］
各パーティションに割り当てる容量を％で選択します。

■「Disk Uninstalltion」画面の設定項目
削除したいハードディスクドライブを選択し、［Uninstall］をクリックします。設定が終了したら、［OK］をクリックします。
ハードディスクをアンインストールすると、ハードディスク内のデータはすべて削除されます。

ご注意

特に複数パーティションで運用しているハードディスクドライブをアンインストールすると、「サーバー設定」画面の［ストレージ］タブ内で登録されている複数の論理ボリュームも自動的に削除されます。削除する前に［ストレージ］タブで、登録されているストレージを削除してもよいかを確認してからハードディスクのアンインストールを行ってください。
サーバーの［ストレージ］タブについては「ストレージに関する設定をする」（74ページ）をご覧ください。

「FTP」画面の設定項目
FTPサーバー機能を有効にするときに各項目を設定し、［OK］をクリックします。

Enable user to Get Data from Remote
リモートクライアントからFTPを使って、記録データをダウンロードするときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、パスワードを設定します。

User Name

ユーザー名が表示されます。ユーザー名は「ftpadmin」です。
ユーザー名は変更できません。

Password

パスワードを入力します。

Enable user to Get Tools from Remote

リモートクライアントから FTP を使って、取扱説明書やその他ドキュメント、ツールをダウンロードするときにチェックマークを付けます。
デフォルトでは有効になっています。

User Name

ユーザー名が表示されます。ユーザー名は「ftptool」です。
ユーザー名は変更できません。

Password

パスワードを入力します。デフォルトは「ftptool」で設定されています。

メモ

ユーザー名とデフォルトのパスワードは、ともに「ftptool」です。

「Server Name」画面の設定項目

NSR のサーバー名を入力し、[OK] をクリックします。

メモ

サーバー名を設定しない場合は、初期値として、NSR の MAC アドレスの下 4 桁が末尾に付与された「NSR1050_DB12」などの名称が設定されています。
サーバー名にスペースは使用しないでください。

「SNMP Menu」画面の設定項目

SNMP コミュニティを設定する場合は [Agent] を、SNMP トラップの設定をする場合は [Traps] を選択し、[OK] をクリックします。

■「SNMP Agent」画面の設定項目

各項目を設定し、[OK] をクリックします。

Enable

SNMP エージェント機能を有効にするときに選択します。

Disable

SNMP エージェント機能を無効にするときに選択します。

Community

SNMP コミュニティ名を入力します。

Contact

連絡先を入力します。
通常は、システム管理者のメールアドレスを入力します。

Location

NSR の設置場所を入力します。

メモ

オブジェクト ID「.1.3.6.1.2.1.1」および「.1.3.6.1.2.1.25.1.1」で表される「System」および「SystemUptime」の MIB-2 オブジェクトを取得できます。

■「SNMP Traps」画面の設定項目

各項目を設定し、［OK］をクリックします。

Enable

SNMP トラップを有効にするときに選択します。

Disable

SNMP トラップを無効にするときに選択します。

Host IP Address

トラップホストの IP アドレスを入力します。

Community

SNMP コミュニティ名を入力します。

Shutdown Events

NSR のシャットダウン時に通知します。

Temperature Events

NSR の温度上昇時に通知します。

Voltage Events

電圧異常時に通知します。

Fan Events

ファンの異常時に通知します。

UPS Events

UPS を接続している場合、UPS が停電を検出したときと停電からの復帰を検出したときに通知します。

Power Events

電源異常時に通知します。

HDD Events

ハードディスクドライブが故障したときに通知します。

RAID Events

RAID グループの再構築（リビルド）時に通知します。

File System Event

ファイルシステムの異常時に通知します。

Network Events

ネットワークデバイスの異常時に通知します。

Resource Usage Events

ハードディスクドライブの管理領域や CPU の使用率が異常に高いときに通知します。

SAS Events

接続している NSRE-S200 の異常時に通知します。

「UPS」画面の設定項目

UPS に関する設定を行い、［OK］をクリックします。

Enable

UPS を使用するときに選択します。
ここを選択したときは、UPS の一覧から使用する UPS の種類を選択します。

ご注意

動作中に突然電源が切れた場合、データが壊れる可能性があります。特に NSRE-S200 などの拡張ストレージとあわせてお使いになる場合は、UPS を使用してください。

Disable

UPS を使用しないときに選択します。

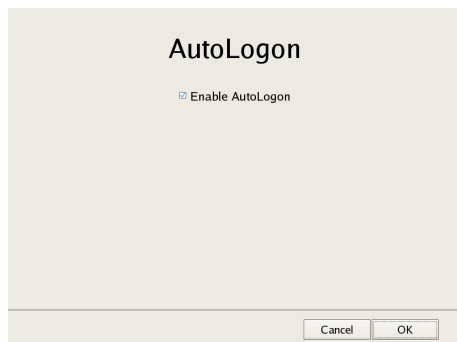
Power off in XXX Seconds

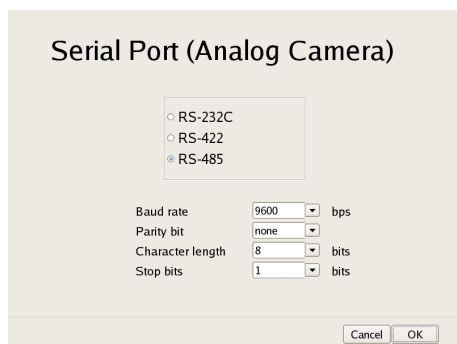
停電を検出してからシャットダウンを開始するまでの時間を入力します。

ご注意

停電復旧後の電源の自動起動に関しては、お買い上げ店にお問い合わせください。

「AutoLogon」画面の設定項目

自動ログオン機能を有効にするときに［Enable Auto Logon］にチェックマークを付け、［OK］をクリックします。

「Serial Port（Analog Camera)」画面の設定項目

アナログカメラの接続に関する設定を行います。
各項目を設定し、［OK］をクリックします。
（この画面は、NSR-1050H または NSBK-A16/A16H（オプション）が装着されている場合に表示されます。）

シリアル規格（RS-485、RS-422、RS-232C）

コントロールしたいアナログカメラと接続するシリアル規格を選択します。

Baud rate

通信ボーレートを選択します。

Parity bit

パリティビットを選択します。

Character length

キャラクター長を選択します。

Stop bits

ストップビットを選択します。

「Video（Analog Camera)」画面の設定項目

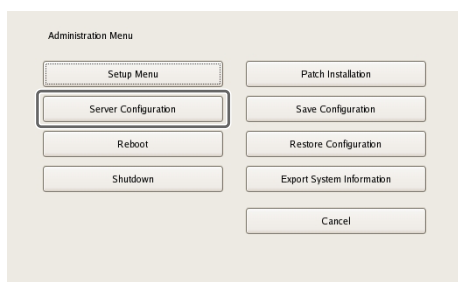
接続するアナログカメラのビデオフォーマットを選択し、［OK］をクリックします。
（この画面は、NSR-1050H または NSBK-A16/A16H（オプション）が装着されている場合に表示されます。）

「Camera Auto Registration」画面の設定項目

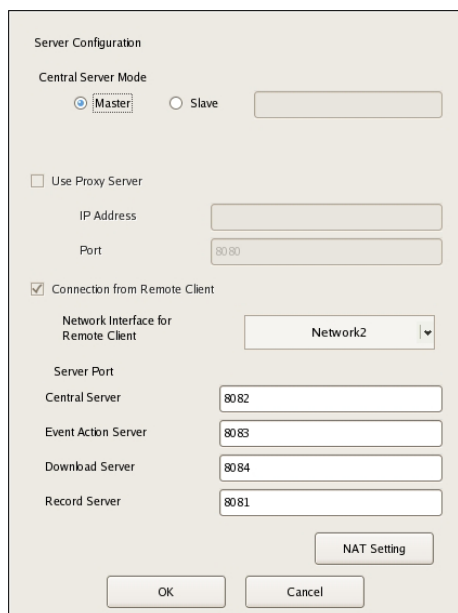
カメラ自動登録機能を有効にするときに［起動時にカメラ自動登録確認ダイアログを表示する］にチェックマークを付け、［OK］をクリックします。
ここにチェックマークを付けると、本機の起動時に「カメラ自動登録」画面が表示されます。

サーバーに関する設定をする

ユーザーのネットワーク環境に合わせてネットワークの設定を変更したい場合や、複数の NSR や RealShot Manager Advanced を共に使用し、ユーザー管理を一元化したい場合などに設定します。

1 ［管理メニュー］画面で、［サーバー設定］をクリックする。

［管理メニュー］メニューの項目は、サーバー、クライアントによって異なります。

「サーバー設定」画面が表示されます。

2 各項目を設定し、［OK］をクリックする。

セントラルサーバーモード

複数台の NSR や RealShot Manager Advanced（Server）を 1 つのシステムとして管理したい場合[1)] や RealShot Manager Advanced（Client）から接続したい場合に設定します。
システムの中でユーザーなどを一元管理するマスターサーバーは 1 台、スレーブサーバーは複数台設定できます。

1) 複数のサーバーで共通のユーザー管理を行いたい場合や、RealShot Manager Advanced（Client）から接続したい場合

［マスター］または［スレーブ］を選択します。
［スレーブ］を選択したときは、接続するマスターサーバーのアドレスを入力してください。
マスターからスレーブに変更すると、ローカルで設定していたユーザー情報は破棄され、マスターのユーザー情報が利用されます。
この設定を変更する場合は、基本的にインストール直後に行ってください。
変更を行うと、システムは再起動します。

プロキシサーバー設定

セントラルサーバーのスレーブサーバーとマスターサーバーとの接続にプロキシサーバーを使用するときにチェックマークを付けます。

IP アドレス

プロキシサーバーの IP アドレスを入力します。

ポート

プロキシサーバーのポート番号を入力します。

リモートクライアントからの接続

リモートクライアントから接続するときにチェックマークを付けます。

リモートクライアントとのネットワークインターフェイス

リモートクライアントとの接続に使用するネットワークを選択します。

サーバーポート

セントラルサーバー

セントラルサーバーのポート番号を設定します。

イベントアクションサーバー

イベントアクションサーバーのポート番号を設定します。

ダウンロードサーバー

ダウンロードサーバーのポート番号を設定します。

記録サーバー

記録サーバーのポート番号を設定します。

NAT 設定

「NAT 設定」ダイアログ（23 ページ）が表示されます。
ブロードバンドルーターを介して、インターネット経由などの外部のネットワークに接続したクライアントからサーバーに接続する場合に設定します。

ご注意

- ［スレーブ］に変更する際は、マスターサーバーに「admin」以外のユーザーを登録し、そのユーザーを使用してください。そのユーザーのレベルは「Level5」である必要があります。
- セントラルサーバーモードやサーバーポートを変更したときは、メッセージが表示され、システムが再起動します。
- リモートクライアントとのネットワークインターフェイスを変更したときは、再起動が必要です。
  サーバーモードを変更する場合には、事前にネットワークインターフェイスの設定を変更し、再起動を行ってください。

「NAT 設定」ダイアログの設定項目

ブロードバンドルーターのポートフォーワードに関する設定を行います。
ルーターが UPnP 機能を持っている場合は、UPnP 機能を使用してルーターに設定できます。

- ［自動設定］を選択した場合は、UPnP を使用して、すべて項目が自動設定されます。ポート番号を指定したい場合は、［手動設定］を選択してください。
- ［自動設定］、［手動設定］にかかわらず、UPnP を使用すると、ルーターでの設定作業が不要となります。
- ［手動設定］で UPnP を使用しない場合は、ルーター側で設定作業を行い、その内容を本ダイアログの各項目に入力してください。

本ダイアログは、「サーバー設定」画面（22 ページ）で［NAT 設定］をクリックすると表示されます。
各項目を設定したら、［OK］をクリックします。

メモ

外部のネットワークのクライアントから接続しない場合は、本設定は不要です。

自動設定

ルーターに対して自動で設定を行います。

UPnP

［自動設定］を選択した場合は、［使用する］に自動的にチェックマークが付きます。

手動設定

ポート番号やグローバル IP アドレスを指定します。
ここを選択したときは、［サーバーポート］や［アドレス（WAN 側）］の各項目を入力してください。

UPnP

UPnP 機能を使用する場合は、［使用する］にチェックマークを付けます。

サーバーポート

セントラルサーバー、イベントアクションサーバー、ダウンロードサーバー、記録サーバーの WAN 側のポート番号を入力します。
LAN 側のポート番号は表示のみで、設定できません。

アドレス（WAN 側）

グローバル IP アドレスを入力します。

登録

設定を登録します。

メモ

クライアントから接続する場合は、クライアントのログオンサーバーとして、上記の［アドレス］と［サーバーポート］の［セントラルサーバー］に表示されているポート番号を使用します。

ご注意

- インターネット側（WAN 側）からのセキュリティを保つ場合、ルーターなどのファイアウォール機能によって、設定したポートのセキュリティが保たれていることを確認してください。[1)]
- ルーターなどによってセキュリティが保たれていない場合は、WAN 側のポートから NSR にアクセスされるおそれがあります。セキュリティを確保するため、定期的にパスワードを変更するなどして、他者からのログオンから守るための設定を行ってください。[2)] パスワードの変更については、「パスワードを変更する」（33 ページ）をご覧ください。
- NSR にログオンされた場合、以下のようなおそれがあります。[3)]
  - NSR の設定を変更される。
  - カメラからの画像や記録画像が閲覧されたり、操作されたりしてしまう。
- お使いのルーターや環境によっては、外部ネットワークから接続できない場合があります。

1）ルーターのセキュリティ設定については、ルーターの取扱説明書を参照するか、各ルーターメーカーにお問い合わせください。
2）パスワードの変更は、必ずしも他者からログオンされないことを保証するものではありません。
3）ソニー株式会社は、このような不利益がお客様に発生した場合、一切の責任を負いかねます。自己の責任において設定を行ってください。

パッチファイルをインストールする

ソニーから配布されたパッチファイルを NSR にインストールできます。
パッチファイルは、NSR でサポートするカメラが追加されたときや機能追加されたときなどに配布されます。パッチファイルをインストールし、最新のソフトウェアで運用することをおすすめします。
パッチファイルの提供については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

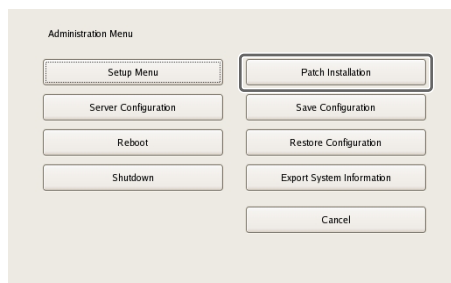
1 パッチファイルを USB フラッシュメモリーや CD/DVD にコピーする。

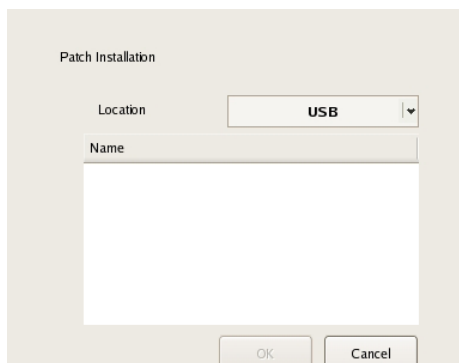
ご注意

絶対にパッチファイルのファイル名などを変更しないでください。

メモ

USB フラッシュメモリーは、FAT32 フォーマットのみ対応しています。

2 「管理メニュー」画面で、［パッチインストール］をクリックする。

「パッチインストール」画面が表示されます。

3 パッチファイルが格納されているメディアを選択する。

一覧にパッチファイル名が表示されます。

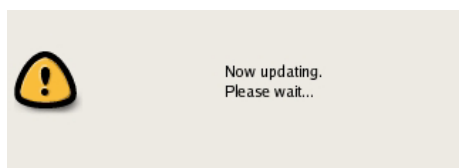
4 パッチファイル名を確認し、[OK]をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

5 メッセージの内容を確認し、[はい]をクリックする。

ご注意

パッチファイルによっては、インストール後、自動的にNSRがリブートします。リブートが必要な場合は、確認画面が表示されます。運用が止められない場合は、[いいえ]を選択してインストールを中止し、リブートしても問題ないタイミングのときに再度行ってください。

パッチファイルのインストール中は、以下の画面が表示されます。

インストールが終了すると、パッチファイルが適用されます。
ソフトウェアのバージョンは、再起動後のログオン画面の[情報]から確認できます。該当のバージョンにアップデートができたかどうか確認してください。

構成データを保存／復元する

NSRの構成データを外部メディアに保存したり、保存されている構成データを復元したりすることができます。

メモ

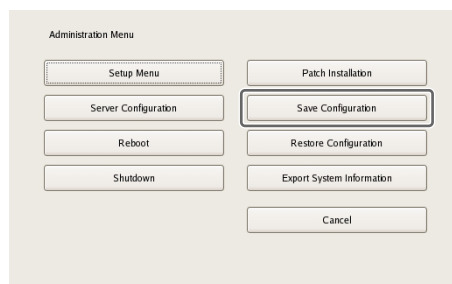
構成データには、NSRの各種設定が含まれます。以前の設定に戻したいときなど、構成データを復元することによって簡単に設定を行うことができます。
設定を変更した場合や、バージョンアップをした後など、定期的に構成データを保存しておくことをおすすめします。

構成データを保存する

保存される構成テータは、基本的にログオン画面の「管理メニュー」の「サーバー設定」画面で設定した内容と、ログオン後の設定画面で設定した内容になります。

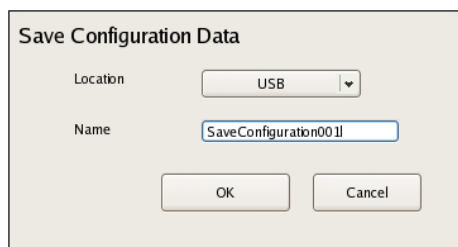
ご注意

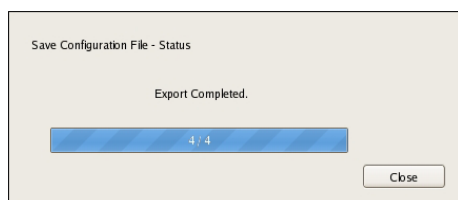
以下の情報は保存されませんので、注意してください。
- 記録レコード
- ログ情報

1 「管理メニュー」画面で、[構成データの保存]をクリックする。

[管理メニュー]メニューの項目は、サーバー、クライアントによって異なります。

「構成データの保存」画面が表示されます。

2 構成データを保存するメディアを選択し、構成データのファイル名を入力して、［OK］をクリックする。

ファイル名は、半角英数字、一部の記号（.（ピリオド）、-（ハイフン）、_（アンダーバー））で入力します。

構成データのバックアップ中はプログレスバーが表示され、終了すると構成データが保存されます。

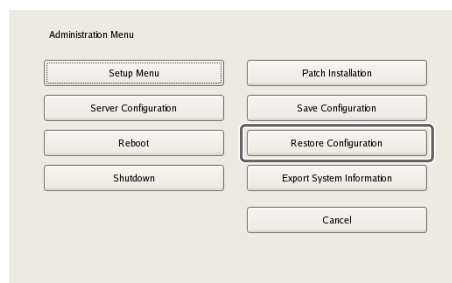
3 ［閉じる］をクリックする。

メモ

構成データの保存が終了すると、保存先に以下のファイルが作成されます。
＜構成データ保存名＞.item
＜構成データ保存名＞_db.tar.gz
＜構成データ保存名＞_img.tar.gz
＜構成データ保存名＞_os.tar.gz
＜構成データ保存名＞_preset.tar.gz
例）「Configuration001」という名前で構成データの保存を行った場合
以下の名前のファイルが作成されます。
Configuration001.item
Configuration001_db.tar.gz
Configuration001_img.tar.gz
Configuration001_os.tar.gz
Configuration001_preset.tar.gz

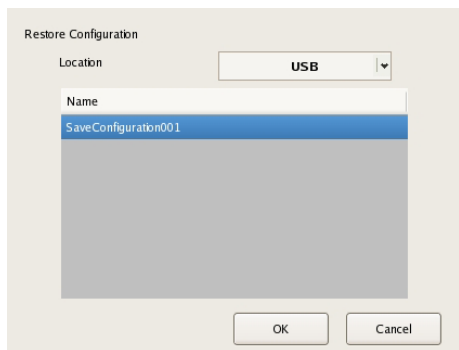
構成データを復元する

ご注意

- 以下の情報は復元されませんので、注意してください。
  - –記録レコード
  - –ネットワーク設定、時刻情報などのシステム設定（［セットアップメニュー］（14 ページ）の項目）
  - –ログ
- 外部ストレージ自体の設定は復元されませんので、外部ストレージの設定は、保存時と同じにしておく必要があります。
- 現在のソフトウェアバージョンの上位 2 桁（例：「.」で区切られた "a.b.c" の "a.b" の部分）が構成データの保存時と異なっている場合や、モデルが異なっている場合は、復元できません。
- 構成データを復元した際には、それまで動作していた記録動作が自動的に停止します。記録スケジュールを設定していた場合は、復元後、自動的に記録が再開します。マニュアル記録を行っていた場合は、再度マニュアル記録を開始する必要があります。

1 ［構成データの復元］をクリックする。

［管理メニュー］メニューの項目は、サーバー、クライアントによって異なります。

「構成データの復元」画面が表示されます。

2 構成データが保存されている場所と構成データを選択して、［OK］をクリックする。

この操作が NSR の再起動を伴うことについての確認メッセージが表示されます。

3 ［OK］をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

4 ［OK］をクリックする。

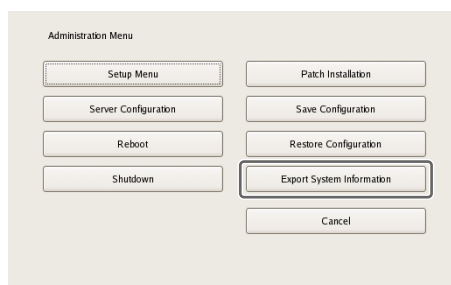
リストア中はプログレスバーが表示され、終了するとNSR が再起動し、構成データが復元されます。

システム情報をエクスポートする

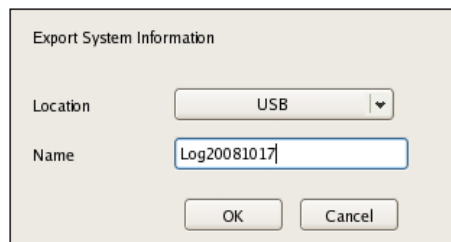
NSR のシステム情報をファイルとして外部メディアに保存できます。

メモ

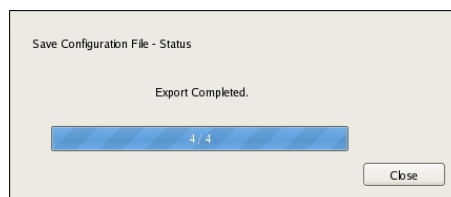
システム情報には、NSR のシステム構成情報やログが含まれます。

1 「管理メニュー」画面で、［システム情報エクスポート］をクリックする。

「システム情報エクスポート」画面が表示されます。

2 システム情報を保存するメディアを選択し、ファイル名を入力して、［OK］をクリックする。

ファイル名は、半角英数字、一部の記号（.（ピリオド）、-（ハイフン）、_（アンダーバー））で入力します。

システム情報のエクスポート中はプログレスバーが表示され、終了するとシステム情報が保存されます。

3 ［閉じる］をクリックする。

基本操作 第3章

概要

本章では、NSR へのログオンや画面の基本操作、パスワードの変更、電源の切りかたなど、以下の基本操作について説明します。

- NSR にログオンする （28 ページ）
- 画面の基本操作 （30 ページ）
- パスワードを変更する （33 ページ）
- ログオフする （33 ページ）
- 操作をロックする （34 ページ）
- 電源を切る／再起動する （34 ページ）
- バージョン情報を見る （35 ページ）

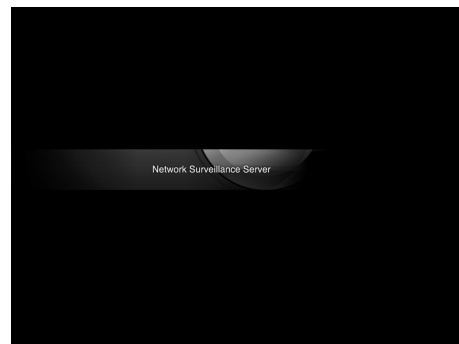
メモ

デバイスやスケジュール、センサー入力、アラーム出力などの設定については第 4 章「各種設定」（36 ページ）を、モニタリングや記録の検索／再生については第 5 章「日常の運用」（109 ページ）を参照してください。

NSR にログオンする

本機を操作するには、NSR にログオンする必要があります。

1 NSR の前面または背面の電源スイッチを押して電源を入れる。

起動画面が表示され、ソフトウェア起動のプログレスバーが表示されます。

メモ

電源を入れた直後（約 2 秒間）にファンの大きな音がしますが、これは故障ではありません。

本機が起動すると、ログオン画面が表示されます。

2 ユーザー名とパスワードを入力し、［ログオン］をクリックする。

- ［自動ログオン］にチェックマークを付けた状態でログオンすると、次回アプリケーション起動時からログオン画面が表示されず、自動でログオンが行われます。
- ログオンするユーザーを変更する場合は、メイン画面で、いったんログオフしてください。
- 自動ログオン機能を有効にするには、「管理メニュー」の「セットアップメニュー」から設定してください。

ご注意

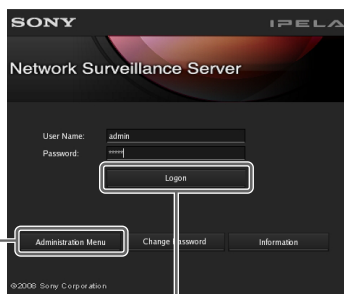
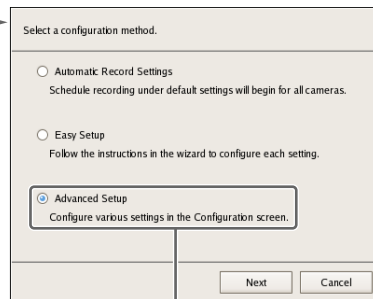
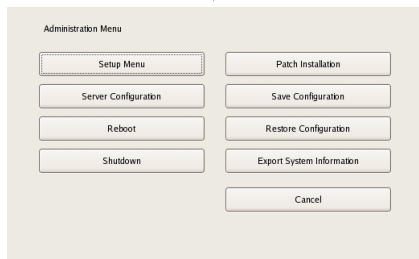
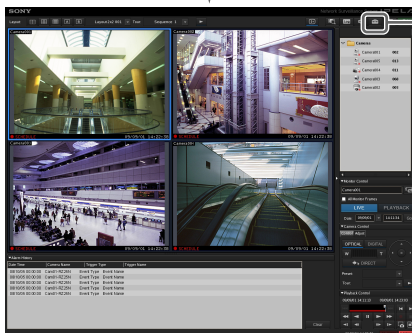
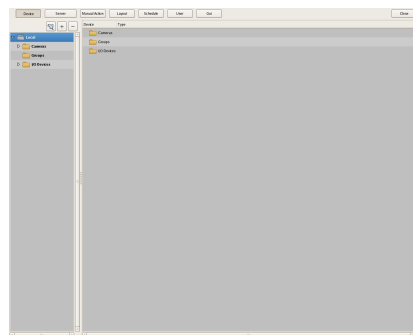
チェックマークの状態は、ログオンすることにより反映されます。
チェックマークを外した場合にも、一度ログオンが必要です。

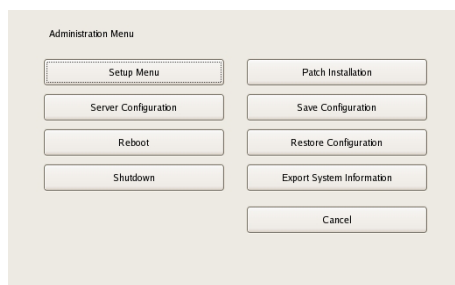
メモ

NSR の工場出荷時では、ユーザーは管理者のみ登録されています。工場出荷時の管理者のユーザー名は以下になります。
ユーザー名：admin
パスワード：admin

画面の基本操作

ここでは、各画面共通の基本操作について大まかに説明します。
本機には、画像をモニタリングする「メイン」画面と各種設定を行う「設定」画面、NSR 本体に関する設定や操作を行う「管理メニュー」画面があります。

「ログオン」画面

「レコーダー設定」画面

「管理メニュー」画面

「メイン」画面

「設定」画面

「管理メニュー」画面

「ログオン」画面で［管理メニュー］をクリックすると、「管理メニュー」画面が表示されます。各ボタンをクリックすると、NSR 本体に関する設定や操作が行えます。

「管理メニュー」で行える設定については、第 2 章「管理メニュー」（13 ページ）をご覧ください。

「メイン」画面

「メイン」画面では、各モニターフレームでライブ画像のモニタリングや記録画像の検索／再生が行えます。
ライブ画像と記録画像の再生を切り替えるには、表示させたいモニターフレームをクリックして選択し、画面左側にある［LIVE］または［PLAYBACK］をクリックします。

モニタリングや記録の検索／再生のしかたについては、第 5 章「日常の運用」（109 ページ）を参照してください。

「設定」画面

カメラの登録やスケジュールの設定、ユーザーの登録など、NSR を使用するための設定が行えます。

設定項目や設定方法については、第 4 章「各種設定」（36 ページ）をご覧ください。

パスワードを変更する

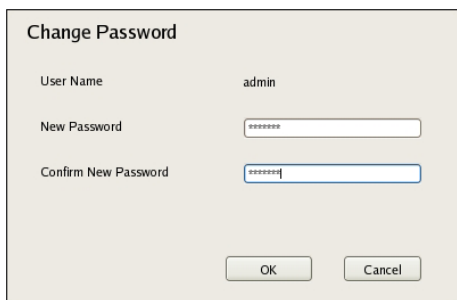
NSR にログオンするためのパスワードを変更できます。

メモ

- パスワードは、本機のセキュリティにおいて大変重要です。本機購入後初めて NSR にログオンしたら、モニターや各種設定を行う前に必ずパスワードを変更してください。また、パスワードは厳重に管理してください。
- システムコントローラー（RM-NS1000）で操作する場合は、ユーザー名とパスワードを数字のみで設定してください。

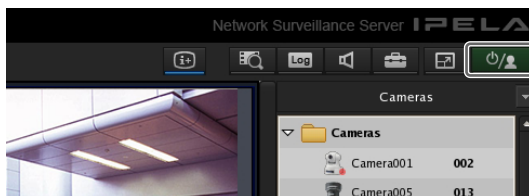
1 「ログオン」画面で、［パスワードの変更］をクリックする。

「パスワードの変更」ダイアログが表示されます。

2 新しいパスワードを入力し、［OK］をクリックする。

［確認パスワード］には、同じパスワードをもう一度入力してください。

パスワードが変更されます。

ログオフする

1 「メイン」画面で、［⏻/👤］をクリックする。

次の画面が表示されます。

2 ［ログオフ］をクリックする。

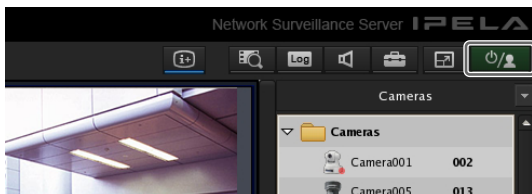
ログオフするかどうかの確認メッセージが表示されます。

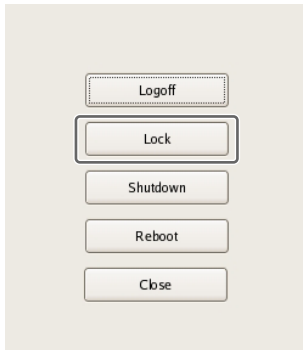
3 ［OK］をクリックする。

NSR からログオフし、「ログオン」画面が表示されます。
再度ログオンするには、ユーザー名とパスワードを入力し、［ログオン］をクリックします。

操作をロックする

そのままの状態で一時的に画面をロックできます。操作中に離席する場合などに使用します。

1 「メイン」画面で、 をクリックする。

次の画面が表示されます。

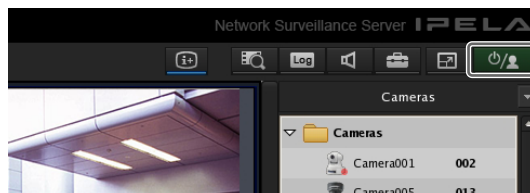
2 ［ロック］をクリックする。

操作がロックされます。
ロックを解除するには、ユーザー名とパスワードを入力し、［ロック解除］をクリックします。

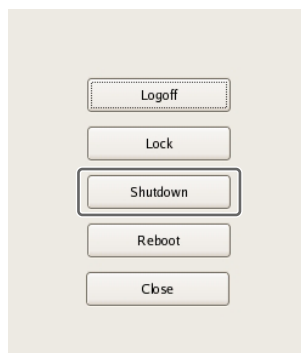
メモ

ロックの解除は、ログオンしているユーザーか、Level 5 のユーザーで行えます。

電源を切る／再起動する

NSR の電源を切ったり再起動したりするときは、必ずメイン画面から行ってください。

1 メイン画面上部の をクリックし、表示されるメニューから［シャットダウン］または［再起動］を選択する。

次の画面が表示されます。

2 ［シャットダウン］または［再起動］をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

3 ［シャットダウン］または［再起動］をクリックする。

NSR の電源が切れる、または再起動します。

メモ

通常、数分で電源が切れる、または再起動が始まります。しばらくたっても電源が切れない、または再起動しない場合は、NSR 背面の電源スイッチを ⏻ の方向に 5 秒以上押して、強制的に電源を切ってください。

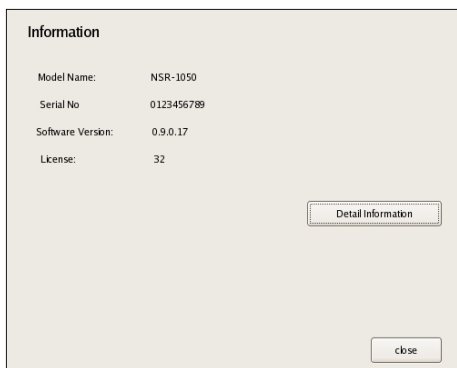
バージョン情報を見る

1 「ログオン」画面で、［情報］クリックする。

バージョン情報が表示されます。

第3章　基本操作

各種設定

第 章

アラームとイベントについて

NSRでは、センサー入力やVMD、マニュアルアクションなどのトリガーをアラームまたはイベントとして設定することで、記録やアクションを行うことができます。アラームとイベントの機能は同等ですが、重要度の高いトリガーをアラームに設定することによって、以下の運用が可能となります。

- 記録の検索の際に、イベント記録と区別して検索できます。
- メイン画面のアラーム履歴のリストにログが表示され、メイン画面のALARMランプが点灯します。
- アラームのトリガーとなっているカメラのモニターフレームに赤い枠が表示されます。
- アラームのトリガーとなっているカメラの映像がホットスポットに表示されます。
- イベント／アラームログで、イベントと区別して確認できます。

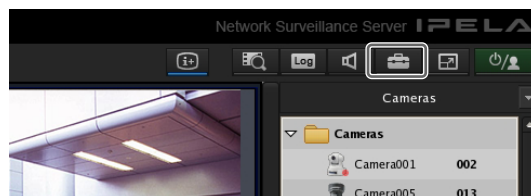
以下の表のように、トリガーとなるソースに対して記録やアクションを設定できます。また、設定される記録・アクションにより、トリガーはアラームとして扱われます。

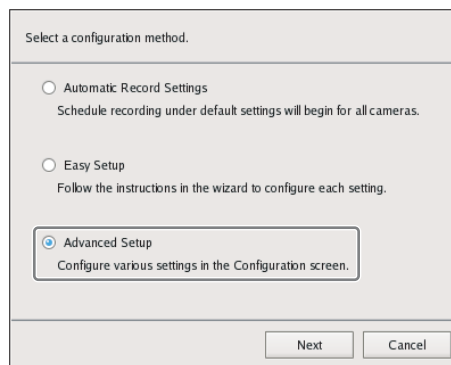
イベント／アラームのトリガーとなるソース	イベント／アラームに応じた記録、アクション			
	記録の設定		アクションの設定	
	イベント記録	アラーム記録	カメラアクションI/O	クライアントアクション
センサー入力	○（イベント）	○（アラーム）	○（アラーム）	○（イベント）
VMD • VMD（カメラ） • VMD（レコーダー） • VMF	○（イベント）	○（アラーム）	○（アラーム）	○（イベント）
システムアラート	–	–	○（アラーム）	○（イベント）
マニュアルアクション	–	–	○[1)]	○[1)]

1）アクションは行われますが、イベントにもアラームにもなりません。

「設定」画面を表示する

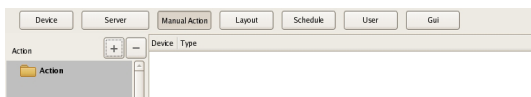
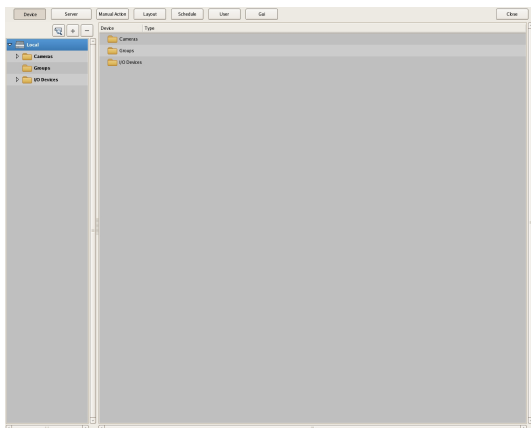
各種設定は「設定」画面で行います。

1 メイン画面右上にある（設定）をクリックする。

「レコーダー設定」画面が表示されます。

2 ［詳細設定］を選択し、［次へ］をクリックする。

メモ

［自動記録設定］や［簡単設定］を選択すると、簡単な操作でカメラの登録や設定が行えます。自動記録設定と簡単設定については、『設置説明書』（別冊）をご覧ください。

「設定」画面が表示されます。

3 画面上部にある、設定したい項目のボタンをクリックする。

ボタンに応じた設定画面が表示されます。
例）［デバイス］をクリックしたとき
「デバイス設定」画面が表示されます。

デバイスを登録する

NSR で管理するデバイスを登録したり、デバイスの動作を詳細に設定できます。

デバイスの登録のしかたには、以下の方法があります。

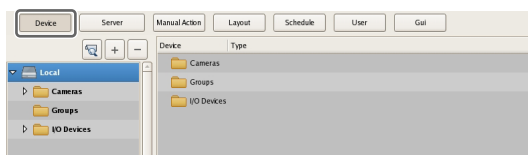
- **ネットワーク上のカメラを自動登録する**
  自動検出されたデバイスを一括して登録する手順については、『ファーストステップガイド』（別紙）をご覧ください。
- **自動検索されたカメラを選択して一括登録する**
  NSR と同一セグメントのネットワークに存在するデバイスを自動検出し、登録するカメラを選択して一括登録します。詳しくは、『設置説明書』（別紙）をご覧ください。
- **手動でデバイスを登録する（37 ページ）**
  デバイスの IP アドレスを指定して、個別に登録します。

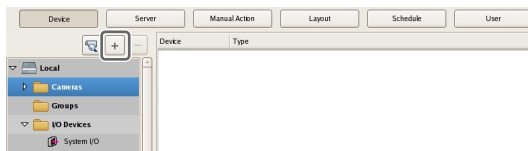
メモ

- 他社製の IP カメラ（ネットワークカメラ）は、簡単設定での登録や自動検索での一括登録はできません。手動で登録してください。
- アナログカメラのパン、チルト、ズームコントロールをお使いになるには、コントロールプロトコルの設定が必要です。「アナログカメラのコントロールプロトコルを設定する」（52 ページ）をご覧ください。

手動でデバイスを登録する

デバイスの IP アドレスを指定して、個別に登録します。

1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

2 ＋（追加）をクリックする。

「デバイスの追加」ダイアログが表示されます。

3 各項目を設定し、［OK］をクリックする。

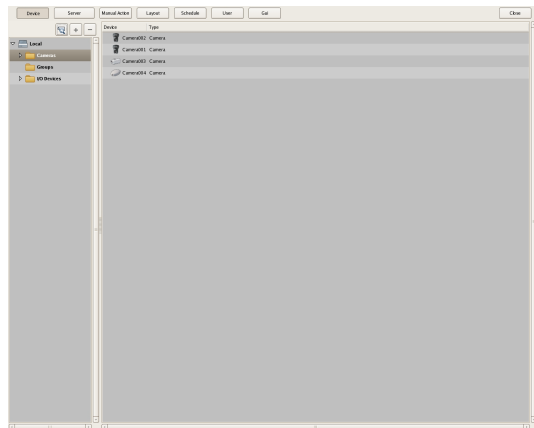
各項目の詳細は、「「デバイスの追加」ダイアログの設定項目」（44 ページ）をご覧ください。

カメラサーバー（SNT シリーズなど）を登録する場合

以下のダイアログが表示されます。
利用するチャンネルを選択し、［OK］をクリックしてください。

メモ

処理の際に登録台数の制限を超えているかどうかをチェックし、超えている場合はその旨を伝える警告メッセージを表示して処理を中止します。

NSR にデバイスが登録され、一覧に追加されます。

ご注意

すでに登録されているデバイスと重複する IP アドレスおよびポート番号を指定した場合は、警告が表示され、登録できません。

メモ

カメラの登録に失敗する場合は、Web ブラウザを起動して直接カメラに接続し、カメラからの画像が見えることを確認してください。また、カメラの IP アドレスは、Web ブラウザに入力した IP アドレスを使用してください。

登録内容を変更する

ここでは、「デバイス設定」画面の［一般］タブの設定内容を変更する手順を説明します。
［一般］タブの項目は、複数のカメラを同時に設定することもできます。

メモ

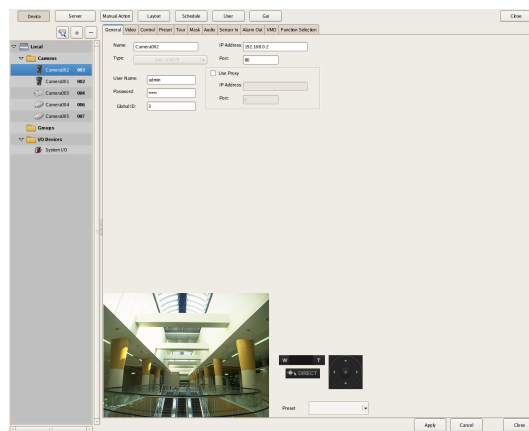
1 つのカメラの設定を行う場合と複数のカメラを設定を同時に行う場合とでは、一部の設定項目が異なります。

- カメラごとに設定状態が異なる設定項目は、空欄になります。そのまま保存した場合は、各カメラの該当設定項目は変更されません。リストを選択しなおすか、数値を入力しなおすことにより、複数のカメラすべてに新しい設定値が設定されます。
- 複数のカメラに対して共通の値が設定できない場合は、その設定項目は設定不可状態となります。選択するカメラの組み合わせを変更して設定を行ってください。

1 「デバイス設定」画面で、登録内容を変更したいカメラを選択する。

Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のカメラを選択することもできます。

カメラの登録内容が表示されます。

2 ［一般］タブをクリックし、変更したい項目を設定しなおす。

各項目の詳細は、「[一般] タブの設定項目」(42 ページ)をご覧ください。
SNC-CS20/CM120/DS10/DM110/DS60/DM160 の場合は、「SNC-CS20/CM120/DS10/DM110/DS60/DM160 を使用する場合に必要な設定」(39 ページ)をご覧ください。

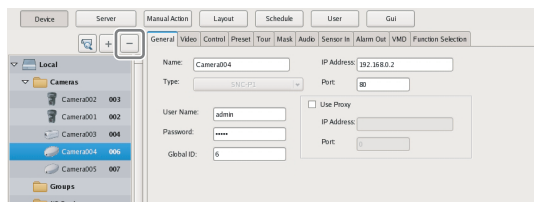
3 各項目を設定したら、[適用] をクリックする。

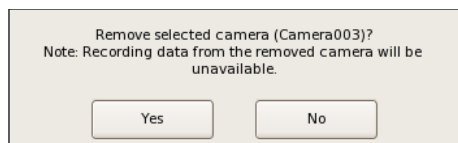
設定が変更されます。

デバイスを削除する

1 「デバイス設定」画面で、削除したいカメラを選択し、

Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のデバイスを選択することもできます。

2 [−](削除)をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

3 [はい] をクリックする。

デバイスが削除されます。

ご注意

- カメラを削除した場合、レイアウトではモニターフレームが「No Camera」になります。デフォルトレイアウトの場合は、カメラを登録した際、空いている(「No Camera」状態の)モニターフレームから順番にカメラが割り当てられます。
- カメラを削除すると、そのカメラの記録されたデータは検索できなくなります。このとき記録データは削除されません。記録データはストレージの記録削除またはデータ上書きの条件に合致した時点で、削除対象となります。詳細については、「ストレージに関する設定をする」(74 ページ)をご覧ください。

SNC-CS20/CM120/DS10/DM110/DS60/DM160[1] を使用する場合に必要な設定

以下の 6 機種[1] のカメラでは、使用する機能の設定値によって他の機能が制限されます。各種設定を行う前に、優先して使用したい機能の選択を行う必要があります。

- SNC-CS20
- SNC-CM120
- SNC-DS10
- SNC-DM110
- SNC-DS60
- SNC-DM160

SNC-CS20/CM120/DS10/DM110/DS60/DM160[1] を使用するときの流れ

上記のカメラを使用する際は、まず使用する機能の組み合わせを選択し、その後各種設定を行います。機能の組み合わせを選択した時点で、自動的に各項目で設定できる値の範囲が決まります。そのため、運用に合わせた機能の組み合わせを選択することが重要になります。

1　使用する機能の組み合わせを選択する
↓
2　各設定画面で、必要な設定を行う
↓
3　運用を開始する

1) 今後発売されるカメラにおいても、設定の制限がカメラに存在する場合があります。[機能選択] タブが表示されるカメラについては、上記のカメラと同様に機能の組み合わせの設定を行ってください。

ご注意

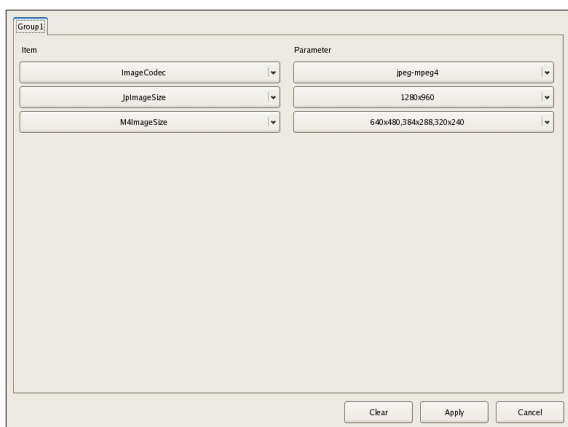
- 機能の組み合わせによっては、設定可能な値の範囲や項目が変わります。必ず運用に合わせた設定を行ってください。
  例 1) あるコーデックを使用すると動体検知ができない場合、そのコーデックを使用する組み合わせを選択すると、動体検知の設定ができなくなります。
  例 2) 設定可能な値の範囲が 1 ~ 50 の機能を使用する組み合わせを選択した場合、カメラで設定可能な値の範囲が 1 ~ 100 であっても、各設定画面で選択できる範囲は 1 ~ 50 になります。
- 必ず使用する機能の組み合わせを選択してから、各種設定を行ってください。設定を始めてから機能の組み合わせを選択したり変更すると、設定可能な値の範囲が変わり、先に設定した内容が別の値に変更されてしまう可能性があります。
  例) 設定可能な値の範囲が 1 ~ 100 で 70 に設定し、その後組み合わせを変更したところ、設定可能な値の範囲が 1 ~ 50 に変わってしまい、設定値が 25 に変更されてしまった。

- 設定を変更した後は、必ず運用前に全設定を確認してください。変更した値が設定可能範囲内であれば問題ありませんが、範囲外のときは自動的に範囲内の値に変更されます。

1 「デバイス設定」画面の［機能選択］タブで、［Camera機能の選択］をクリックする。

カメラで使用する機能の組み合わせを選択するための画面が表示されます。

2 左上から順に1行ずつ機能の組み合わせを選択し、［OK］をクリックする。

［項目］で設定したい機能を選択し、［パラメータ］で設定値を選択します。

メモ

- 項目を選択した順番やパラメータによって、制御範囲が絞り込まれ、次の行で選択できる項目や値が変動します。
- 選択済みの行を変更すると、それより下の行が未選択の状態に戻ります。ここで選択した組み合わせによって、各設定画面で設定できる値の範囲が決まりますので注意してください。

3 ［一般］のその他の項目を設定する。

必要に応じて、各画面でも設定を行います。

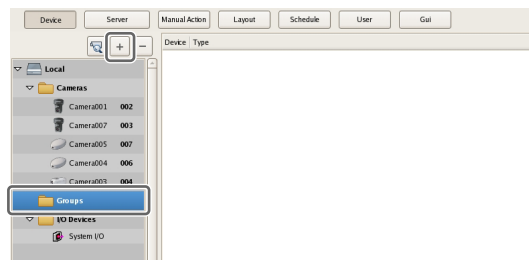
4 設定が終わったら、全設定をチェックし、適切な値が設定されているか確認する。

5 運用を開始する。

デバイスグループを登録する

デバイスを設置しているフロアや地域ごとにデバイスグループを設定し、効率よく管理できます。また、デバイスグループごとに、ユーザーやユーザーグループが操作できる権限を設定することもできます。

デバイスグループを登録する

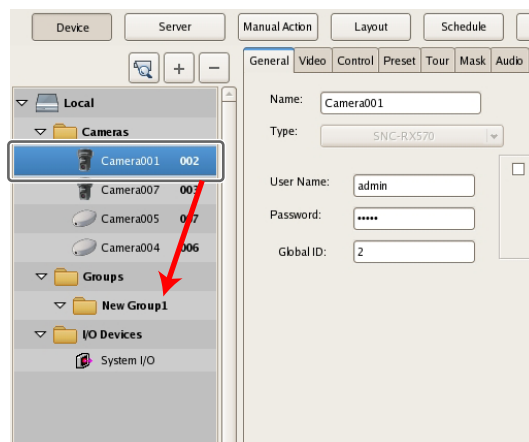
「デバイス設定」画面の左側のツリーで［グループ］を選択し、＋（追加）をクリックすると、グループが追加されます。

メモ

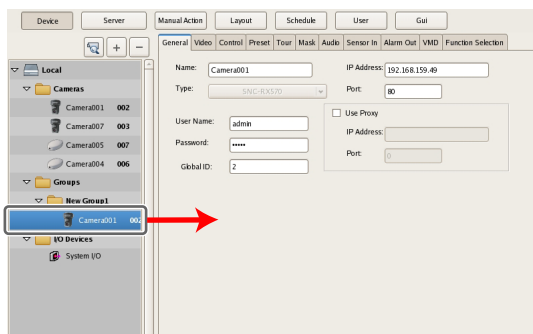
- グループの下にサブグループを作りたいときは、上位のグループを選択し、＋（追加）をクリックします。
- グループの名前を変更するときは、ツリー上でグループ名を選択した状態でクリックすると、グループ名を入力しなおすことができます。

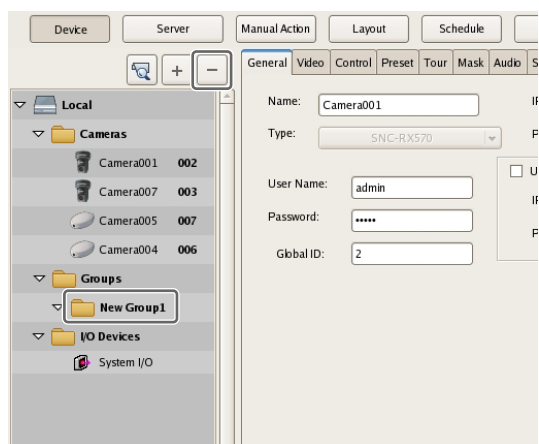
続いて、デバイスグループにデバイスを追加します。

グループにデバイスを追加する

ツリー内で、グループに所属させたいデバイスをグループのアイコンにドラッグ＆ドロップすると、グループにデバイスが追加されます。

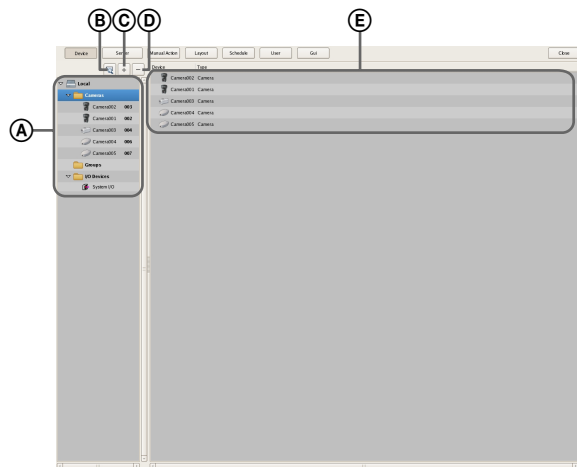
第4章　各種設定

グループからデバイスをはずすには

グループからはずしたいデバイスのアイコンをツリーの外にドラッグします。

グループを削除するには

ツリーで、削除したいグループを選択し、[－]（削除）をクリックすると、グループが削除されます。

各画面の詳細

「デバイス設定」画面の設定項目

NSR に登録されているデバイスの一覧が表示されます。
本画面は、［設定］画面で［デバイス］をクリックすると表示されます。

Ⓐ ツリー

NSR に登録されているデバイスがツリー形式で表示されます。
ツリーからデバイスを選ぶと、Ⓔ のエリアに選んだデバイスに応じた項目が表示されます。

Ⓑ （カメラ自動登録）

ネットワークに接続されているカメラを自動検索して登録するための「カメラ自動登録」ダイアログを表示します。
詳しくは、『設置説明書』（別紙）をご覧ください。

Ⓒ [＋]（追加）

デバイスを手動で登録するための「「デバイスの追加」ダイアログの設定項目」（44 ページ）を表示します。

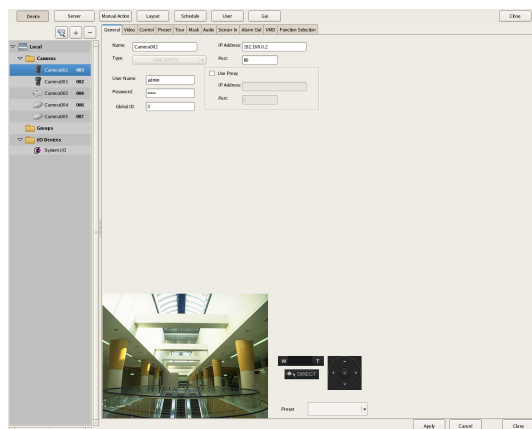
Ⓓ [－]（削除）

デバイスを削除します。
ツリーまたはデバイスリストから削除したいデバイスを選択し、このボタンをクリックすると、デバイスが削除されます。

Ⓔ デバイスリスト

左側のツリーで選択したデバイスグループに所属しているデバイスが一覧表示されます。

［一般］タブの設定項目

左側のツリーで選択したデバイスの設定内容を変更できます。
各項目を設定したら、［適用］をクリックして設定を保存します。

名前

追加するデバイスに付ける名前を 32 文字以内の半角英数字、一部の記号（.（ピリオド）、-（ハイフン）、_（アンダーバー））で入力します。

種別

デバイスの種類が表示されます。この項目は変更できません。

ユーザー

デバイスに接続するためのユーザー名を 32 文字以内の半角英数字、一部の記号（.（ピリオド）、-（ハイフン）、_（アンダーバー））で入力します。

パスワード

デバイスに接続するためのパスワードを 32 文字以内の半角英数字、一部の記号（.（ピリオド）、-（ハイフン）、_（アンダーバー））で入力します。

ご注意

NSR からは、デバイス側のユーザー名やパスワードの変更はできません。変更する場合は、Web ブラウザから直接デバイスにアクセスして行います。NSR に登録されているデバイスのユーザー名やパスワードを変更した場合は、NSR 側の設定も変更する必要があります。

グローバル ID

グローバル ID を半角数字で入力します。
NSR や RealShot Manager Advanced では、接続されているカメラに個別に ID を割り振って管理しています。
複数台の NSR や RealShot Manager Advanced をサーバーとして使用するシステムにおいても、各サーバーに接続されているすべてのカメラに対して、システムとして一意に ID が割り振られます。リモートクライアントの RealShot Manager Advanced から、各サーバーを意識せずに直接、グローバル ID でカメラを指定してモニタリングを行うことが可能です。

IP アドレス

カメラの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

ご注意

ホスト名で指定する場合は、ホスト名が解決できるように DNS などの設定を行ってください。

ポート

カメラと接続するときのカメラ側のポート番号を入力します。デフォルトでは「80」が設定されています。

プロキシ

プロキシサーバーを経由してカメラにアクセスする場合に設定します。

有効

チェックマークを付け、以下の項目を設定します。

IP アドレス

プロキシサーバーの IP アドレスを入力します。

ポート

プロキシサーバーのポート番号を入力します。

プレビュー

カメラからの画像が表示されます。

適用

設定を保存します。

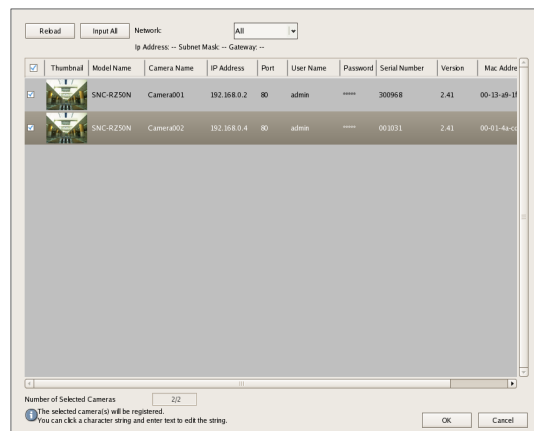
キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

閉じる

画面を閉じます。

「カメラ一括登録」ダイアログの設定項目

自動検索の結果が一覧表示され、検索されたデバイスを一括して登録できます。
本ダイアログは、「カメラ自動登録」ダイアログで［カメラ一括登録画面を開く］を選択し、［OK］をクリックすると表示されます。
各項目を設定したら、［登録］をクリックします。

ご注意

入力信号のないアナログカメラは、自動検索では検出されません。

ネットワーク

ドロップダウンメニューで選択したネットワークに接続されているデバイスがリストに表示されます。

再読み込み

再度自動検索が行われます。
管理者のユーザー名とパスワードを除き、それまでに入力した値が自動検索で取得した結果に置き換わりますので、注意してください。

一括入力

「一括入力」ダイアログ（44 ページ）が表示されます。

表示

デバイスリストに表示されるデバイスを以下の条件で絞り込んで表示できます。

未設定カメラ

まだ NSR に登録されていないデバイスだけを表示します。

設定済みカメラ

すでに NSR に登録されているデバイスだけを表示します。

全カメラ

自動検索されたすべてのデバイスを表示します。

デバイスリスト

自動検索されたデバイスが一覧表示されます。

対象

NSR に登録するデバイスにチェックマークを付けます。

サムネール

カメラのサムネイルが表示されます。
映像が表示されない場合もあります。

モデル名

デバイスの種類が表示されます。

カメラ名

デバイスの名前が表示されます。

IP アドレス

デバイスの IP アドレスが表示されます。

ポート

デバイスと接続するときのデバイス側のポート番号が表示されます。
デフォルトでは「80」が設定されています。

ユーザー名

デバイスに接続するためのユーザー名を入力します。

パスワード

デバイスに接続するためのパスワードを入力します。

シリアル番号

デバイスのシリアル番号が表示されます。

バージョン

カメラのファームウェアバージョンが表示されます。

Mac address

デバイスの MAC アドレスが表示されます。

ネットワーク

デバイスが接続されているネットワークが表示されます。

ご注意

NSR からは、デバイス側のユーザー名やパスワードの変更はできません。変更する場合は、Web ブラウザから直接デバイスにアクセスして行います。詳しくは、

ご使用になるデバイスの取扱説明書をご覧ください。NSR に登録されているデバイスのユーザー名やパスワードを変更した場合は、NSR 側の設定も変更する必要があります。

登録

チェックマークが付いているデバイスを NSR に登録し、ダイアログを閉じます。

キャンセル

登録をキャンセルして、ダイアログを閉じます。

「一括入力」ダイアログの設定項目

自動検索されたデバイスを登録するときに、選択した複数のデバイスに対して、以下の項目を一括で同じ値に設定できます。
本ダイアログは、「「カメラ一括登録」ダイアログの設定項目」（43 ページ）で［一括入力］をクリックすると表示されます。
設定したい項目にチェックマークを付け、設定内容を入力して、［OK］をクリックします。

ユーザー名

デバイスに接続するためのユーザー名を 32 文字以内の半角英数字、一部の記号（.（ピリオド）、-（ハイフン）、_（アンダーバー））で入力します。

パスワード

デバイスに接続するためのパスワードを 32 文字以内の半角英数字、一部の記号（.（ピリオド）、-（ハイフン）、_（アンダーバー））で入力します。

IP アドレス

デバイスの IP アドレスを入力します。
複数のデバイスを一括して登録する場合は、入力した IP アドレスを開始アドレスとして、順番に設定されます。

ポート

デバイスと接続するときのデバイス側のポート番号を入力します。
デフォルトでは「80」が設定されています。

OK

設定内容を「カメラ一括登録」ダイアログのデバイスリストに反映し、ダイアログを閉じます。

キャンセル

設定をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

「デバイスの追加」ダイアログの設定項目

手動でデバイスを登録するときに設定内容を入力します。
本ダイアログは、「「デバイス設定」画面の設定項目」（41 ページ）で［+］（追加）をクリックすると表示されます。
各項目を設定したら、［OK］をクリックします。

ご注意

アナログカメラでは、名前以外の設定はできません。

デバイス種別

カメラのモデル名を選択します。
通常は「Auto Connect」を選択してください。
手動で設定した場合に、モデル名を選択してください。

名前

追加するカメラに付ける名前を 32 文字以内の半角英数字、一部の記号（.（ピリオド）、-（ハイフン）、_（アンダーバー））で入力します。

IP アドレス

カメラの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

ポート

カメラと接続するときのカメラ側のポート番号を入力します。デフォルトでは「80」が設定されています。

プロキシ

プロキシサーバーを経由してカメラにアクセスする場合に設定します。

有効

チェックマークを付け、以下の項目を設定します。

IP アドレス

プロキシサーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

ポート

プロキシサーバーのポート番号を入力します。

ユーザー

デバイスに接続するためのユーザー名を 32 文字以内の半角英数字、一部の記号（.（ピリオド）、-（ハイフン）、_（アンダーバー））で入力します。

パスワード

デバイスに接続するためのパスワードを 32 文字以内の半角英数字、一部の記号（.（ピリオド）、-（ハイフン）、_（アンダーバー））で入力します。

OK

設定した内容でデバイスを登録し、ダイアログを閉じます。

キャンセル

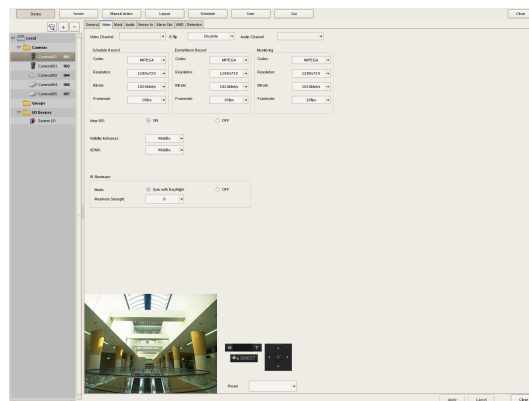
登録をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

カメラの映像設定をする

カメラから取り込む画像に関する設定が行えます。

1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックし、取り込む画像の設定をしたいカメラを選択する。

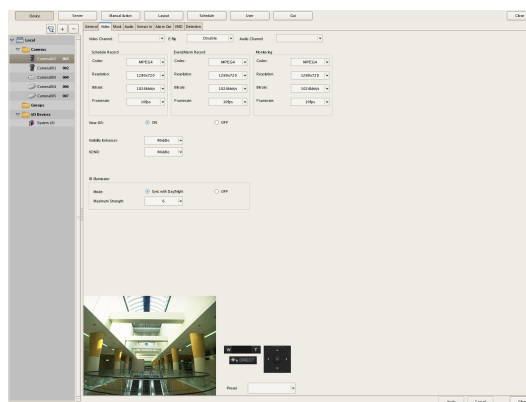
選択したカメラの登録内容が表示されます。

2 ［映像］タブをクリックし、各項目を設定する。

各項目の詳細は、「［映像］タブの設定項目」（45 ページ）をご覧ください。

3 ［適用］をクリックする。

設定が変更されます。

［映像］タブの設定項目

左側のツリーで選択したカメラから取り込む画像に関する設定を変更できます。
各項目を設定したら、［適用］をクリックして設定を保存します。

メモ

カメラによって設定項目や選択できる値が異なります。

映像チャンネル

複数のチャンネルを持つカメラサーバー（SNT シリーズなど）の場合に、利用する映像チャンネルを表示します。

E-Flip

カメラからの画像出力を上下反転させる E-Flip 機能を有効にするときに設定します。
E-Flip（レコーダー）は、NSR 自身が持つ映像反転機能です。E-Flip（カメラ）は、カメラによる映像反転機能です。

音声チャンネル

アナログカメラと紐付けるアナログカメラ音声チャンネルを選択します。
1 つの設定を複数のアナログカメラに対して適用することも可能です。

スケジュール記録

スケジュール記録時の画像に関する設定を行います。

コーデック

カメラの画像コーデックを設定します。JPEG、MPEG4 または H.264 から選択します。

画像サイズ

カメラの解像度を選択します。

画質（JPEG の場合）

カメラの画質を選択します。

ビットレート（MPEG4 または H.264 の場合）

カメラのビットレートを選択します。

フレームレート

カメラのフレームレートを選択します。

アラーム／イベント記録

アラーム記録時やイベント記録時の画像に関する設定を行います。

コーデック

カメラの画像コーデックを設定します。JPEG、MPEG4 または H.264 から選択します。

画像サイズ

カメラの解像度を選択します。

画質（JPEG の場合）

カメラの画質を選択します。

ビットレート（MPEG4 または H.264 の場合）

カメラのビットレートを選択します。

フレームレート

カメラのフレームレートを選択します。

モニタリング

モニタリング時の画像に関する設定を行います。

コーデック

カメラの画像コーデックを設定します。JPEG、MPEG4 または H.264 から選択します。

画像サイズ

カメラの解像度を選択します。

画質（JPEG の場合）

カメラの画質を選択します。

ビットレート（MPEG4 または H.264 の場合）

カメラのビットレートを選択します。

フレームレート

カメラのフレームレートを選択します。

ライトファンネル

ライトファンネル機能を持つカメラの場合に使用するモードを選択します。

メモ

ライトファンネル機能は、条件によっては利用できない場合があります。詳しくは、カメラの取扱説明書でご確認ください。

切換レベル

ナイトモードに切り替わるときの明るさを選択します。

保持時間

明るさの変化に反応する時間を選択します。

View-DR

View-DR 機能を持つカメラの場合に、View-DR 機能の ON ／ OFF を選択します。
View-DR 機能を ON にすると、速いシャッターの画像と通常の画像を組み合わせることにより、逆光下のようなコントラストの強い状況でも、白とびや黒つぶれの発生を軽減させた画像が得られます。

Visibility Enhancer

Visibility Enhancer 機能を持つカメラの場合に、輝度とコントラストを自動調整する度合いを［High］、［Middle］、［Low］、［Off］から選択します。
Visibility Enhancer 機能を使うと、画素ごとにコントラストが最適化され、光の強い部分の白とびや、光が弱く黒く沈んだ部分の明るさが補正されます。逆光状態など、明暗差の大きい環境下でも、鮮明な映像が得られます。
Visibility Enhancer 機能を使用しないときは、［Off］を選択してください。

XDNR

XDNR 機能を持つカメラの場合に、画像ノイズを低減するためのノイズリダクション・フィルターの強さを［High］、［Middle］、［Low］、［Off］から選択します。
XDNR 機能を使うと、映像内の動きのない領域と動きのある領域に発生したノイズに対して、それぞれ適したノイズリダクションが行われ、鮮明な画像が得られます。低照度の環境などで効果を発揮します。
XDNR 機能を使用しないときは、［Off］を選択してください。

IR 照射

IR 照射機能を持つカメラの場合に、赤外線照射器の動作を設定します。

動作モード

［デイ／ナイト連動］または［オフ］を選択します。
［デイ／ナイト連動］を選択すると、デイ／ナイトの切り替わりに連動して赤外線照射器が動作します。
赤外線照射器を動作させないときは、［オフ］を選択してください。

最大強度

赤外線の最大強度を選択します。
最大強度は 6 段階あり、1 が最も弱く、6 で最も強くなります。

カメラの動作設定をする

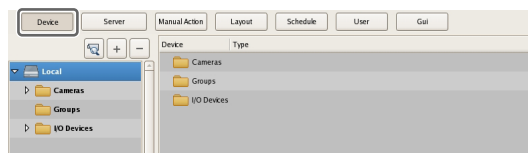
NSR では、カメラの動作について、以下の設定ができます。

- プリセット位置を設定する （47 ページ）
  カメラにプリセット位置を設定できます。
- カメラツアーを設定する （48 ページ）
  プリセットに指定されているパン、チルト、ズーム位置にカメラを順に移動させるカメラツアーを設定できます。
- マスクを設定する （50 ページ）
  カメラにマスクする領域を設定できます。
- アナログカメラのコントロールプロトコルを設定する（52 ページ）
  アナログカメラでパン、チルト、ズームのコントロールをするときに設定します。

プリセット位置を設定する

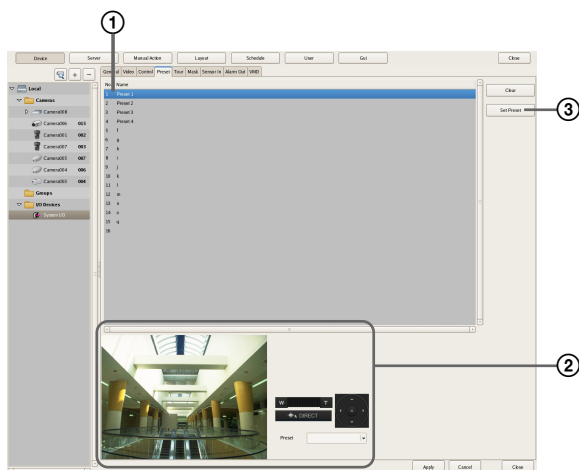
カメラのプリセット位置を設定します。
プリセット位置の設定機能を持つカメラのみ設定できます。
プリセット位置設定ができないカメラの場合、［プリセット］タブの項目やボタンは選択できません。

新規にプリセット位置を設定するには

1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

2 プリセット位置を設定したいカメラを選択し、［プリセット］タブをクリックする。

プレビューにカメラの画像が表示されます。

3 各項目を設定する。

① プリセットを作成する位置（ポジション番号）の欄を選択し、プリセット名を入力する。

② プレビューで画像を確認しながらパン／チルト、ズームを操作して、カメラの位置を調整する。
プリセットを選び、カメラをプリセット位置に移動させることもできます。

③［プリセットを設定］をクリックする。
現在のカメラ位置がプリセット位置として記憶されます。
複数のプリセットを作成するときは、手順①～③を繰り返します。

メモ

プリセットの数は、カメラの種類に依存します。詳しくは、ご使用になるカメラのユーザーガイドをご覧ください。

4 設定が終了したら、［適用］をクリックする。

プリセットの設定内容を変更するには

1 プリセット位置を変更したいカメラを選択し、［プリセット］タブをクリックする。

2 プリセット名を変更するときは、画面上部のリストでプリセット名を入力しなおす。

3 プリセット位置を変更するときは、パン／チルト、ズームを操作して、カメラの位置を調整する。

4 ［プリセットを設定］をクリックする。

設定内容が変更されます。

プリセットを削除するには

1 プリセット位置を削除したいカメラを選択し、［プリセット］タブをクリックする。

2 画面上部のリストで、削除するプリセットを選択し、［クリア］をクリックする。

プリセットが削除されます。

3 ［プリセットを設定］をクリックする。

カメラツアーを設定する

プリセットに指定されているパン、チルト、ズーム位置にカメラを順に移動させるカメラツアーを設定できます。

メモ

このツアーは、カメラのツアー機能を利用しています。そのため、設定したツアーの情報は、カメラに保存されます。

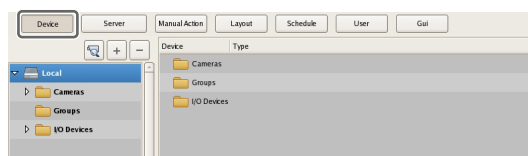
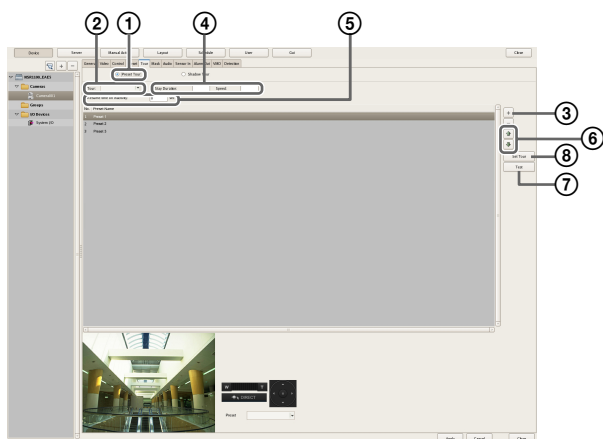
新規にツアーを設定するには

1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

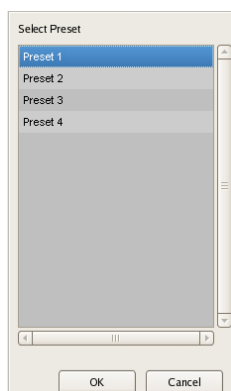
「デバイス設定」画面が表示されます。

2 ツアーを設定したいカメラを選択し、［ツアー］タブをクリックする。

プレビューにカメラの画像が表示されます。

第4章 各種設定

3 各項目を設定する。

① ［プリセットツアー］を選択する。

② 設定したいツアー番号を選択する。

③ ＋（追加）をクリックし、表示される「プリセットの選択」ダイアログで追加するプリセットを選択し、［OK］をクリックする。

リストにプリセットが追加されます。

④ ［滞在時間］でカメラがその位置に留まる時間を入力し、［速度］にカメラが移動する速度（レベル）を入力する。
カメラの速度（レベル）については、お使いになるカメラの取扱説明書をご覧ください。

⑤ ［再開時間］で、操作によってツアーが中断された後の再開時間を設定する。

⑥ プリセットの順序を変更したいときは、リストでプリセットを選択し（ツアーのプリセットを一つ上に）または（ツアーのプリセットを一つ下に）をクリックする。

⑦ プリセットの設定が終了したら、［ツアーの設定］をクリックする。

⑧ ［ツアーのテスト］をクリックし、設定したツアーを表示して確認する。

カメラツアーの動作について

NSRでは、カメラのプリセットで指定された各ポジションに対して同一の「滞在時間」と「速度」を設定することにより、カメラツアー機能を実現しています。

メモ

- 設定した「滞在時間」はすべてのプリセット位置に対して、「速度」はすべてのプリセット間の移動に対して適用されます。
- カメラツアーは、「メイン」画面の［カメラコントロール］ペインの［ツアー］リストにP-1～という名前で表示されます。

ご注意

カメラの速度（レベル）に設定する値が同じでも、カメラの機種によって実際の速度が異なる場合があります。ツアーの設定を行う際は、必ずツアーのテストを行って動作を確認してください。

設定内容を変更するには

1 「デバイス設定」画面で、登録内容を変更したいカメラを選択する。

2 ［ツアー］タブをクリックし、変更したい項目を設定しなおす。

3 ［ツアーの設定］をクリックする。

設定が変更されます。

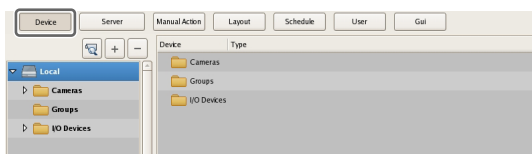
シャドーツアーを設定する

シャドーツアー機能を持つカメラの場合に、マウスやジョイスティックなどを使って操作したカメラの動作を記録し、シャドーツアーとして設定できます。
ツアー動作は、4種類まで（S-1～S-4）設定できます。

メモ

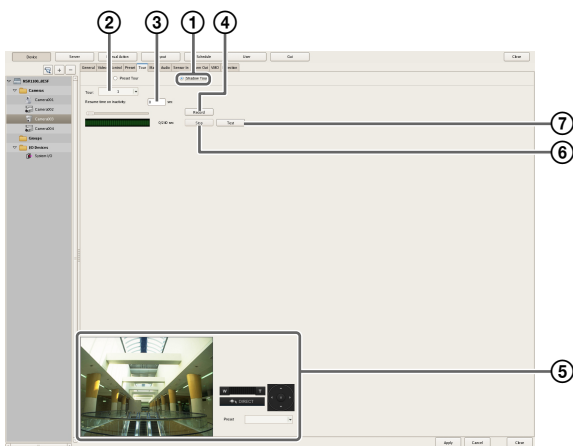
このツアーは、カメラのツアー機能を利用しています。そのため、設定したツアーの情報は、カメラに保存されます。

新規にツアーを設定するには

1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

2 ツアーを設定したいカメラを選択し、［ツアー］タブをクリックする。

プレビューにカメラの画像が表示されます。

3 各項目を設定する。

① ［シャドーツアー］を選択する。

② 設定したいツアー番号を選択する。

③ ［再開時間］で、操作によってツアーが中断された後の再開時間を設定する。

④ ［記録］をクリックして、記録を開始する。

⑤ プレビューで画像を確認しながらパン／チルト、ズームを操作して、カメラの位置を調整する。
プリセットを選び、カメラをプリセット位置に移動させることもできます。

⑥ ［停止］をクリックして、記録を終了する。

⑦ ［ツアーのテスト］をクリックし、設定したツアーを表示して確認する。

メモ

- カメラの仕様により記録時間に制限があります。
- カメラで登録できる時間を過ぎると、［停止］をクリックする前に記録が停止します。
- シャドーツアーは、「メイン」画面の［カメラコントロール］ペインの［ツアー］リストにS-1～S-4という名前で表示されます。

マスクを設定する

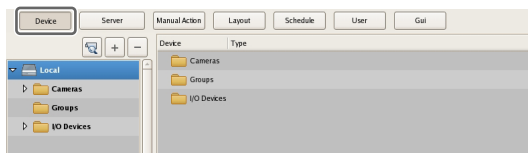
モニターしているカメラ画像の中で特定の領域を覆い隠したいときに、マスクを設定します。マスクは、カメラのパン、チルト、ズームの動作に連動して、設定した場所を常に覆い隠すように動作する機能です。
マスクがカメラのパン、チルト、ズームの動作に連動するのはソニーのネットワークカメラのみとなります。

ご注意

記録中のカメラに対してマスクを変更しても、現在行われている記録ファイルについては反映されません。マスクの設定を変更する場合は、記録を開始する前に行ってください。

メモ

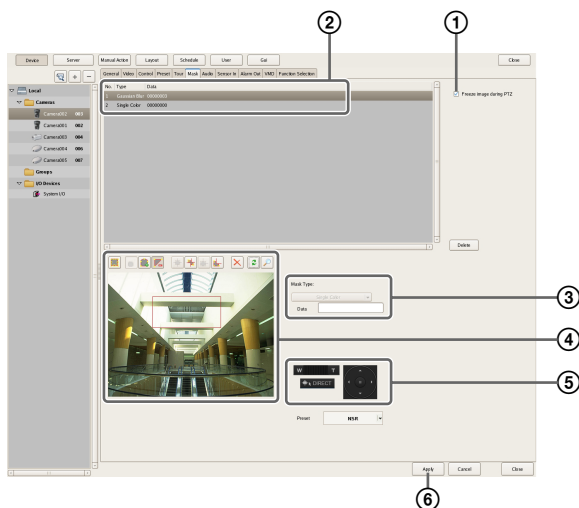
- パン・チルトを持つカメラに対して設定したマスク領域は、パン・チルトまたはズーム操作を行うとずれる場合があります。マスクをかけたい対象物の周り上下左右に、画像サイズの10%程度の余裕を持って設定してください。また、パン・チルト機能を持つカメラでマスクの設定を行う場合は、マスクをかける対象物がモニター画面の中央にくる状態にしてから行ってください。
- クライアントからマスクの設定を行う場合は、いったん設定のプレビューを適用してから行ってください。

1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

2 マスクを設定したいカメラを選択し、［マスク］タブをクリックする。

プレビューにカメラの画像が表示されます。

3 各項目を設定する。

最大 10 個のマスクを設定できます。
各項目の詳細は、「［マスク］タブの設定項目」（51 ページ）をご覧ください。

① 必要に応じて、［PTZ 動作中は描画を停止する］にチェックマークを付け、パン、チルト、ズーム中は描画を停止させる。

② マスク名を入力する。

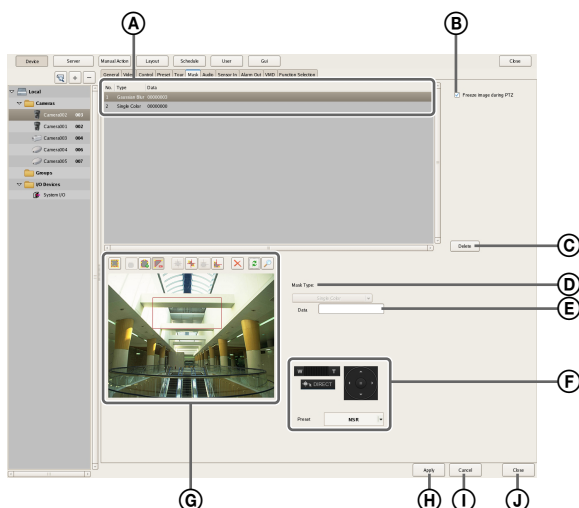
③ マスクの表示のしかたを選択する。
マスクは、単色またはパターンで塗ることができます。

④ プレビューで画像を確認しながら、各ボタンを使ってマスクを作成・編集する。

⑤ パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合は、各ボタンを使ってカメラのパン／チルトやズームをコントロールし、設定した領域を隠すようにカメラが正しく移動するか確認する。
プリセットを選び、カメラをプリセット位置に移動させることもできます。

⑥［適用］をクリックする。
作成したマスクがリストに追加されます。
複数のマスクを作成するときは、手順 ② 〜 ⑥ を繰り返します。

［マスク］タブの設定項目

各項目を設定したら、［適用］をクリックします。

Ⓐ マスクリスト
ツリーで選択したデバイスに設定されているマスクが一覧表示されます。

Ⓑ PTZ 動作中は描画を停止する
パン、チルト、ズーム中の描画を停止させるときにチェックマークを付けます。
マスク領域を設定しているときにパン、チルト、ズーム操作を行った場合、それに応じてマスクも移動しますが、マスクの移動がパン、チルト、ズームの動きよりも少し遅れることがあります。ここにチェックマークを付けると、パン、チルト、ズーム中に描画が行われないため、確実にマスクすることができます。

Ⓒ 削除
リストで選択したマスクを削除します。

Ⓓ マスクの種類
マスクの表示のしかたを選択します。
マスクは、単色またはパターンで塗ることができます。
• ［単色］を選択したときは、表示されるダイアログで、マスクの塗り色を選択します。
• ［ランダムノイズ］を選択した場合は、マスキングのレベルも設定できます。

ご注意

［ガウスぼかし］と［モザイク］では、ズームに応じてぼかしのサイズ（ピクセル）は変化しませんので、ズームを最大にして設定してください。ズームを最大にしないで設定し、マスクが読めないときは、ズームインすると読めるようになります。

Ⓔ **データ**

マスクの種類に応じたパラメーターが表示されます。

例）	Single color	Select the color with color bar
	Gaussian blur	Radius
	Mosaic	Delta X/Delta Y
	Random noise	Amplitude

Ⓕ **パン、チルト、ズームツールバー**

パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合に使用できます。

各ボタンを使ってカメラのパン／チルトやズームをコントロールし、設定した領域を隠すようにカメラが正しく移動するか確認します。

プリセットを選び、カメラをプリセット位置に移動させることもできます。

ご注意

パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合、パン、チルト、ズーム操作をしたときに、設定した領域がずれる場合があります。マスクをかけたい対象物の上下左右10%程度の余裕を持って領域を設定してしてください。

Ⓖ **プレビューとツールボタン**

プレビューで画像を確認しながら、各ボタンを使ってマスクを作成・編集します。

（エリアの作成・移動）

マウスをドラッグして長方形のマスクを作成したり、マスクを移動するときに使います。

（ポイントの編集）

ポイントを追加／削除して、複雑な形状のマスクを作成するときに使います。

（ポイントの追加）

辺を特定の位置で分割するときに使います。

辺の上でCtrl キーを押しながらクリックすると、マスクに編集ポイントが追加されます。

（ポイントの削除）

辺の数を1つ減らすときに使います。

編集ポイントの上でCtrl キーを押しながらクリックすると、マスクの編集ポイントが削除されます。

（最前面に移動）

選択したマスクをマスクの重なりの一番上に移動します。

（最背面に移動）

選択したマスクをマスクの重なりの一番下に移動します。

（前面に移動）

選択したマスクをマスクの重なりの1つ上に移動します。

（背面に移動）

選択したマスクをマスクの重なりの1つ下に移動し

（エリアの削除）

選択したマスクを削除します。

（画像のリフレッシュ）

すべてのマスクを含む静止画を更新します。

（プレビュー）

マスクを含むカメラのライブ映像を表示します。

設定した領域でどのように表示されるかを確認できます。

Ⓗ **適用**

設定を保存します。

Ⓘ **キャンセル**

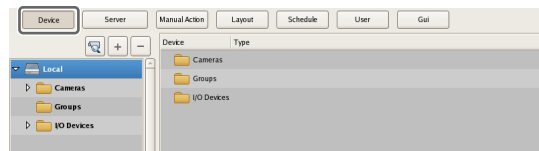
設定の変更をキャンセルします。

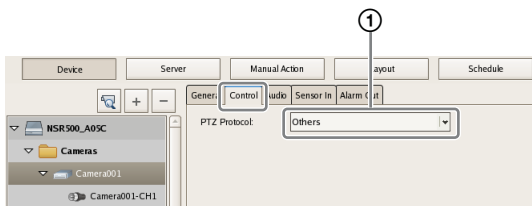
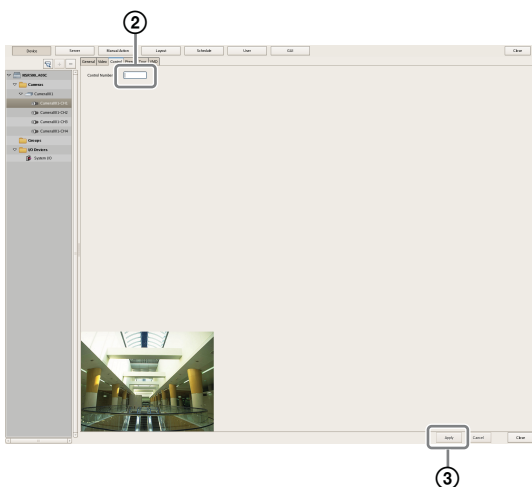
Ⓙ **閉じる**

画面を閉じます。

アナログカメラのコントロールプロトコルを設定する

カメラサーバーを使う場合や、NSR-1050H またはNSBK-A16/A16H（オプション）が装着されている場合は、接続したアナログカメラのパン、チルト、ズームコントロールを行うときに、アナログカメラのコントロールプロトコルを設定します。

1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

2 アナログカメラを選択し、［コントロール］タブをクリックする。

3 各項目を設定する。

① アナログカメラに合わせて、プロトコルを選択する。

② 各チャンネルの［コントロール］を選択し、アナログカメラに設定されているコントロール番号を設定する。

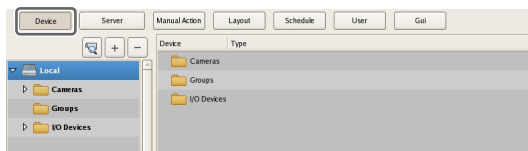
③［適用］をクリックする。
アナログカメラでパン、チルト、ズームのコントロールが行えるようになります。

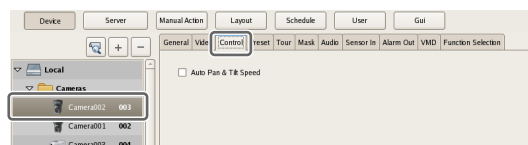
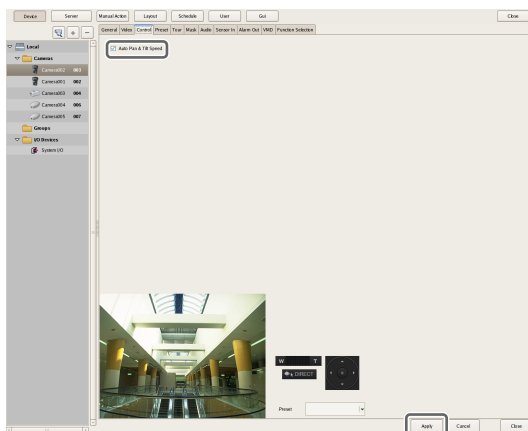
メモ

ご利用のアナログカメラに応じて、シリアルポートの設定が行われていることを確認してください。シリアルポートは「管理メニュー」の「セットアップメニュー」から設定します。

ネットワークカメラのコントロールを設定する

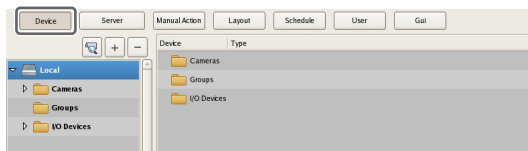
ズーム状態に応じて、カメラがパン・チルト速度を制御するように設定できます。

1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

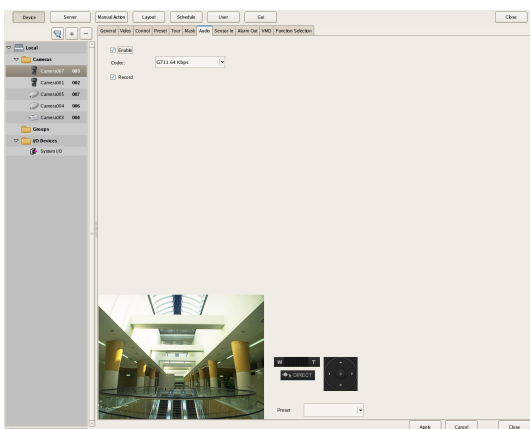
2 ネットワークカメラを選択し、［コントロール］タブをクリックする。

3 ［自動パンチルト速度］にチェックマークを付け、［適用］をクリックする。

ズーム状態に応じて、カメラがパン・チルト速度を制御するようになります。

オーディオを設定する

音声をモニタリングするための設定を行います。

1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

2 音声を有効にしたいカメラを選択し、［音声］タブをクリックする。

3 各項目を設定し、［適用］をクリックする。

音声を有効にする

カメラからの音声を NSR が取得する場合に、チェックマークを付けます。
実際の音声をモニタリングするには、カメラ側のマイク入力が有効になっている必要があります。

ご注意

チェックマークをはずして音声を無効にした場合は、音声を有効にしたときに記録された音声の再生もできません。再度チェックマークを付けて有効にすることにより、再生できるようになります。

コーデック

音声コーデックを指定します。

記録

カメラからの音声を記録する場合にチェックマークを付けます。

モニタリングに関する設定をする

モニターレイアウトやカメラ画像に関して、以下の設定ができます。

- モニターレイアウトの設定をする （54 ページ）
  使用環境や目的に応じた複数のレイアウトを作成できます。
- モニターフレームにカメラを割り当てる （61 ページ）
  各モニターフレームにカメラを割り当てます。
- レイアウトツアーを設定する （62 ページ）
  あらかじめ設定しておいた時間で各ディスプレイの表示を次々に切り替えできます。

モニターレイアウトの設定をする

モニターフレームの数や大きさを設定して、使用環境や目的に応じたレイアウトを作成できます。

メモ

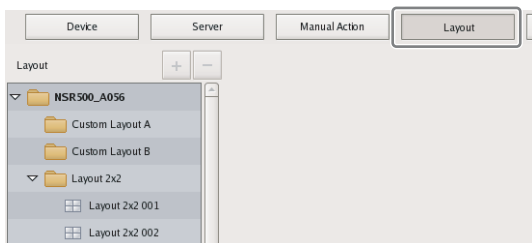
- カメラを登録すると、2 × 2、3 × 3、4 × 4 のレイアウトがデフォルトレイアウトとして自動的に作成されます。デフォルトレイアウトでは、モニターフレームの大きさを変更することはできません。
- 作成したレイアウトは、その NSR に保存されます。例えば、リモートクライアント（RealShot Manager Advanced クライアントソフトウェア）で作成したレイアウトは、リモートクライアント上に保存されます。

新規にレイアウトを作成するには

1 「設定」画面上部にある［レイアウト］をクリックする。

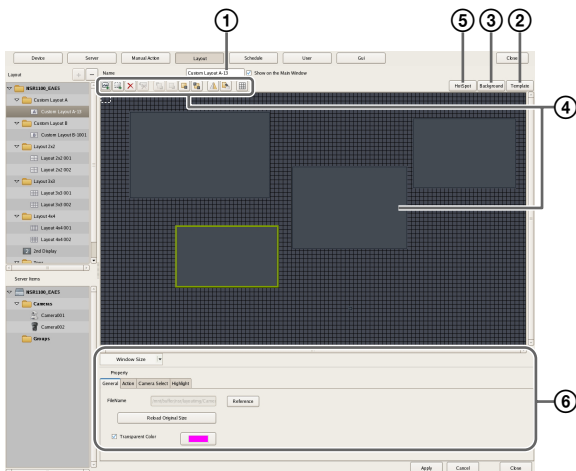
「レイアウト設定」画面が表示されます。

2 ［レイアウト］ツリーから「Custom Layout A」または「Custom Layout B」を選択し、＋（追加）をクリックする。

メモ

「Custom Layout A」と「Custom Layout B」は、あらかじめ設定されているレイアウトグループです。用途に応じてお使いください。

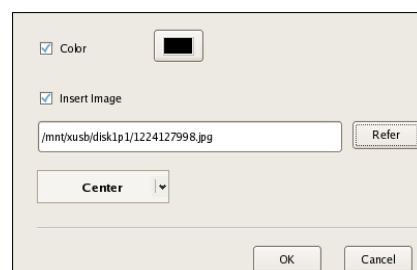
右側のエリアがレイアウトを設定するための表示に変わります。

3 各項目を設定する。

各項目の詳細は、「「レイアウト設定」画面の設定項目」（56 ページ）をご覧ください。

① 必要に応じて、レイアウトの名前を設定する。
32 文字以内で入力できます。

② モニターフレームの数と配列を設定する。
［テンプレート］をクリックし、表示される「テンプレートの挿入」ダイアログで各項目を設定し、［OK］をクリックします。

各項目の詳細は、「「テンプレートの挿入」ダイアログの設定項目」（60 ページ）をご覧ください。

③ 必要に応じて、背景に地図やフロアの間取り図などの画像を取り込む。
［背景の挿入］をクリックし、表示される「背景の挿入」ダイアログで各項目を設定し、［OK］をクリックする。

各項目の詳細は、「「背景の挿入」ダイアログの設定項目」（60 ページ）をご覧ください。

④ 必要に応じてモニターフレームを動かして位置を決める。
マウスでドラッグするとモニターフレームが移動します。

⑤ 必要に応じて、ホットスポットモニターを設定する。
ホットスポットモニターに指定するモニターフレームを 1 つクリックして選択し、［ホットスポット］をクリックします。
ホットスポットモニターには、メイン画面で選択したモニターフレームに表示される画像と同じものが表示されます。ホットスポットモニターは、モニターフレームの画像を見やすくするため、通常のモニターフレームよりも大きい画面を指定します。

⑥ 必要に応じて、［プロパティ］の各タブを設定する。
各タブの設定項目については、「プロパティの設定項目」（58 ページ）をご覧ください。

4 各項目を設定したら、［適用］をクリックする。

レイアウトが作成されます。

登録内容を変更するには

1 「レイアウト設定」画面で、登録内容を変更したいレイアウトを選択する。

2 各項目を設定しなおす。

3 ［適用］をクリックする。

設定が変更されます。

レイアウトを削除するには

メモ

デフォルトレイアウトは削除できません。

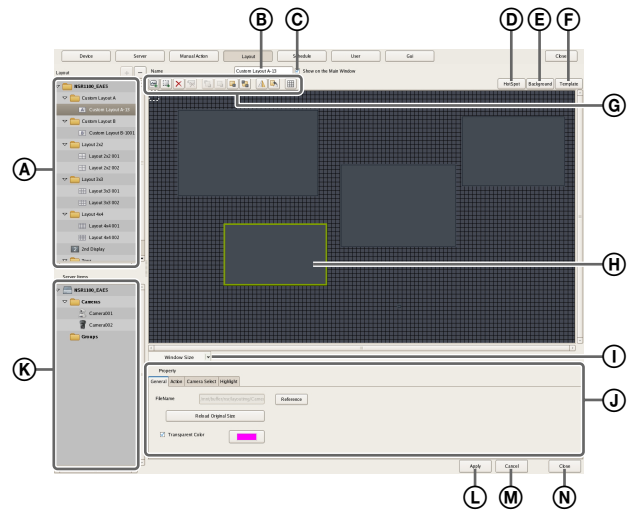
1 「レイアウト設定」画面で、［レイアウト］ツリーから削除したいレイアウトを選択し、－（削除）をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

2 ［OK］をクリックする。

レイアウトが削除されます。

「レイアウト設定」画面の設定項目

本画面は、［設定］画面で［レイアウト］をクリックすると表示されます。
設定を変更したら、［適用］をクリックして設定を保存します。

Ⓐ［レイアウト］ツリー
設定されているレイアウトがツリー形式で一覧表示されます。
ツリーでレイアウトを選択すると、右側のエリアに設定内容が表示されます。

＋（追加）
新規にレイアウトを作成します。
「Custom Layout A」または「Custom Layout B」を選択し、このボタンをクリックします。

メモ

「Custom Layout A」と「Custom Layout B」は、あらかじめ設定されているレイアウトグループです。用途に応じてお使いください。

－（削除）
レイアウトを削除します。
ツリーから削除したいレイアウトを選択し、このボタンをクリックすると、レイアウトが削除されます。

メモ

デフォルトレイアウトは削除できません。

Ⓑ 名前
レイアウトの名前を32文字以内で入力します。

Ⓒ **メイン画面に表示**
このレイアウトをメイン画面で表示できるようにするときにチェックマークを付けます。

Ⓓ **ホットスポット**
ホットスポットモニターを設定します。
ホットスポットモニターに指定するモニターフレームを1つクリックして選択し、このボタンをクリックします。
ホットスポットモニターを設定すると、あるモニターフレームをクリックしたとき、またはアラームが発生したときに、ホットスポットモニターとして設定されているモニターフレームに画像が表示されます。
ホットスポットモニターには、メイン画面で選択したモニターフレームに表示される画像と同じものが表示されます。
ホットスポットモニターは、モニターフレームの画像を見やすくするため、通常のモニターフレームよりも大きい画面を指定します。

Ⓔ **背景の挿入**
背景に地図やフロアの間取り図などの画像を取り込むための「背景の挿入」ダイアログ（60 ページ）を表示します。

Ⓕ **テンプレート**
モニターフレームの数と配列を設定するための「テンプレートの挿入」ダイアログ（60 ページ）を表示します。

Ⓖ **ツールボタン**

（イメージの挿入）
画像を挿入するための「画像の挿入」ダイアログ（61 ページ）を表示します。

（イメージマップの挿入）
イメージマップを挿入します。

（アイテムの削除）
選択したアイテムを削除します。

（割り当てカメラの削除）
選択した画像に割り当てられているカメラを削除します。

（最前面に移動）
選択した画像を最前面に移動します。

（前面に移動）
選択した画像を前面に移動します。

（背面に移動）
選択した画像を背面に移動します。

（最背面に移動）
選択した画像を最背面に移動します。

（反転）
選択した画像を左右対称に反転します。

（回転）
選択した画像を時計回りに 90 度回転します。

（グリッド）
モニターフレームや画像の配置を補助するためのグリッド線を表示します。

Ⓗ **モニターフレーム**
モニターフレームは、レイアウトの設定エリアでマウスを任意の大きさにドラッグしたり、テンプレートを使用したりすることにより作成できます。
ライブ画像のモニタリングや、記録を再生するときに使います。
モニターフレームごとに、画像を表示するカメラを指定できます。
ホットスポットモニターとして大きいモニターフレームを設定すると、選択したモニターフレームと同じ画像を大きく表示することができます。

Ⓘ **実際のサイズ／ウィンドウサイズ**
レイアウトの編集時に、全体を見たい場合は［ウィンドウサイズに合わせる］を選択します。
実際のスケールで確認したい場合は、［実際のサイズ］を選択します。

Ⓙ **プロパティタブ**
モニターフレームや画像、イメージマップを詳細に設定するためのタブが表示されます。各タブの設定項目については、「プロパティの設定項目」（58 ページ）をご覧ください。

Ⓚ **［デバイス］ツリー**
NSR に登録されているデバイスがツリー形式で表示されます。
レイアウトを作成する際に、モニターフレームに［デバイス］ツリー上のカメラをドラッグ＆ドロップすることで、カメラを割り当てることができます。

Ⓛ **適用**
設定を保存します。

Ⓜ **キャンセル**
設定の変更をキャンセルします。

Ⓝ **閉じる**
画面を閉じます。

プロパティの設定項目

■モニターフレーム選択時

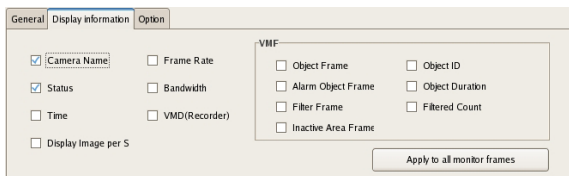
- **［一般］タブの設定項目**

モニターフレームに割り当てるカメラを選択します。

カメラ

モニターフレームに割り当てるカメラを選択します。

- **［情報表示］タブ**

モニターフレームに表示する項目にチェックマークを付けます。

カメラ名

「デバイス設定」ウィンドウで設定されているカメラの名前を表示します。

状態

「未接続」などのエラーメッセージを表示します。

時刻

現在の時刻を表示します。

表示フレーム数

ディスプレイに表示されるカメラ画像が更新される速度を表示します。

フレームレート

カメラ画像を取り込む速度を表示します。

帯域

ネットワーク接続で画像を転送するために使用する帯域の値を表示します。

VMD（レコーダー）

Video Motion Detection（レコーダー）の検知状況を表示します。

VMF

モニターフレームに表示させる Video Motion Filter の情報を選択します。

対象枠

オブジェクト枠を表示します。

アラーム対象枠

アラームとして検知されたオブジェクト枠を表示します。

フィルター枠

フィルターの枠線を表示します。

非検知エリア

非検知エリアの枠線を表示します。

対象 ID

オブジェクトの ID を表示します。

滞在時間

物体が動体として認識されている時間、または物体が置き去りにされた、または持ち去られたと認識されている時間を表示します。

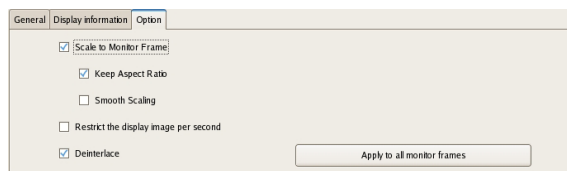
検知カウント

フィルターの条件が満たされた回数を表示します。

全てのモニターフレームに適用

チェックマークを付けた項目をすべてのモニターフレームに対して適用します。

- **［オプション］タブ**

モニターフレームのサイズを変更するときに、画像の大きさをどのように表示するかを選択します。

モニターフレームに合わせる

モニターフレームのサイズに合わせて、画像が拡大／縮小されます。

縦横比を保持

モニターフレームのサイズに関わらず、画像の縦横比が維持されます。

滑らか表示

画像が滑らかに拡大／縮小されます。
画像が拡大／縮小されるときの画質を向上できます。

表示フレーム数を制約する

1フレームのみを表示させることで、システムの負荷を軽減します。
この機能は、コーデックがMPEG4/H.264のカメラに対してのみ有効となります。

インターレース解除

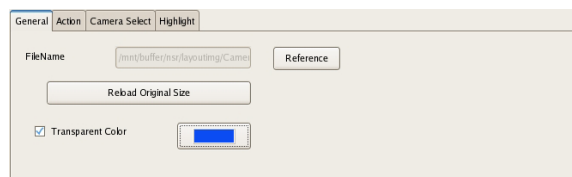
インターレース縞を軽減します。この機能は、デバイスがNSBK-A16/A16Hで、解像度に2CIFを選択したときのみ有効となります。

全てのモニターフレームに適用

チェックマークを付けた項目をすべてのモニターフレームに対して適用します。

■画像、イメージマップ選択時

• ［一般タブ］タブ

挿入した画像やイメージマップに関する設定をします。

ファイル名

［参照］をクリックし、挿入する画像ファイルを指定します。

元のサイズに設定

元画像と同じ大きさで表示します。

透過色

画像内の1つの色を透過するように設定できます。
チェックマークを付け、ボックス内をクリックして表示されるダイアログで透過させる色を指定します。

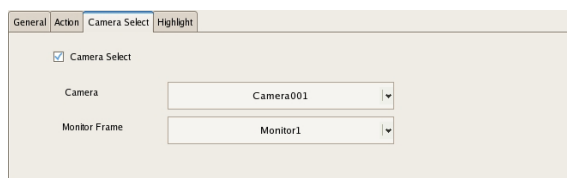
• ［アクション］タブ

選択した画像やイメージマップに動作を割り当てます。
選択した画像やイメージマップに動作（アクション）を割り当てると、画像内をマウスでクリックすることによって、設定した動作が実行されます。

クリックアクション

アクションを有効にするときにチェックマークを付け、実行するアクションを選択します。

• ［カメラ選択］タブ

画像やイメージマップ選択時に、指定したカメラの画像を指定したモニターフレームに表示させる機能を設定します。

カメラ選択

本機能を有効にするときにチェックマークを付け、以下の項目を設定します。

サーバー

リモートサーバーを選択します。
この項目は、クライアントのときに表示されます。

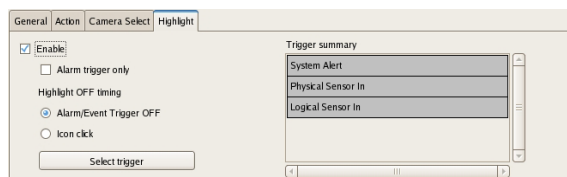
カメラ

モニターフレームに割り当てるカメラを選択します。

モニターフレーム

カメラの画像を表示させるモニターフレームを選択します。

• ［ハイライト］タブ

指定した条件で、レイアウト上に配置されているイメージをハイライト表示（赤色の枠が点滅）させる機能を設定します。

有効

ハイライト表示機能を有効にするときにチェックマークを付けます。

アラーム発生時のみ
アラーム発生時にのみアイコンをハイライト表示するときにチェックマークを付けます。

ハイライト終了のタイミング
ハイライト表示を終了させるタイミングを選択します。

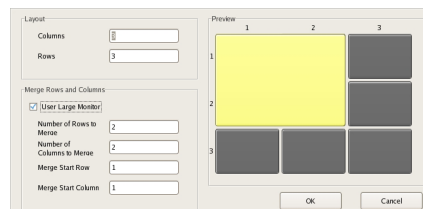
アラーム / イベントの終了
トリガーとなるアラームまたはイベントが終了したときにハイライト表示が消えます。

アイコンクリック
画像をクリックしたときにハイライト表示が消えます。

トリガー選択
ハイライト表示させるトリガーを選択するための「トリガー選択」ダイアログの設定項目 （61 ページ）を表示します。

トリガーのサマリー
「トリガー選択」ダイアログ（61 ページ）で選択したトリガーが一覧表示されます。

「テンプレートの挿入」ダイアログの設定項目

新規にレイアウトを作成します。
本ダイアログは、「「レイアウト設定」画面の設定項目」（56 ページ）で［テンプレートの適用］をクリックしたときに表示されます。
各項目を設定したら、［OK］をクリックします。

レイアウト
画面に表示したいカメラモニターフレームの数を列数と行数で設定します。

列
横にいくつモニターフレームを並べるかを列数で入力します。

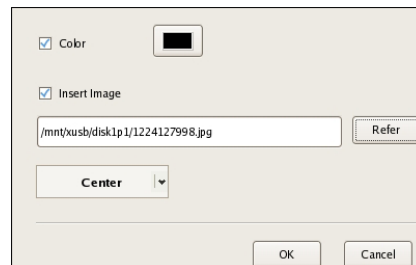
行
縦にいくつモニターフレームの並べるかを行数で入力します。

行と列を結合する
ホットスポットモニターとして使用する場合など、通常のモニターフレームよりも大きい画面を設定したいときにチェックマークを付け、プレビューで確認しながら結合する行と列を指定します。

OK
設定した内容でレイアウトが作成され、ダイアログを閉じます。

キャンセル
設定をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

「背景の挿入」ダイアログの設定項目

背景に地図やフロアの間取り図などの画像を取り込みます。
本ダイアログは、「「レイアウト設定」画面の設定項目」（56 ページ）で［背景］をクリックしたときに表示されます。
各項目を設定したら、［OK］をクリックします。

色
背景の色を設定するときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、ボックスをクリックし、表示されるダイアログで色を指定します。

画像
背景に画像を挿入するときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、［参照］をクリックし、挿入する画像データを指定します。

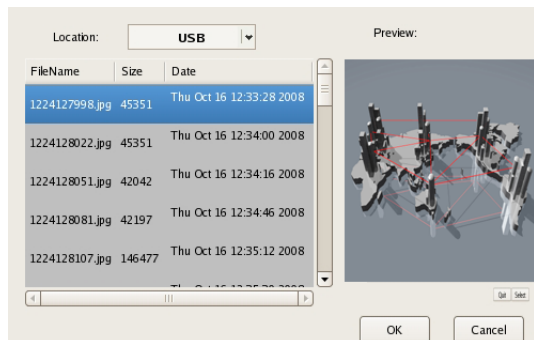
拡大して表示
画像を背景いっぱいに拡大して表示します。

中心に表示
画像を背景の中心に表示します。

OK
設定した内容で画像が挿入され、ダイアログを閉じます。

キャンセル
設定をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

「画像の挿入」ダイアログの設定項目

挿入する画像ファイルを設定します。
本ダイアログは、「「レイアウト設定」画面の設定項目」（56 ページ）で（イメージの挿入）をクリックしたときに表示されます。
各項目を設定したら、［OK］をクリックします。

場所

画像ファイルが格納されているメディアを選択し、画像ファイルを選択します。
メディアを選択すると、格納されている画像ファイルが一覧表示されます。

プレビュー

リストで選択した画像ファイルの内容が表示されます。

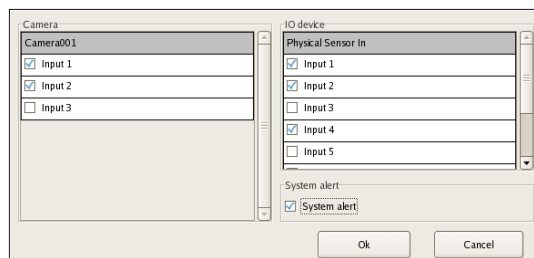
OK

選択した画像が挿入され、ダイアログを閉じます。

キャンセル

設定をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

「トリガー選択」ダイアログの設定項目

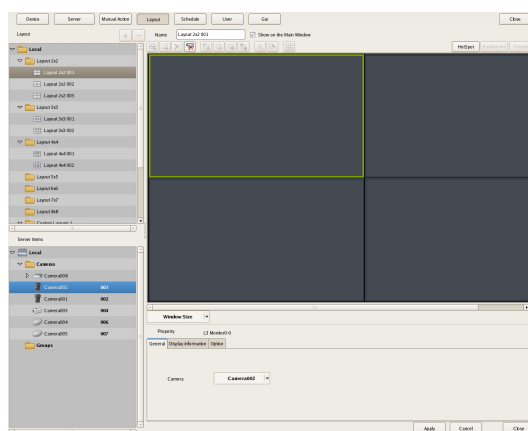
ハイライト表示させるためのトリガーを選択します。
本ダイアログは、［ハイライト］タブ（59 ページ）の［トリガー選択］をクリックしたときに表示されます。
ハイライト表示させるトリガーにチェックマークを付けたら、［OK］をクリックします。

モニターフレームにカメラを割り当てる

各モニターフレームに画像を表示するカメラを割り当てます。

1 「レイアウト設定」画面の［レイアウト］ツリーからレイアウトを選択する。

2 モニターフレームにカメラを割り当てる。

カメラを割り当てるには以下の方法があります。

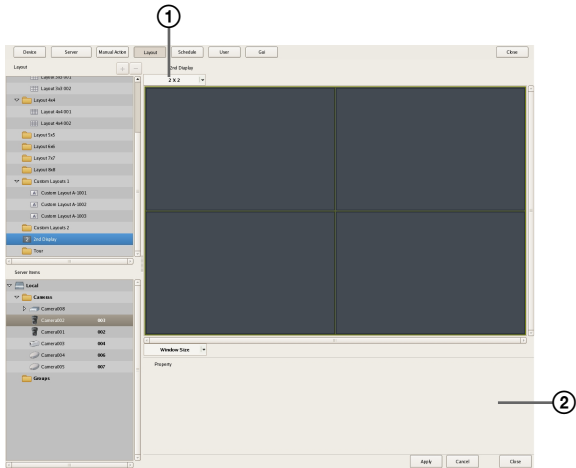
- ［デバイス］ツリーからモニターフレームにカメラをドラッグ＆ドロップする。
- モニターフレームを選択し、画面下部の［一般］タブでカメラを選択する。

セカンドモニターを設定する

セカンドモニターを設置している場合に、セカンドモニターで使用するレイアウトを選択したり、モニターフレームに関する設定を行います。
セカンドモニターは、ホットスポットモニターとしてのみ使用できます。

メモ

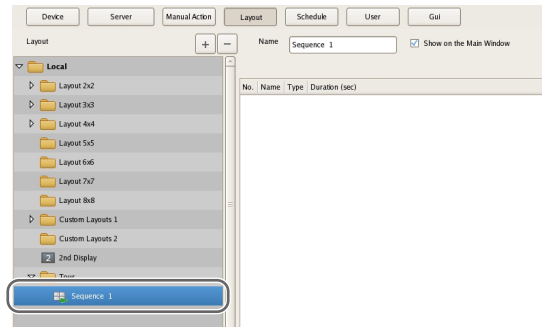
セカンドモニターには、あらかじめ 1 × 1、2 × 2、3 × 2、3 × 3、4 × 4 のレイアウトが用意されています。カメラの割り当てやモニターフレームの変更などはできません。

1 「レイアウト設定」画面の［レイアウト］ツリーから「2nd ディスプレイ」を選択する。

2 各項目を設定する。

① 使用するレイアウトを選択する。

② 必要に応じて、モニターフレームに関する設定を行う。
設定項目については、「モニターフレーム選択時」の「[情報表示] タブ」（58 ページ）、「[オプション] タブ」（58 ページ）をご覧ください。

3 ［適用］をクリックする。

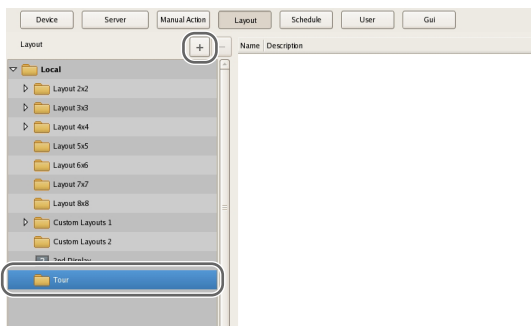
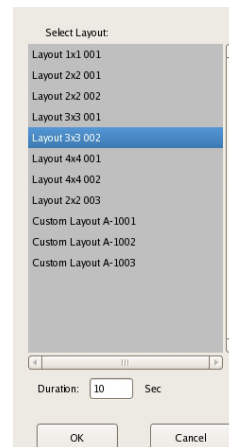
設定が保存されます。

レイアウトツアーを設定する

モニタリング中に、あらかじめ設定しておいた時間でディスプレイの表示を次々に切り替えるレイアウトツアーを設定できます。

新規にレイアウトツアーを作成するには

1 「レイアウト設定」画面の［レイアウト］ツリーから「レイアウトツアー」を選択し、[＋]（追加）をクリックする。

ツリーにレイアウトツアーが追加されます。

2 レイアウトツアーを作成する。

① リストの右側にある [＋]（追加）をクリックし、表示される「レイアウトツアー」ダイアログで、レイアウトと表示期間（秒）を指定して、［OK］をクリックする。

「レイアウトツアー」画面のリストにレイアウトが追加されます。
同様にして、ツアーで表示させるレイアウトをリストに追加します。

② ツアーの名前を入力する。

③ 表示順を変更したいときは、リストでレイアウトを選択し （ツアーのレイアウトを一つ上に）または （ツアーのレイアウトを一つ下に）をクリックする。
レイアウトは、リストの上から順に表示されます。

④ 表示期間を変更したいときは、ボックスをクリックし、秒単位で入力しなおす。

⑤ このレイアウトツアーをメイン画面で指定できるようにするときにチェックマークを付ける。

3 各項目を設定したら、［適用］をクリックする。

登録内容を変更するには

1 「レイアウト設定」画面の［レイアウト］ツリーから登録内容を変更したいレイアウトツアーを選択する。

2 各項目を設定しなおす。

3 ［適用］をクリックする。

設定が変更されます。

レイアウトツアーを削除するには

1 「レイアウト設定」画面の［レイアウト］ツリーから削除したいレイアウトツアーを選択し、 −（削除）をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

2 ［はい］をクリックする。

レイアウトツアーが削除されます。

動体検知の設定をする

動体検知は、カメラ画像またはカメラ画像のメタデータから動体、不動体を検知する機能です。NSR では、デバイスごとに以下の動体検知機能を 1 種類設定できます。

- **VMD（レコーダー）（64 ページ）**
  NSR 自身が持つ動体検知機能です。
- **VMD（カメラ）（66 ページ）**
  カメラによる動体、不動体検知機能です。
- **VMF（69 ページ）**
  メタデータによる動体検知機能です。

メモ

動体検知の機能は、カメラと NSR に装備されていますが、カメラの動体検知機能（VMD（カメラ））を利用すると、NSR のシステム負荷を軽減できます。カメラの登録台数や記録・モニタリングの運用形態に応じて、どちらを利用するか決めてください。

動体検知と不動体検知について

動体検知とは

動いている物体（例：人や車など）を検知する機能です。

不動体検知とは

動いていた物体が静止したこと（置き去り）や、元々あったものが移動したこと（持ち去り）を検知する機能です。

カメラ画像のメタデータによる動体検知とは

カメラ内で生成された動体に関するメタデータに対して、動体の検出条件であるフィルター（VMF：Video Motion Filter）をかけ、特定の現象を検出する機能です（画像は用いず、メタデータだけで検出します）。メタデータによる動体検知では、カメラからリアルタイムに配信されるメタデータからだけでなく、記録済みのメタデータに対しても、フィルターをかけることができます。

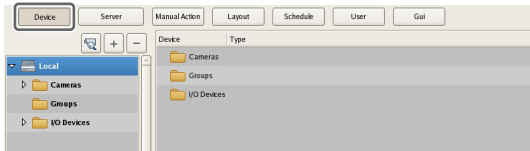
ご注意

- 動体検知機能を使用する際には、必ずテストを行ってから運用してください。
- 不動体検知では、開始時に最低約 40 秒の初期化時間が必要です。また、動きを止めてから最低約 40 秒経過した検知物が不動体とみなされます。

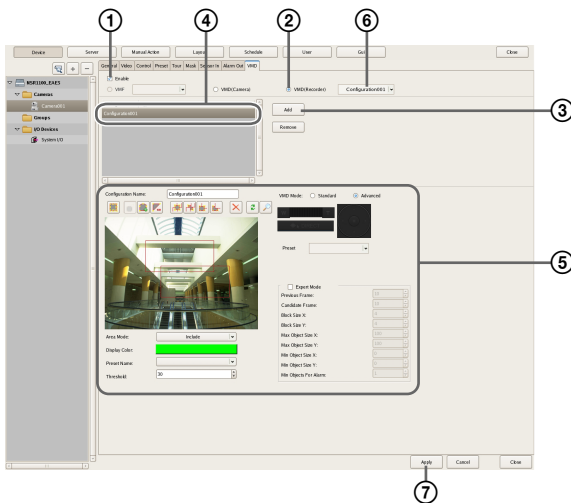
第 4 章　各種設定

NSR の動体検知機能を使う（VMD（レコーダー））

NSR で行う動体検知機能を設定します。

1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

2 画面左側の［デバイス］ツリーからカメラを選択する。

3 ［VMD］タブで、各項目を設定する。

各項目の詳細は、「［VMD］タブ（VMD（レコーダー））の設定項目」（64 ページ）をご覧ください。

① ［有効］にチェックマークを付ける。

② ［VMD（レコーダー）］を選択する。

③ ［追加］をクリックする。
領域設定が追加されます。

④ 設定する領域設定を選択する。

⑤ プレビューで確認しながら、動体検知領域を作成・編集する。

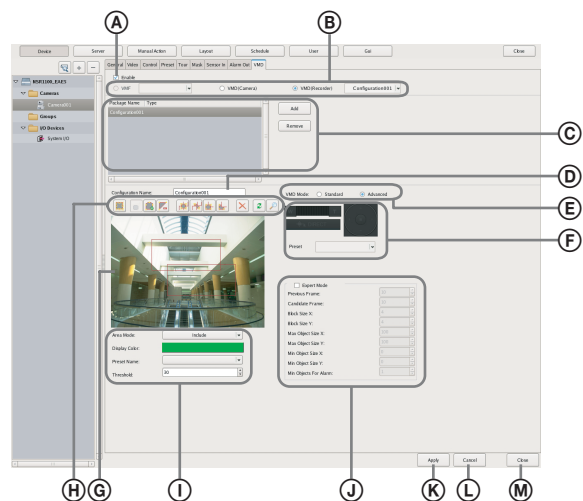
⑥ 標準領域設定として使用する設定を選択する。
標準領域設定は、アラーム記録スケジュールの時間外において、モニタリングやマニュアル記録などで使用されます。

⑦ ［適用］をクリックする。

動体検知領域が設定され、VMD（レコーダー）設定がリストに追加されます。

［VMD］タブ（VMD（レコーダー））の設定項目

本画面は、［設定］画面で［デバイス］をクリックし、［VMD］タブで［VMD（レコーダー）］を選択すると表示されます。
設定を変更したら、［適用］をクリックして設定を保存します。

Ⓐ 有効
動体検知機能を有効にするときにチェックマークを付けます。

Ⓑ 動体検知機能の種類
ここでは［VMD（レコーダー）］を選択します。
ここで選択した動体検知機能によって、以降の設定項目が変わります。
ドロップダウンメニューでは、標準領域設定として使用する領域設定を選択します。
標準領域設定は、アラーム記録スケジュールの時間外において、モニタリングやマニュアル記録などで使用されます。

Ⓒ 領域設定リスト
このカメラに設定されている領域設定が一覧表示されます。

[追加]

新規に設定を追加します。

[削除]

選択した設定を削除します。

Ⓓ 設定名
領域設定の名前を入力します。
ここで設定した名前は、検知領域で検知された動体をトリガーとするアラームのスケジュールを設定するときに使用されます。

Ⓔ VMD モード
高性能モードまたは標準モードを選択します。
モードによって性能に違いがあるため、利用環境を確認してから設定してください。
- 高性能モードに比べて標準モードの方が、同時により多くのカメラの動体検知を行えます。
- 高性能モードの方が検知精度が優れています。
- VMD モードを変更した場合、［比較画像枚数］と［検知判定回数］には各モードのデフォルト値が設定されますので、ご注意ください。

Ⓕ 画像制御部
プレビューに表示させる画像を制御します。
操作のしかたはメイン画面と同じです。「メイン画面の機能と使いかた」（111 ページ）をご覧ください。

Ⓖ プレビュー
ライブ画像または記録画像が表示されます。

Ⓗ ツールボタン
プレビューで画像を確認しながら動体検知領域を作成・編集します。

（多角形の移動）

マウスをドラッグして長方形の領域を作成したり、領域を移動するときに使います。

（ポイントの編集）

ポイントの位置を移動して、複雑な形状の領域を作成するときに使います。

（ポイントの追加）

辺を特定の位置で分割するときに使います。
辺の上で Ctrl キーを押しながらクリックすると、領域に編集ポイントが追加されます。

（ポイントの削除）

辺の数を 1 つ減らすときに使います。
編集ポイントの上で Ctrl キーを押しながらクリックすると、領域の編集ポイントが削除されます。

（最前面に移動）

選択した領域を領域の重なりの一番上に移動します。

（最背面に移動）

選択した領域を領域の重なりの一番下に移動します。

（前面に移動）

選択した領域を領域の重なりの 1 つ上に移動します。

（背面に移動）

選択した領域を領域の重なりの 1 つ下に移動し

（多角形の削除）

選択した領域を削除します。

（画像のリフレッシュ）

すべての領域を含む静止画を更新します。

（プレビュー）

動体検知領域を含むカメラのライブ映像を表示します。
設定した領域でどのように表示されるかを確認できます。

Ⓘ 検知領域モード
設定領域の内側を検知するか、外側を検知するかを選択します。
設定領域内の動体を検知するときは［矩形領域内］を、すべての設定領域の外側の動体を検知するときは［矩形領域外］を選択します。

表示色

ボックスをクリックし、表示されるダイアログで、動体検知枠の塗り色を選択します。

しきい値

動体を検知するしきい値を 1 ～ 100 の範囲で設定します。

Ⓙ エキスパートモード
詳細な設定を行うときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けると、以下の項目が設定できるようになります。

比較画像枚数

物体が移動したと判断するために、比較する元となる画像の数をフレーム数で指定します。
指定された数のフレームを使用して、検知する候補となるフレームの選出とノイズの除去を行います。

ご注意

この枚数が多くなると、ノイズの除去をしやすくなりますが、処理の負荷が増すため、処理速度が遅くなります。

検知判定回数

この値を元に、動体候補が動体と検知されるために必要な判定回数が設定されます。

検知単位（横画素数）

検知しようとする領域の横の長さを、画素数（ピクセル数）で指定します。

検知単位（縦画素数）

検知しようとする領域の縦の長さを、画素数（ピクセル数）で指定します。

最大動体矩形（横%）

検知しようとする動体の横の長さの最大値を、%で指定します。

最大動体矩形（縦%）

検知しようとする動体の縦の長さの最大値を、%で指定します。

最小動体矩形（横%）

検知しようとする動体の横の長さの最小値を、%で指定します。

最小動体矩形（縦%）

検知しようとする動体の縦の長さの最小値を、%で指定します。

アラーム動体矩形数

アラームを通知するための動体矩形の数を指定します。

Ⓚ 適用

設定を保存します。

Ⓛ キャンセル

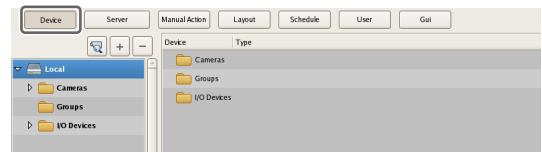
設定の変更をキャンセルします。

Ⓜ 閉じる

画面を閉じます。

カメラの動体検知機能を使う（VMD（カメラ））

カメラによる動体、不動体検知機能（VMD（カメラ））を使用するには、以下の手順で VMD（カメラ）端子を設定し、動体検知、不動体検知エリアを設定します。
動体検知、不動体検知エリアの設定項目は、使用するカメラによって異なります。

1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

2 ［VMD］タブで、各項目を設定し、動体検知エリアを設定する。

各項目の詳細は、「［VMD］タブ（VMD（カメラ））の設定項目」（67 ページ）をご覧ください。

① ［有効］にチェックマークを付ける。

② ［VMD（カメラ）］を選択する。

③ プレビューで確認しながら、動体検知エリアを設定する。

④ ［適用］をクリックする。

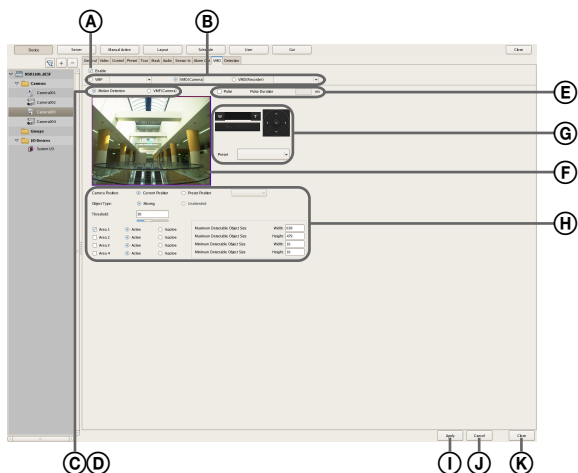
動体検知領域が設定されます。

［VMD］タブ（VMD（カメラ））の設定項目

本画面は、［設定］画面で［デバイス］をクリックし、［VMD］タブで［VMD（カメラ）］を選択すると表示されます。
設定を変更したら、［適用］をクリックして設定を保存します。

メモ

Ⓒ、Ⓖ の設定項目は、使用するカメラによって異なります。

Ⓐ 有効

動体検知機能を有効にするときにチェックマークを付けます。

Ⓑ 動体検知機能の種類

ここでは［VMD（カメラ）］を選択します。
ここで選択した動体検知機能によって、以降の設定項目が変わります。

Ⓒ 動体検知

カメラによる動体、不動体検知を行います。
ここを選択したときは、本画面で動体検知エリアなどを設定します。

Ⓓ VMF（カメラ）

VMF 検知機能を持つカメラの場合に、カメラ側で設定された VMF を使って動体検知を行うときに選択します。
ここを選択したときは、カメラ側の設定画面（Web ブラウザ上）で VMF の設定を行ってください。

Ⓔ パルス

パルス間隔を指定して入力したいときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、［パルス間隔］を入力します。

パルス間隔

VMD（カメラ）端子の入力がオンになってから、オンの状態を持続させる期間をミリ秒単位で入力します。

Ⓕ プレビュー

カメラからの画像が表示されます。
以下の方法で、動体を検知するエリアを作成します。

- 画像上をマウスでドラッグし、動体を検知するエリア（赤い枠）を作成する。
  エリアの各辺をドラッグすると、エリアの大きさを変更できます。
- ［検知エリア］ボックスにピクセル値を入力して設定する。

パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合、領域を設定しやすいようにカメラの向きやズームを変えるときに使います。

Ⓗ 詳細設定

必要に応じて、詳細な設定を行います。

カメラ位置の選択

設定するカメラ位置を選択します。

現在位置

カメラがどこを向いていても、画面上の同じ場所に対して処理を行う設定をするときに選択します。

プリセット位置

プリセットごとに設定するときに選択します。
ここを選択したときは、ドロップダウンメニューからプリセットを選択し、そのプリセット位置にカメラを移動させます。
設定したプリセット位置にカメラが移動したときに、その設定が有効となります。あるプリセット位置ではほかのプリセット位置の設定を使用することはできません。

検知対象種別

［動体］または［不動体］を選択します。
［動体］、［不動体］によって、以下の項目が異なります。
1つの画面内では、［動体］、［不動体］のどちらか一方しか設定できません。

- **動体の場合**
  しきい値
  動体を検知するしきい値を入力します。
- **不動体の場合**
  検知時間
  物体が静止してから不動体として認識され、アラームが発生するまでの時間を40 ～ 43200の範囲（秒単位）で入力します。
  設定した時間内で再び物体が動くと、カウントは解除されます。

ご注意

不動体検知（アラーム発生）後、最大1分、他の不動体が発生してもアラームが発生しない場合があります。

検知エリア１～検知エリア４

各検知領域の検知／非検知を選択します。

最小検知対象サイズ

検知する物体の最小の大きさを入力します。または、最小検知対象サイズ設定枠（水色）をマウスでドラッグし、大きさを設定します。各辺をドラッグすると、大きさを変更できます。設定枠の削除はできません。

最大検知対象サイズ

検知する物体の最大の大きさを入力します。または、最大検知対象サイズ設定枠（青色）をマウスでドラッグし、大きさを設定します。各辺をドラッグすると、大きさを変更できます。設定枠の削除はできません。

Ⓘ 適用

設定を保存します。

Ⓙ キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

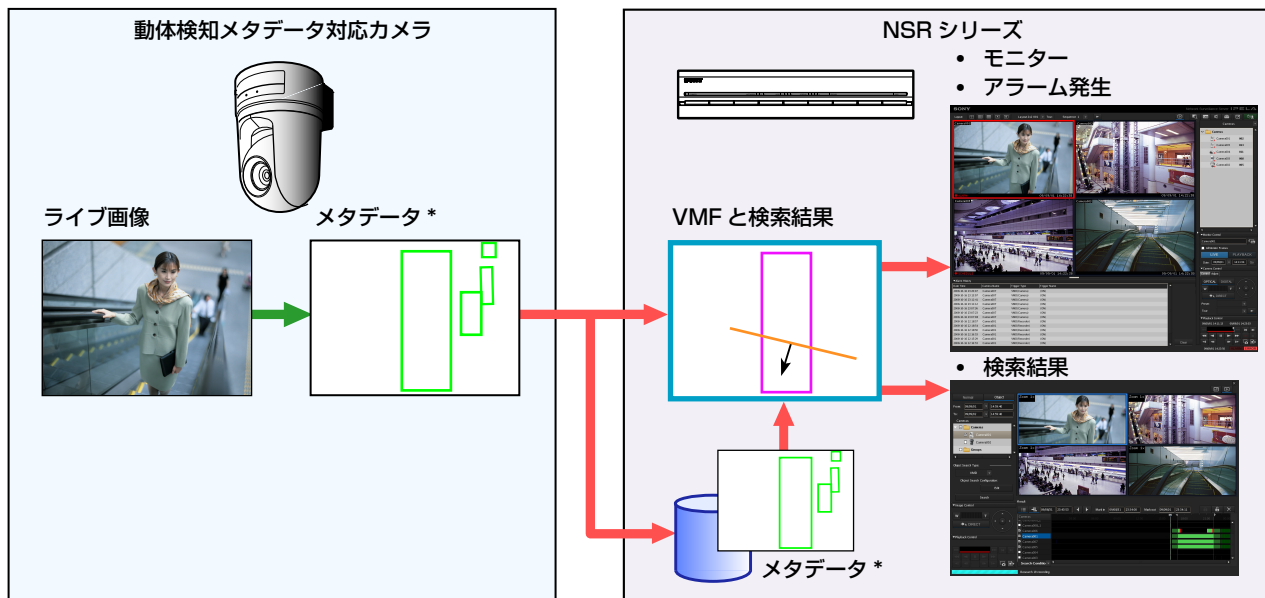
Ⓚ 閉じる

画面を閉じます。

メタデータによる動体検知を行う（VMF）

動体検知メタデータ対応カメラの場合に、メタデータによる動体検知に使用する VMF（Video Motion Filter）に関する設定を行います。
VMF とは、カメラ内で生成された動体に関するメタデータから特定の現象を検出するためのフィルターです。

VMF には、動体用と不動体用があり、3 つまでの VMF を 1 つにまとめて VMF パッケージとして管理されます。組み合わせには、順番に現象が発生することをとらえる順序型と、どれか 1 つのフィルターでも成立すればアラームとなる独立型があります。

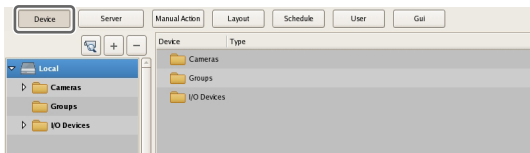
カメラ画像のメタデータによる動体検知の概念

＊メタデータには、時間やカメラ情報、動体の位置、種類、状態などが書かれています。

メモ

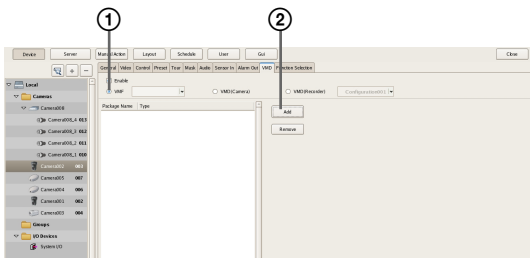
- メタデータを使用して動体、不動体検知を行う場合は、動体検知メタデータに対応しているカメラが必要です。
- 動体検知用 VMF の［存在］タイプでは、オブジェクトを検知した後、オブジェクトが存続する限りアラーム状態が保持されるため、この状態で 2 つ目のアラームが発生しても、アラーム記録の開始は行われません。
- VMF による不動体検知では、オブジェクトが不動体として認識された場合、その（オブジェクトに対象枠が表示される）状態は約 3 時間保持されますが、アラームとして検知された（アラーム対象となり、アラーム対象枠が表示される）状態は約 10 秒で解除されます。
- 1 つのカメラのライブ映像に対する処理に関して、VMF パッケージは、同時には、1 つのみ適用されます。
- メタデータの記録では、記録開始時点で適用されている VMF を元に、動体検知用メタデータか不動体検知用メタデータかが選択されます。判断の優先順位は、次のようになります。
  ① アラーム記録スケジュールに指定されているものがある場合は、その VMF パッケージが動体用か不動体用かによって判断されます。
  ② VMF パッケージが指定されていない場合は、標準パッケージを元に判断されます。
  ③ 標準パッケージも指定されていない場合は、動体検知用メタデータとして記録されます。
- 記録中にパッケージの指定を変更しても、そのパッケージの記録が有効となるのは、次の記録開始時です。また、記録中に VMF を使用しない設定から使用する設定に変更しても、次の記録開始まで、メタデータは記録されません。

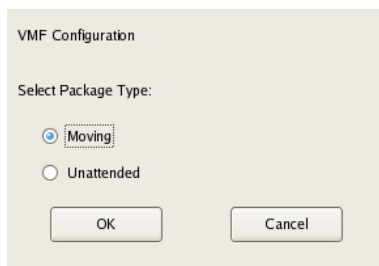
ご注意

不動体検知では、開始時に約 40 秒の初期化時間が必要です。また、動きを止めてから約 40 秒経過した検知物が不動体とみなされます。これらの時間は、状況によって延長されます。

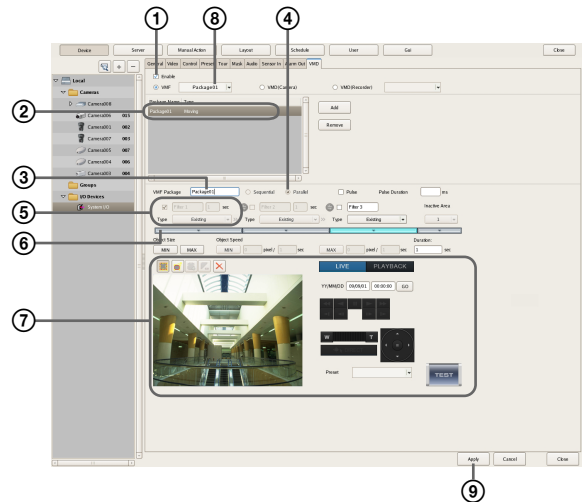
1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

2 画面左側の［デバイス］ツリーから処理の対象となるカメラを選択する。

3 VMF パッケージを追加する。

①［VMF］にチェックマークを付ける。

②［追加］をクリックし、表示される「パッケージタイプの選択」ダイアログで、動体用のパッケージを追加するか、不動体用のパッケージを追加するかを選択し、［OK］をクリックする。

パッケージが追加されます。

4 各項目を設定し、VMF パッケージを設定する。

VMF パッケージは、パッケージが所有する 3 つのフィルター（検出条件）のコンビネーションと各フィルターの詳細設定、パッケージが所有する 6 つの非検知エリアの設定で構成されます。
フィルターと非検知エリアは、以下の手順で設定します。

各項目の詳細は、「［VMD］タブ（VMF）の設定項目」（71 ページ）をご覧ください。

①［有効］にチェックマークを付ける。

② 設定するパッケージを選択する。

③ 必要に応じて、パッケージの名前を変更する。

④ フィルターの組み合わせかた（［順序型］または［独立型］）を選択します。

メモ

順序型を選択する場合は、2 つ以上のフィルターを設定してください。

ご注意

順序型と独立型を切り替えるには、各フィルターと非検知エリアの が すべてオフになっている必要があります。ボタンが （オン）になっているときは、クリックして （オフ）に切り替えてください。

⑤ フィルター名とフィルタータイプを設定する。

⑥ をクリックして（オン）にする。
（オン）にすると、条件が設定できるようになります。

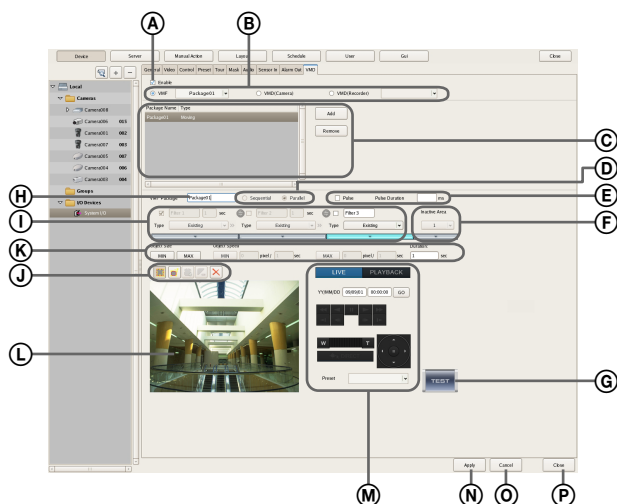
⑦ プレビューで確認しながら、条件を設定する。
同様にして、手順 ⑤ ～ ⑦ を繰り返し、残りのフィルターと非検知エリアを設定します。

⑧ 標準パッケージとして使用するパッケージを選択する。
標準パッケージは、VMF によるアラーム記録スケジュールの時間外において、モニターやマニュアル記録などで使用されます。

⑨［適用］をクリックする。

［VMD］タブ（VMF）の設定項目

本画面は、［設定］画面で［デバイス］をクリックし、［VMD］タブで［VMF］を選択すると表示されます。
設定を変更したら、［適用］をクリックして設定を保存します。

Ⓐ 有効

動体検知機能を有効にするときにチェックマークを付けます。

Ⓑ 動体検知機能の種類

ここでは［VMF］を選択します。
ここで選択した動体検知機能によって、以降の設定項目が変わります。
ドロップダウンメニューでは、標準パッケージとして使用するパッケージを選択します。
標準パッケージは、アラーム記録スケジュールの時間外において、モニターやマニュアル記録などで使用されます。

Ⓒ VMF パッケージリスト

このカメラに設定されている VMF パッケージが一覧表示されます。

［追加］

新規に VMF パッケージを追加するための「パッケージタイプの選択」ダイアログが表示されます。

［削除］

選択した VMF パッケージを削除します。

Ⓓ 順序型

順番にフィルターを適用して、特定の現象を検出するときに選択します。
フィルターは、左から順に適用されます。
ここを選択したときは、フィルターを適用する順番や時間を設定します。
不動体検知のパッケージを設定するときは、［順序型］は設定できません。

独立型

すべての条件を同時に適用して、特定の現象を検出するときに選択します。

ご注意

順序型と独立型を切り替えるには、各フィルターと非検知エリアのがすべてオフになっている必要があります。ボタンが（オン）になっているときは、クリックして（オフ）に切り替えてください。

Ⓔ パルス

パルス間隔を指定して入力したいときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、［パルス間隔］を入力します。

パルス間隔

VMF によって動体／不動体を検知してから、その状態を持続させる期間をミリ秒単位で入力します。

Ⓕ 非検知エリア

非検知エリアを設定します。

（オン）にしてから、Ⓛ のエリアで非検知エリアを作成します。
クリックすると、（オン）／（オフ）が切り替わります。

Ⓖ （プレビュー）

設定したパッケージを用いたフィルタリングを実行し、動作を確認するときに使います。

Ⓗ パッケージ名

パッケージの名前を入力します。

Ⓘ Filter 1 0 sec

このフィルターを有効にするときは、フィルター名の先頭にチェックマークを付けます。
必要に応じて、フィルター名を変更できます。

タイプ

フィルタータイプを選択します。
フィルターは、パッケージタイプ（「動体用」または「不動体用」）によって設定できる種類が異なります。

■動体用

出現

条件に合致する物体が設定したエリア内に出現したことを検出します。
アラーム検知後、動体がエリア内に残っていても、アラームは1秒で解除されます。

消失

条件に合致する物体が設定したエリア内から消えたことを検出します。

存在

条件に合致する物体が設定したエリア内に滞留していることを検出します。

数量

条件に合致する物体の数が設定したエリア内で指定数を超えたことを検出します。

通過

条件に合致する物体が設定したラインを通過したことを検出します。

■不動体用

不動体／持ち去り

不動体または物体が持ち去られたことを検出します。

期間

［順序型］を選択した場合に、左側のフィルターを適用している期間（次のフィルターに移行するまでの時間）を秒単位で入力します。

（オン）にしてから、Ⓛのエリアで非検知エリアを作成します。
クリックすると、（オン）／（オフ）が切り替わります。

左右のフィルターの順番を入れ替えます。

Ⓙ ツールボタン

プレビューで画像を確認しながらフィルターや非検知エリアを作成・編集します。

メモ

- 八角形までの凸型の多角形を設定できます。
- フィルタータイプが［通過］のときは、物体の通過を検知する方向を設定します。終点を設定した後、ラインの中点付近をクリックし、方向を示す矢印を表示させて設定します。矢印の向きは、クリックするたびに、双方向→右向き→左向き→双方向…と変わります。

（多角形の移動）

マウスをドラッグして長方形の領域を作成したり、領域を移動するときに使います。

（ポイントの編集）

ポイントの位置を移動して、複雑な形状の領域を作成するときに使います。

（ポイントの追加）

辺を特定の位置で分割するときに使います。
辺の上でCtrlキーを押しながらクリックすると、領域に編集ポイントが追加されます。

（ポイントの削除）

辺の数を1つ減らすときに使います。
編集ポイントの上でCtrlキーを押しながらクリックすると、領域の編集ポイントが削除されます。

（多角形の削除）

選択した領域を削除します。

Ⓚ 対象サイズ

検知する物体の大きさを設定します。

MIN

検知する物体の最小の大きさを設定します。
設定画面上に表示される水色の枠をマウスでドラッグし、大きさを変更してください。

MAX

検知する物体の最大の大きさを設定します。
設定画面上に表示される青色の枠をマウスでドラッグし、大きさを変更してください。

対象速度

検知する物体の速度を設定します。

［MIN］をクリックし、検知する物体の最小速度を入力します。
設定画面上をマウスでドラッグして線分を描くと、［pixel］欄に数値が入力されます。その距離を何秒で移動するかを設定してください。
また、初期状態では、最小速度はシステム上の最小値に設定されています。
一度設定を変更した後に最小値に戻す場合、速度を示す図形をクリックした後、［MIN］をクリックしてください。

［MAX］をクリックし、検知する物体の最大速度を入力します。
設定画面上をマウスでドラッグして線分を描くと、［pixel］欄に数値が入力されます。その距離を何秒で移動するかを設定してください。
また、初期状態では、最大速度はシステム上の最大値に設定されています。
一度設定を変更した後に最大値に戻す場合、速度を示す図形をクリックした後、［MAX］をクリックしてください。

■期間（フィルタータイプが［存在］、［不動体／持ち去り］の場合）

フィルタータイプが［存在］の場合は、物体が動体として認識されてからアラームが発生するまでの時間を入力します。初期値は1です。
［不動体 / 持ち去り］の場合は、不動体であると認識された時点から、アラームが発生するまでの時間を入力します。

メモ

- 不動体検知では、開始時に約40秒の初期化時間が必要です。
- 物体が不動体として認識されると、約3時間、不動体として認識され続け、オブジェクト枠が表示され続けます。

■対象数（フィルタータイプが［数量］の場合）

設定したエリア内に物体が何個以上検知されたときにアラームを発生させるかを入力します。

■判定部分（フィルタータイプが［通過］の場合）

物体の重心、またはどの辺の中心がラインを越えたときにアラームを発生させるかを選択します。

Ⓛ プレビュー

ライブ画像または記録画像が表示されます。

Ⓜ 画像制御部

プレビューに表示させる画像を制御します。
操作のしかたはメイン画面と同じです。「メイン画面の機能と使いかた」（111 ページ）をご覧ください。

Ⓝ 適用

設定を保存します。

Ⓞ キャンセル

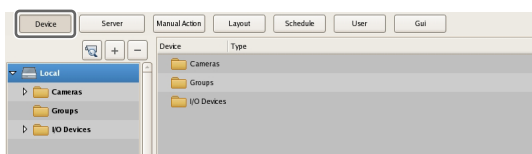
設定の変更をキャンセルします。

Ⓟ 閉じる

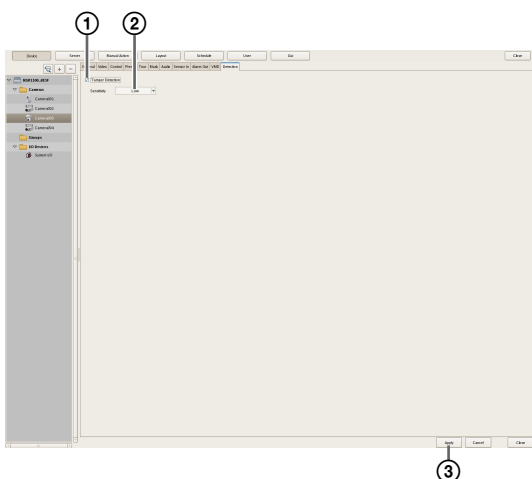
画面を閉じます。

カメラ妨害検知の設定をする

カメラ妨害検知機能を持つカメラの場合に、カメラの向きを変える、スプレーを噴霧するなどの妨害行為を検知する機能を設定できます。
本機能は、カメラに対する妨害行為を検知したときに出力するアラームを、連動するアラームとして使用するときに設定します。

1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

2 画面左側の［デバイス］ツリーからカメラを選択する。

3 ［Detection］タブで、各項目を設定する。

① ［カメラ妨害検知］にチェックマークを付ける。

② カメラに対する妨害行為を検知する感度を設定する。
［高］、［中］、［低］から選択します。

③ ［適用］をクリックする。
カメラ妨害検知機能が設定されます。

ストレージに関する設定をする

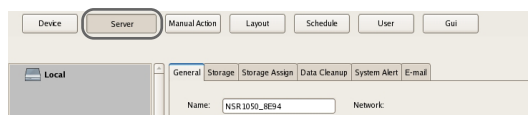
カメラの画像データや音声データの保存場所であるストレージを設定できます。
ストレージは、最大 32 個まで設定でき、ストレージごとに記録するファイルの最大サイズなどを設定できます。
また、ストレージには以下のモードがあり、記録データを分類して保存できます。

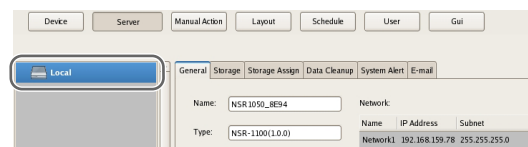
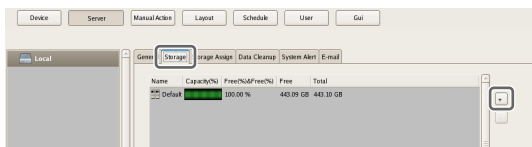
- **［記録種別］モード**
  スケジュール記録やアラーム記録など、記録種別ごとにストレージを指定できます。
- **［カメラ］モード**
  カメラごとに記録データを保存するストレージを指定できます。

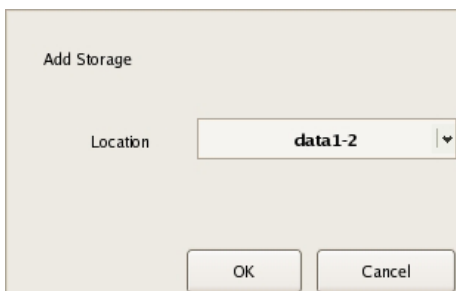
ストレージの設定をする

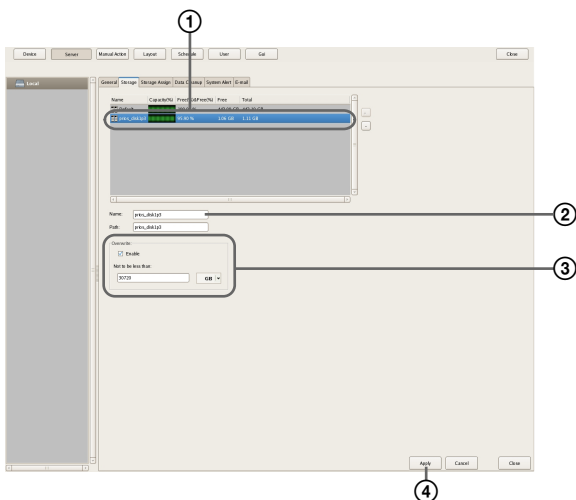
新規にストレージを追加し、ストレージに保存する記録データを指定します。
追加できるのは論理ボリューム単位となります。

新規にストレージを追加する

1 「設定」画面上部にある［サーバー］をクリックする。

「サーバー設定」画面が表示されます。

2 画面左側の［サーバー］ツリーからストレージを設定したいサーバーを選択する。

3 ［ストレージ］タブで、リストの右側にある ＋（ストレージの追加）をクリックする。

「ストレージの追加」ダイアログが表示されます。

4 ストレージを追加する場所を選択し、［OK］をクリックする。

リストにストレージが追加されます。

5 各項目を設定し、［適用］をクリックする。

各項目の詳細は、「［ストレージ］タブの設定項目」（76 ページ）をご覧ください。

① 設定したいストレージを選択する。

② ストレージの名前を入力する。

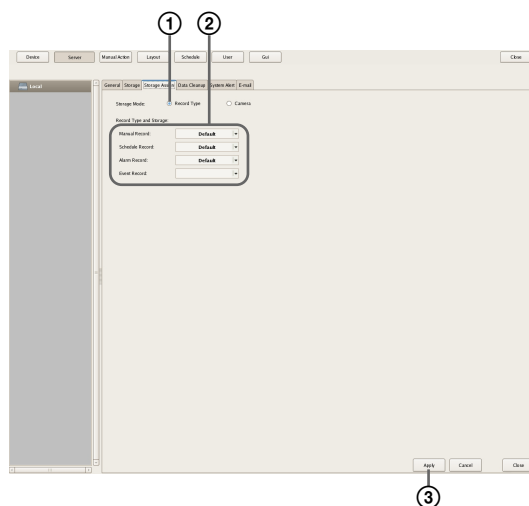
③ 必要に応じて、データの上書きに関する設定をする。

④［適用］をクリックする。
ストレージが追加されます。

記録種別ごとに保存するストレージを設定する（［記録種別］モード）

手動記録やスケジュール記録、アラーム記録など、記録種別ごとにストレージを指定できます。

1 ［サーバー］ツリーからストレージを設定したいサーバーを選択し、［ストレージ割り当て］タブをクリックする。

2 各項目を設定し、［適用］をクリックする。

各項目の詳細は「［ストレージ割り当て］タブの設定項目」（77 ページ）をご覧ください。

①［記録種別］を選択する。

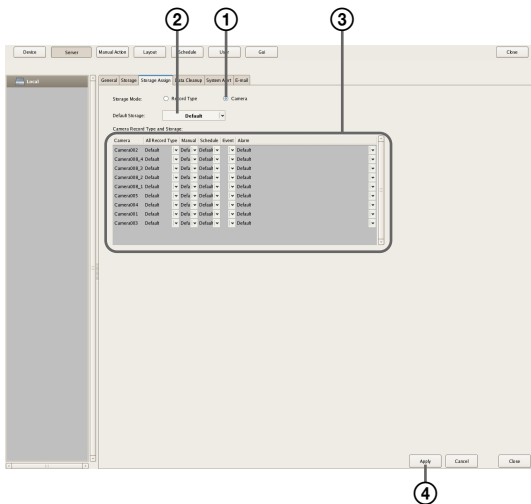
② 記録種別ごとにストレージを選択する。

③［適用］をクリックする。
記録データごとにストレージが設定されます。

カメラごとにストレージを設定する（［カメラ］モード）

カメラごとに記録データを保存するストレージを指定できます。
すべての記録データを 1 つのストレージに保存することも、記録種別ごとに保存するストレージを指定することもできます。

1 ［サーバー］ツリーからストレージを設定したいサーバーを選択し、［ストレージ割り当て］タブをクリックする。

2 各項目を設定し、［適用］をクリックする。

各項目の詳細は、「［ストレージ割り当て］タブの設定項目」（77 ページ）をご覧ください。

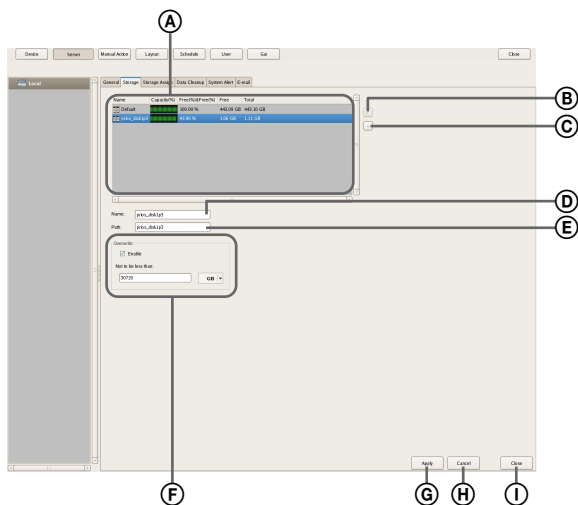
①［記録種別］を選択する。

② デフォルトのストレージを選択する。

③ カメラごとにストレージを選択する。

④［適用］をクリックする。
記録データごとにストレージが設定されます。

［ストレージ］タブの設定項目

本画面は、［設定］画面で［サーバー］をクリックし、［ストレージ］タブをクリックすると表示されます。
各項目を設定したら、［適用］をクリックします。

Ⓐ ストレージリスト

［サーバー］ツリーで選択したサーバーに設定されているストレージが一覧表示されます。

名前
ストレージの名前が表示されます。

容量（%）
ストレージの容量が表示されます。

残り容量（%）
空き領域を％で表示します。

残り容量
空き領域を表示します。

総容量
このストレージの総容量を表示します。

Ⓑ ＋（ストレージの追加）

新規にストレージを追加します。

Ⓒ －（ストレージの削除）

リストで選択したストレージを削除します。

ご注意

ストレージを削除すると、内部のデータもすべて失われます。

Ⓓ 名前

リストで選択したストレージの名前を入力します。

Ⓔ 場所

記録データを保存する場所（パス）が表示されます。
この項目は変更できません。

Ⓕ データ上書き

常にストレージの容量を確保するために、経過日数に関係なく、古いデータから削除していくときに設定します。

有効
データ上書き機能を有効にするときにチェックマークを付けます。
ストレージの空き容量が指定の容量を下回りそうになると、自動的に古いレコード内のファイルから削除します。

最小値
空き容量の最低限度を％または GB で入力します。

Ⓖ 適用

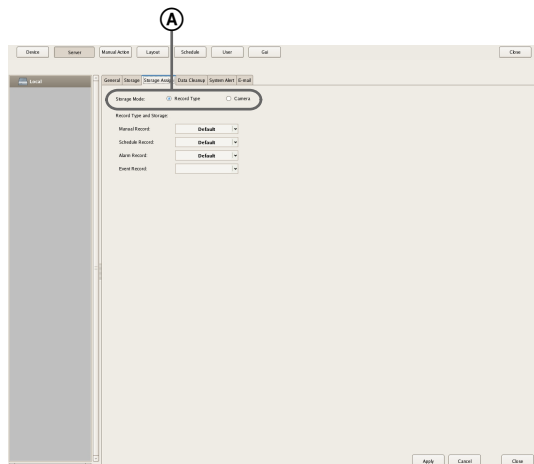
設定を保存します。

Ⓗ キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

Ⓘ **閉じる**
画面を閉じます。

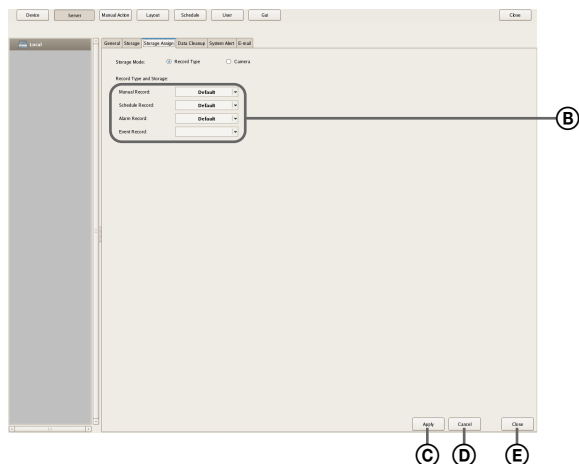
［ストレージ割り当て］タブの設定項目

本画面は、［設定］画面で［サーバー］をクリックし、［ストレージ割り当て］タブをクリックすると表示されます。
各項目を設定したら、［適用］をクリックします。

Ⓐ **ストレージモード**
ストレージに保存する記録データの指定方法を選択します。
ここでの選択によって、設定項目が変わります。

記録種別
スケジュール記録やアラーム記録など、記録種別ごとにストレージを指定するときに選択します。

カメラ
カメラごとに記録データを保存するストレージを指定するときに選択します。

■記録種別ごとにストレージを割り当てる場合

Ⓑ **記録種別とストレージ**
記録種別ごとにストレージを選択します。

マニュアル記録
マニュアル記録を保存するストレージを選択します。

スケジュール記録
スケジュール記録を保存するストレージを選択します。

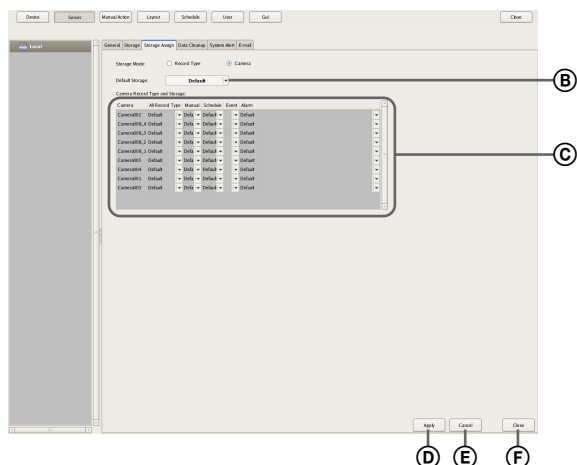
アラーム記録
アラーム記録を保存するストレージを選択します。

イベント記録
イベント記録を保存するストレージを選択します。

Ⓒ **適用**
設定を保存します。

Ⓓ **キャンセル**
設定の変更をキャンセルします。

Ⓔ **閉じる**
画面を閉じます。

■カメラごとにストレージを割り当てる場合

Ⓑ **デフォルトストレージ**
記録データの標準の保存先を選択します。

Ⓒ **カメラ・記録種別とストレージ**
カメラと記録種別ごとにストレージを指定します。
設定項目をクリックし、表示されるリストから選択してください。

カメラ
NSR に登録されているカメラが一覧表示されます。
この項目は変更できません。

全ての記録タイプ

すべての記録タイプの記録データを1つのストレージに記録するときは、記録したいストレージを選択します。

記録種別ごとにストレージを指定するときは、［Select Each］を選択します。

マニュアル

マニュアル記録を保存するストレージを選択します。

スケジュール

スケジュール記録を保存するストレージを選択します。

アラーム

アラーム記録を保存するストレージを選択します。

イベント

イベント記録を保存するストレージを選択します。

Ⓓ 適用

設定を保存します。

Ⓔ キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

Ⓕ 閉じる

画面を閉じます。

記録データの削除に関する設定をする

ストレージに保存されている記録データの削除には、次の方法があります。

- **データ上書き （78ページ）**
  ディスクの空き容量を常に確保しておくために、経過日数に関係なく、古いデータから自動的に削除します。
- **クリーンアップ （78ページ）**
  記録データの保存日数を設定し、その日数を超えたデータを自動的に削除します。
- **手動で削除する（127ページ）**
  削除する記録データを指定して手動で削除します。

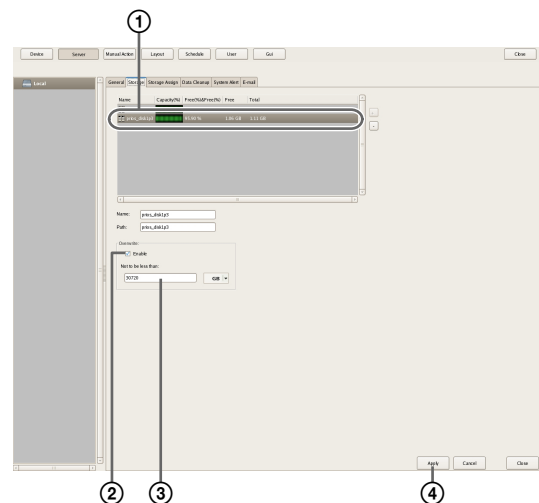
データ上書き

ディスクの空き容量を常に確保しておくために、経過日数に関係なく、古いデータから自動的に削除します。データ上書きは、記録先ごとに設定できます。

ご注意

- 保存しておきたい画像の容量がストレージに充分記録できることを見積もった上で最小値を設定してください。
- データ上書き機能が設定されているとき、再生中のファイルが削除対象になった場合は、再生が停止し、ファイルが削除されます。
- 通常記録の記録データに対してデータ上書きが行われると、1レコード内の複数のファイルが一度に削除されるため、特定のカメラの記録だけが一度に削除されてしまうことがあります。以下の設定にすることにより、複数カメラの記録データをより均一に削除することができます。
  －通常記録の周期的なスケジュールで、1日最低1秒の空白を入れる
  例）開始時刻：00:00:00　終了時刻：23:59:59

1 ［サーバー］ツリーからストレージを設定したいサーバーを選択し、［ストレージ］タブをクリックする。

2 各項目を設定し、［適用］をクリックする。

① 設定したいストレージを選択する。

② ［有効］にチェックマークを付ける。

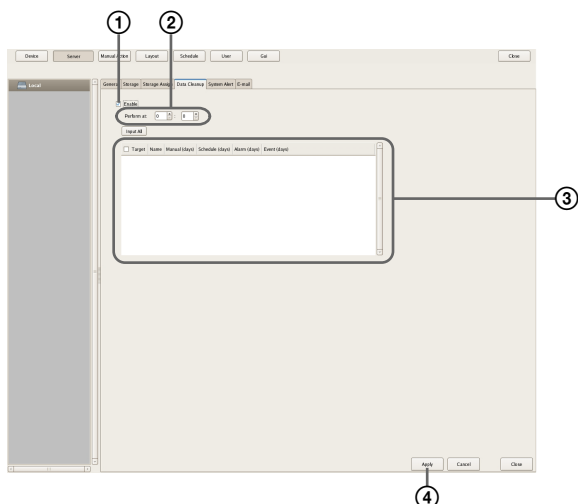
③ 空き容量の最低限度を％またはGBで入力します。

④ ［適用］をクリックする。
上書きが設定されます。

クリーンアップ

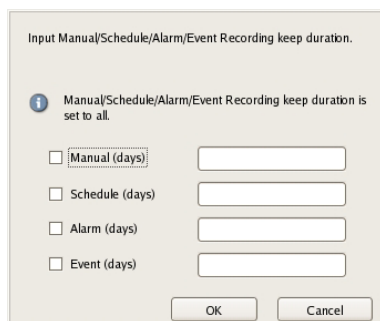
ディスクの空き容量を確保しておくために、記録データの保存日数を設定し、その日数を超えたデータを自動的に削除します。保存日数は、すべてのカメラに対して同じ設定にすることも、個別に設定することもできます。

1 ［サーバー］ツリーからストレージを設定したいサーバーを選択する。

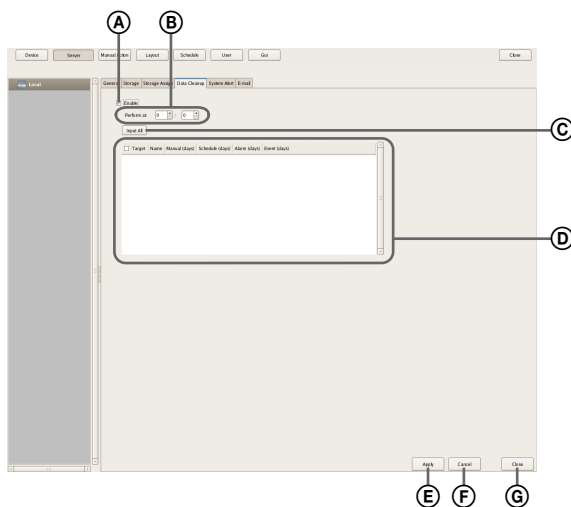
2 ［データ削除］タブで、各項目を設定し、［適用］をクリックする。

各項目の詳細は、「［データ削除］タブの設定項目」（79 ページ）をご覧ください。

① ［有効］にチェックマークを付ける。

② クリーンアップを実行する時刻を設定する。

③ クリーンアップの対象となるカメラにチェックマークを付け、各記録データの保存日数を日単位で入力する。
すべてのカメラに同じ設定をするときは、［一括入力］をクリックし、表示される「一括入力」ダイアログで保存日数を設定します。

④ ［適用］をクリックする。
クリーンアップが設定されます。

［データ削除］タブの設定項目

本画面は、［設定］画面で［サーバー］をクリックし、［データ削除］タブをクリックすると表示されます。
各項目を設定したら、［適用］をクリックします。

Ⓐ 有効

クリーンアップ機能を有効にするときにチェックマークを付けます。

Ⓑ 実施時刻

クリーンアップを実行する時刻を設定します。

Ⓒ 一括入力

すべてのカメラに同じ設定をするための「一括入力」ダイアログを表示します。

Ⓓ クリーンアップ設定リスト

クリーンアップの設定が一覧表示されます。

対象

クリーンアップの対象となるカメラにチェックマークを付けます。

カメラ

NSR に登録されているカメラ名が表示されます。

マニュアル（日）

マニュアル記録の保存日数を日単位で入力します。

スケジュール（日）

スケジュール記録の保存日数を日単位で入力します。

アラーム（日）

アラーム記録の保存日数を日単位で入力します。

イベント（日）

イベント記録の保存日数を日単位で入力します。

Ⓔ **適用**
設定を保存します。

Ⓕ **キャンセル**
設定の変更をキャンセルします。

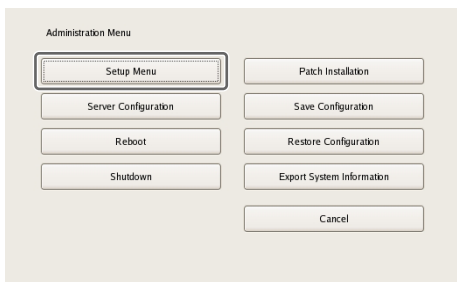
Ⓖ **閉じる**
画面を閉じます。

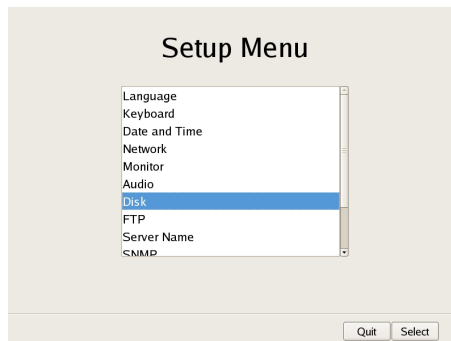
ストレージの設定例

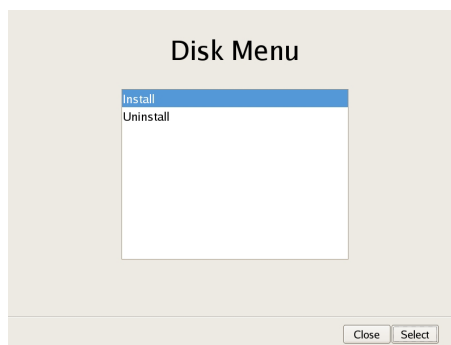
NSR のほかのパーティションや NSRE-S200 をストレージに設定することもできます。

1 「ログオン」画面で、［管理メニュー］をクリックする。

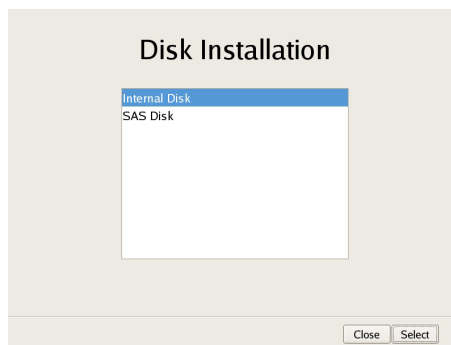
「管理メニュー」画面が表示されます。

2 ［セットアップメニュー］をクリックする。

「セットアップメニュー」画面が表示されます。

3 ［Disk］を選択し、［選択］をクリックする。

「Disk Menu」画面が表示されます。

4 ［Install］を選択し、［選択］をクリックする。

「Disk Installation」画面が表示されます。

5 ストレージを設定するデバイスを選択し、［選択］をクリックする。

内蔵ハードディスクの場合は［Internal Disk］を、NSRE-S200 の場合は［SAS Disk］を選択します。

パーティションを設定するための画面が表示されます。

6 各項目を設定する。

画面例）内蔵ハードディスクの場合

パーティションの数と各パーティションに割り当てる容量を％で選択し、［OK］をクリックします。

画面例）NSRE-S200 の場合

① 設定したい NSRE-S200 を選択し、［Partition］をクリックする。

ご注意

NSRE-S200 を接続している場合は、UPS を使用してください。

② パーティションの数と各パーティションに割り当てる容量を％で選択し、［OK］をクリックする。

新規に作成したパーティションや、追加した NSRE-S200 がストレージとして使用できる状態になります。

7 「ストレージの設定をする」（74 ページ）を参照し、ストレージの設定を行う。

記録スケジュールを設定する

カメラごとに記録のスケジュールを設定し、規則的に記録を行ったり、アラームやイベントが発生したときに記録を開始するように設定できます。

スケジュールには、以下の種類があります。

- **スケジュール記録（通常記録）**
  設定したスケジュールに従って、規則的にカメラからの画像を記録します。
- **アラーム記録**
  スケジュールを設定した期間内にアラームが発生したときにだけ記録を開始します。
- **イベント記録**
  スケジュールを設定した期間内にイベントが発生したときにだけ記録を開始します。

スケジュールは、以下の方法で設定できます。

- **手動でスケジュールを設定する （82 ページ）**
  スケジュール記録やアラーム記録、イベント記録を実行する期間を手動で設定できます。期間の設定方法には、1 週間単位でスケジュールを繰り返す「周期的なスケジュール」と、スケジュールを実行する日時を指定する「日時指定のスケジュール」があります。
- **アラーム記録／イベント記録を設定する （83 ページ）**
  スケジュールを設定した期間内にアラームまたはイベントが発生したときにだけ記録を開始するアラーム記録／イベント記録を設定できます。

ご注意

アラーム記録やイベント記録を設定する前に、アラームのトリガーとなる入力端子や動体検知機能を設定しておいてください。設定方法は、「動体検知の設定をする」（63 ページ）、「センサー入力の設定をする」（88 ページ）をご覧ください。

長期間継続記録におけるレコード分割処理について

長期間継続して記録を行っている場合（毎日 0：00 ～ 24：00 の連続記録を長期間行っているような場合）、記録レコードの構成ファイル数が 10,000[1] を超えることがあります。構成ファイル数が 10,000 を超えた場合は、記録レコードが分割され、以降のデータは新しいレコードとして記録されます。レコードが分割されると、検索などでは別のレコードとして表示されます。

1）ファイル数「10,000」とは、記録開始からのすべてファイル数です。クリーンアップやデータ上書き機能によって削除されたファイルも含まれます。

分割される期間は、フレームレートや解像度によって異なります。
例）

条件	コーデック：JPEG 解像度：VGA フレームレート：10 fps 画質：レベル 5
分割までの期間	約 19 日

長期間連続して記録する場合は、1 日につき 1 秒の空白時間を入れるスケジュールを設定し、記録レコードを分割することをおすすめします。詳しくは、「手動でスケジュールを設定する」（82 ページ）をご覧ください。

手動でスケジュールを設定する

スケジュール記録やアラーム記録、イベント記録を実行する期間を手動で設定できます。

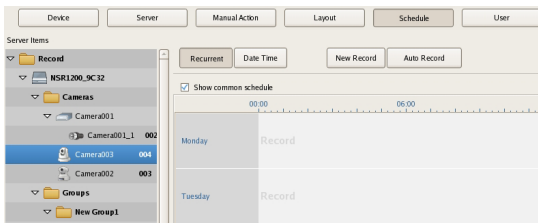
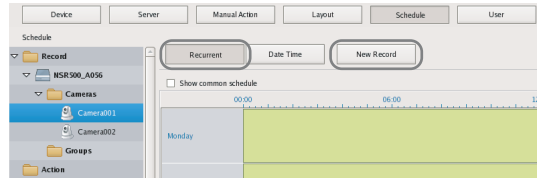
メモ

スケジュール記録やアラーム記録、イベント記録時にカメラから取り込む画像のコーデックやフレームレートなどの設定については、「カメラの映像設定をする」（45 ページ）をご覧ください。

周期的なスケジュールを設定する

1 週間単位でスケジュールを繰り返す「周期的なスケジュール」を設定できます。

1 「スケジュール」画面の［スケジュール］ツリーからスケジュールを設定したいカメラを選択する。

Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のカメラを選択することもできます。

2 ［周期］をクリックし、周期表示に切り替えてから、［新規記録］をクリックする。

「新規記録」ダイアログが表示されます。

3 各項目を設定し、［OK］をクリックする。

スケジュールの種類によって、設定項目が異なります。
画面例）スケジュール記録の場合

各項目の詳細は、「「新規記録」ダイアログの設定項目」（86 ページ）をご覧ください。

① スケジュールの名前を入力する。

② スケジュールの種類を選択する。

③ スケジュールを実行する曜日にチェックマークを付け、スケジュールの開始時刻と終了時刻を設定する。

④ 必要に応じて、各項目を設定する。
アラーム記録／イベント記録のときの設定手順については、「アラーム記録／イベント記録を設定する」（83 ページ）をご覧ください。

⑤［OK］をクリックする。
スケジュールが作成されます。

4 ［適用］をクリックする。

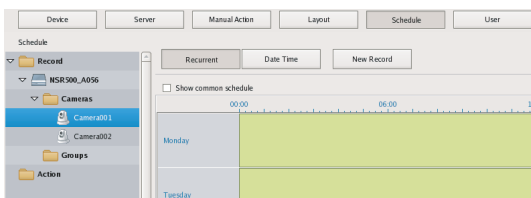
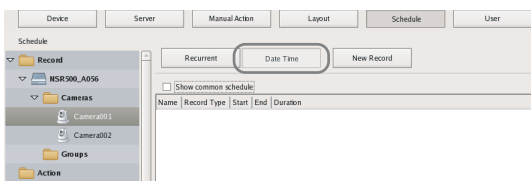
スケジュールが保存されます。

スケジュールの見かたは、「「スケジュール」画面の詳細」（85 ページ）をご覧ください。

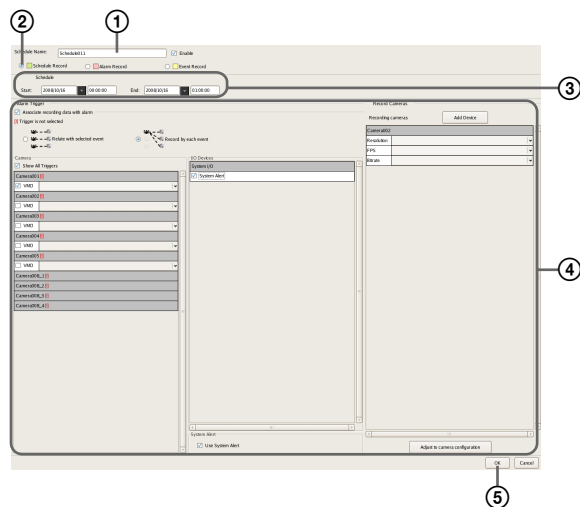
日時指定のスケジュールを設定する

スケジュールを実行する日時を指定する「日時指定のスケジュール」を設定できます。周期的なスケジュールとの違いは、開始と終了の日時の指定方法だけです。

1 「スケジュール」画面の［スケジュール］ツリーからスケジュールを設定したいカメラを選択する。

Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のカメラを選択することもできます。

2 ［日時］をクリックし、日時表示に切り替えてから、［新規記録］をクリックする。

「新規記録」ダイアログが表示されます。

3 各項目を設定し、［OK］をクリックする。

スケジュールの種類によって、設定項目が異なります。
画面例）スケジュール記録の場合

各項目の詳細は、「「新規記録」ダイアログの設定項目」（86 ページ）をご覧ください。

① スケジュールの名前を入力する。

② スケジュールの種類を選択する。

③ スケジュールの適用を開始する日時と終了する日時を設定する。

④ 必要に応じて、各項目を設定する。
アラーム記録／イベント記録のときの設定手順については、「アラーム記録／イベント記録を設定する」（83 ページ）をご覧ください。

⑤［OK］をクリックする。
スケジュールが作成されます。

4 ［適用］をクリックする。

スケジュールが保存されます。

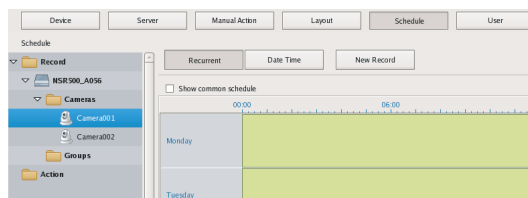
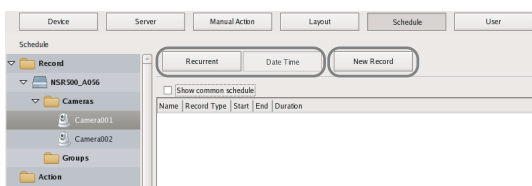
スケジュールの見かたは、「「スケジュール」画面の詳細」（85 ページ）をご覧ください。

アラーム記録／イベント記録を設定する

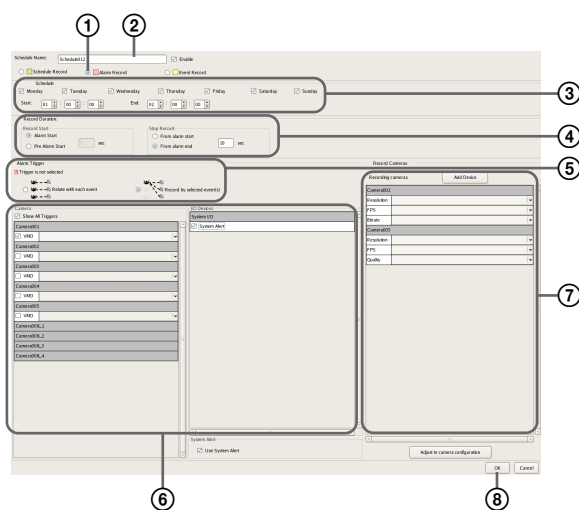
スケジュールを設定した時間内にアラームまたはイベントが発生したときにだけ記録を開始するアラーム記録／イベント記録を設定できます。

詳しくは、「アラーム発生時のセンサーとカメラの関係について」（85 ページ）をご覧ください。

1 「スケジュール」画面のツリーからスケジュールを設定したいカメラを選択する。

Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、複数のカメラを選択することもできます。

2 ［周期］または［日時］をクリックし、設定したいスケジュールの表示に切り替えてから、［新規記録］をクリックする。

「新規記録」ダイアログが表示されます。

3 各項目を設定し、［OK］をクリックする。

スケジュールの種類によって、設定項目が異なります。
画面例）アラーム記録（周期的なスケジュール）

各項目の詳細は、「「新規記録」ダイアログの設定項目」（86 ページ）をご覧ください。

① ［アラーム記録］または［イベント記録］を選択する。

② スケジュールの名前を入力する。

③ スケジュールを実行する曜日と時刻、またはスケジュールを実行する期間を設定する。

④ 記録を開始する条件と記録を終了する条件を指定し、記録期間を設定する。

⑤ アラーム記録の場合は、［それぞれのイベントで記録］または［選択されたイベントで記録］を選択する。
- ［それぞれのイベントで記録］を選択したときは、選択したカメラ自身の入力端子をトリガーに記録を開始します。
- ［選択されたイベントで記録］を選択したときは、設定されているすべての入力端子をトリガーにして、選択したすべてのカメラで記録が開始されます。

詳しくは、「アラーム発生時のセンサーとカメラの関係について」（85 ページ）をご覧ください。

⑥ ［それぞれのイベントで記録］を選択したときは、アラーム記録／イベント記録のトリガーとなるカメラや I/O デバイスの入力端子を設定する。

⑦ 画像を記録するカメラを設定する。

⑧ ［OK］をクリックする。
スケジュールが作成されます。

4 ［適用］をクリックする。

スケジュールが保存されます。

スケジュールの見かたは、「「スケジュール」画面の詳細」（85 ページ）をご覧ください。

設定内容を変更する

1 「スケジュール設定」画面の［スケジュール］ツリーから設定を変更したいカメラを選択する。

2 周期表示または日付表示にする。

3 設定を変更したいバー（周期表示）またはスケジュール（日付表示）を選択し、［編集］をクリックする。

「スケジュール設定」ダイアログが表示されます。

4 各項目を設定しなおす。

設定項目については、「「新規記録」ダイアログの設定項目」（86 ページ）をご覧ください。

5 ［適用］をクリックする。

設定が保存されます。

スケジュールを削除する

1 「スケジュール設定」画面の［スケジュール］ツリーから削除したいスケジュールを選択する。

2 ［削除］をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

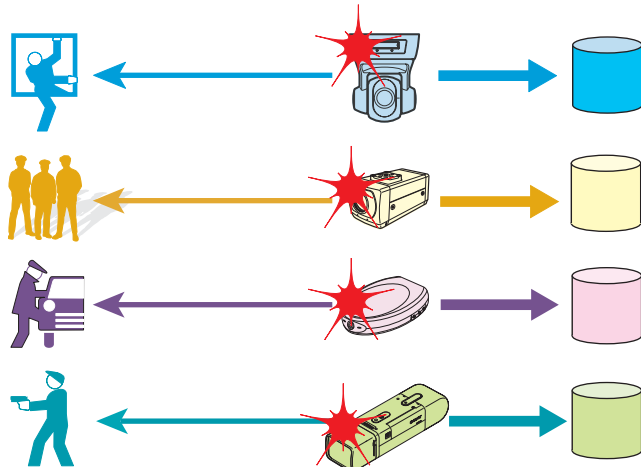
3 ［OK］をクリックする。

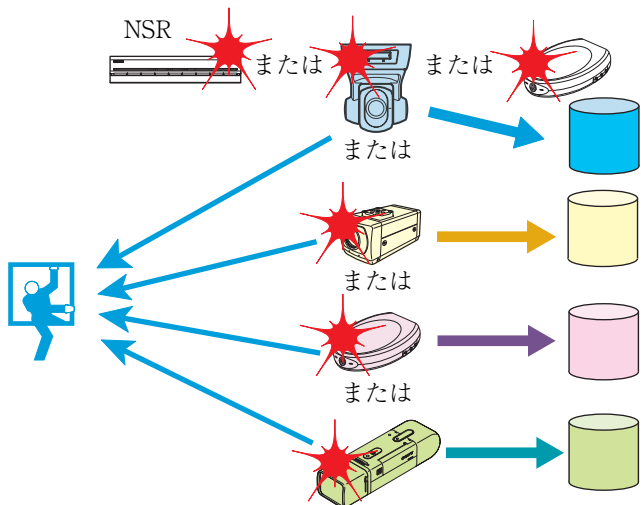
スケジュールが削除されます。

アラーム発生時のセンサーとカメラの関係について

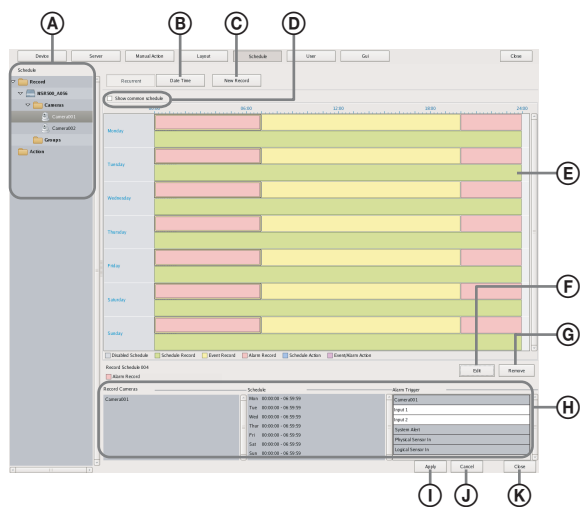
［それぞれのイベントで記録］の場合

選択したカメラ自身の入力端子をトリガーに記録を開始します。

例えば、画像を記録するカメラにカメラＡとカメラＢを選択し、トリガーにカメラＡの動体検知とカメラＢのセンサー入力を設定した場合、カメラＡの動体検知が発生したときはカメラＡで、カメラＢのセンサー入力がオンになったときはカメラＢで記録が開始されます。

［選択されたイベントで記録］の場合

設定されているすべての入力端子をトリガーにして記録を開始します。どの入力端子がオンになっても、選択したすべてのカメラで記録が開始されます。
例えば、画像を記録するカメラにカメラＡとカメラＢを選択し、トリガーにカメラＡの動体検知とカメラＢのセンサー入力を設定した場合、カメラＡの動体検知が発生しても、カメラＢのセンサー入力がオンになっても、両方のカメラで記録が開始されます。

「スケジュール」画面の詳細

本画面は、［設定］画面で［スケジュール］をクリックすると表示されます。

画面例）周期的なスケジュール（周期表示）の場合

Ⓐ［スケジュール］ツリー

設定されているスケジュールがツリー形式で一覧表示されます。
ツリーでカメラを選択すると、右側のエリアに設定内容が表示されます。

Ⓑ 周期／日時表示切り替えボタン

周期

周期表示に切り替えます。

日時

日時表示に切り替えます。

Ⓒ 新規記録

手動で新規にスケジュールを作成するための「新規記録」ダイアログ（86 ページ）を表示します。

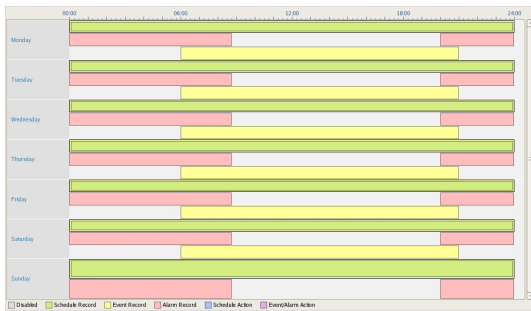
Ⓓ 共通スケジュールの表示

各カメラに共通するスケジュールを表示するときにチェックマークを付けます。

Ⓔ スケジュールの表示

スケジュールの内容が表示されます。

周期表示のとき

曜日ごとのスケジュールがアクションごとに色で区別して表示されます。

- 目盛りは 15 分きざみで、各スケジュールのバーをドラッグすることで、アクションの開始時刻と終了時刻を変更できます。詳細に時刻を設定したいときは、［編集］をクリックし、表示される「スケジュール設定」ダイアログで調整します。
- 各バーを選択すると、Ⓗ の領域に記録の対象となるカメラや時間などの期間などの情報が表示されます。

日時表示のとき

設定されているスケジュールが一覧表示されます。

Name	REC Type	Start	End	Duration
Schedule015	Event	08/10/01 00:00:00	08/10/16 01:00:00	361:00:00
Schedule014	Alarm	08/10/02 00:00:00	08/10/23 01:00:00	505:00:00
Schedule011	Normal	08/10/16 00:00:00	08/10/16 01:00:00	01:00:00
Schedule016	Alarm	08/10/23 00:00:00	08/10/30 12:00:00	180:00:00

- 各スケジュールを選択すると、Ⓗ の領域に記録の対象となるカメラや時間などの期間などの情報が表示されます。

Ⓕ 編集

スケジュールの設定を変更するための「スケジュール設定」ダイアログが表示されます。

Ⓖ 削除

選択したスケジュールを削除します。

Ⓗ 設定情報表示

選択したスケジュールの設定情報が表示されます。

Ⓘ 適用

設定を保存します。

Ⓙ キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

Ⓚ 閉じる

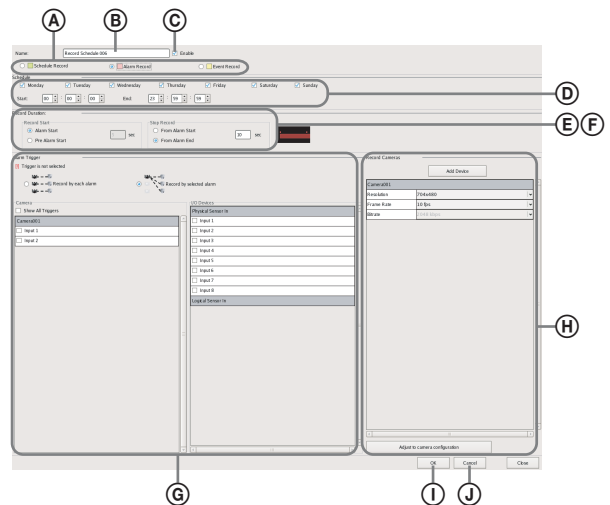
画面を閉じます。

「新規記録」ダイアログの設定項目

本ダイアログは、「「スケジュール」画面の詳細」（85 ページ）で［新規記録］をクリックしたときに表示されます。

記録の種類によって、表示される項目が異なります。

各項目を設定したら、［OK］をクリックします。

画面例）アラーム記録（周期的なスケジュール）の場合

Ⓐ スケジュール記録／アラーム記録／イベント記録

設定するスケジュールの種類を選択します。

Ⓑ 名前

スケジュールの名前を 32 文字以内で入力します。

Ⓒ 有効

このスケジュールを有効にするときにチェックマークを付けます。

Ⓓ スケジュール

周期的なスケジュールを設定するか、日時指定のスケジュールを設定するかによって設定内容が異なります。

周期的なスケジュールの場合

スケジュールを実行する曜日にチェックマークを付け、スケジュールの開始時刻と終了時刻を設定します。

指定可能範囲は、00:00:00 から 23:59:59（時分秒）までです。

第 4 章　各種設定

日時指定のスケジュールの場合

スケジュールの適用を開始する日時と終了する日時を設定します。

Ⓔ 記録期間

この項目は、アラーム記録またはイベント記録の場合に表示されます。
イベントが発生したときの記録期間を設定します。

記録開始

記録を開始するタイミングを選択します。

アラーム／イベント開始時

アラーム／イベント開始時（アラーム信号がアクティブになった時点）から記録を開始します。

アラーム／イベント開始前

アラーム／イベント開始前の画像にさかのぼって画像を記録します。
ここを選択したときは、さかのぼって記録する期間を1～60秒の範囲で入力します。

メモ

音声に対してアラーム／イベント開始前記録を行うことはできません。

記録終了

記録を終了するタイミングを選択します。

アラーム／イベント開始後

アラーム／イベント開始時（アラーム信号がアクティブになった時点）から指定した期間が経過した時点で記録を終了します。
ここを選択したときは、アラーム／イベント開始後の期間を1～3,600秒の範囲で入力します。

アラーム／イベント終了後

アラーム／イベントが終了した時点（アラームが解除された時点）から指定した期間が経過した時点で、記録を終了します。

メモ

アラーム記録や通常記録のカメラ設定がモニター時のカメラ設定と異なる場合は、記録開始時と記録終了時に画像の更新が数秒間停止する場合があります。必ず設定を確認してから運用してください。

Ⓕ 記録データとアラームとの関連付け

この項目は、スケジュール記録の場合に表示されます。
記録データとアラームを関連付けする場合にチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、アラームのトリガーとなるカメラやI/Oデバイスの入力端子を設定します。

Associate recording data with alarm

Ⓖ アラーム／イベントトリガー

録画するカメラとセンサーの関係を選択し、アラーム／イベントのトリガーとなる入力端子にチェックマークを付けます。
カメラとセンサーの関係については、「アラーム発生時のセンサーとカメラの関係について」（85ページ）をご覧ください。

それぞれのアラーム／イベントで記録

カメラとセンサーが1対1の関係になります。アラーム／イベントを検知したセンサーのカメラでのみ記録を開始します。

選択されたアラーム／イベントで記録

記録の対象となるカメラ1台に対して、複数の入力端子を設定できます。外部デバイスからI/Oデバイスへの入力信号（アラーム／イベント）によって記録を開始できるので、スケジュールに設定されていないデバイスのセンサーをトリガーにすることができます。

カメラ

アラーム／イベントのトリガーとなる入力端子にチェックマークを付けます。
［選択されたアラーム／イベントで記録］を選択した場合は、複数のデバイスの入力端子を選択できます。
［全てのトリガーを表示］にチェックマークを付けると、NSRに設定されているすべてのトリガーがリストに表示されますので、スケジュールに設定されていないデバイスのセンサーもトリガーにすることができます。

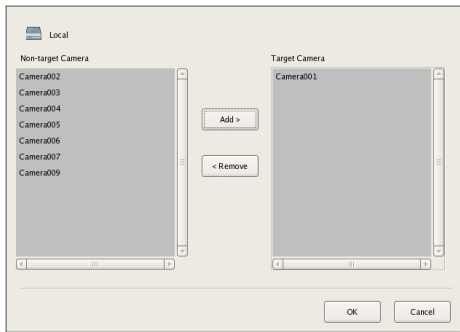
メモ

リストには、各カメラに設定されている入力端子が表示されます。入力端子の設定については、「動体検知の設定をする」（63ページ）、「センサー入力の設定をする」（88ページ）をご覧ください。

Ⓗ 記録カメラ

記録の対象となるカメラをリストに追加して、カメラから取り込む画像に関する設定を行います。

デバイス追加

リストにデバイスを追加するための「デバイス追加」ダイアログが表示されます。
［非対象カメラ］リストから追加したいカメラを選択し、［追加］をクリックして［対象カメラ］リストに移動したら、［OK］をクリックします。

カメラリスト

必要に応じて、カメラから取り込む画像の画像サイズやフレームレートなどを選択します。

カメラ設定に合わせる

「デバイス設定」の［映像］タブで設定した値に合わせます。

メモ

通常記録とアラーム記録の設定時間が重なっているときに、通常記録時の解像度を 320 × 240 dpi に設定し、アラーム記録時の解像度を 640 × 480 dpi に設定した場合は、カメラから取り込まれる画像の解像度は 640 × 480 dpi になります。通常、カメラから取り込まれる画像は、実行中のすべての動作に関するフレームレートや解像度の最大値が使用されます。

Ⓘ OK

設定した内容でスケジュールが作成され、ダイアログを閉じます。

Ⓙ キャンセル

設定をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

センサー入力の設定をする

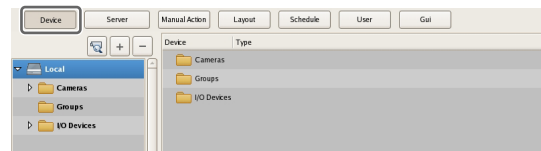
NSR 本体やカメラに搭載されているセンサー入力、Barionet（Barix 社製 I/O ボックス）のセンサー入力に関する設定を行います。
センサー入力は、アクションやスケジュール記録のイベントに指定して使用できます。

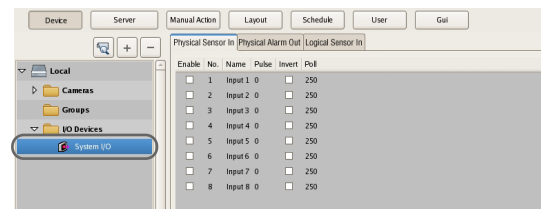
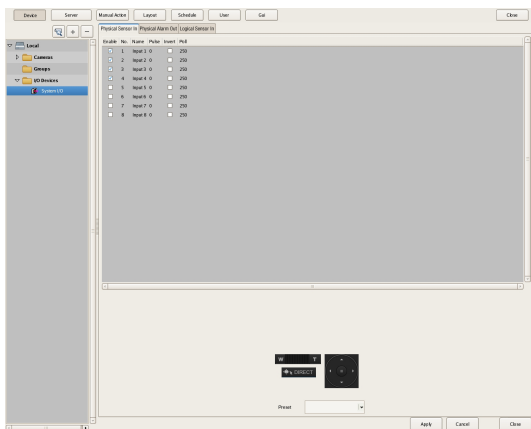
センサー入力の例）

温度、湿度、煙、振動、セキュリティ、赤外線、超音波など。

センサー入力に関して、以下の設定ができます。
- NSR のセンサー入力端子の設定を変更する （88 ページ）
- カメラのセンサー入力端子の設定を変更する （89 ページ）
- Barionet のセンサー入力端子の設定を変更する （89 ページ）
- NSR に論理的センサー入力端子を追加する （90 ページ）
- NSR に作成した論理的センサー入力端子を削除する （90 ページ）

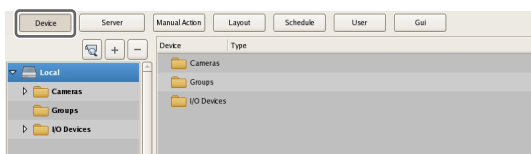
NSR のセンサー入力端子の設定を変更する

1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

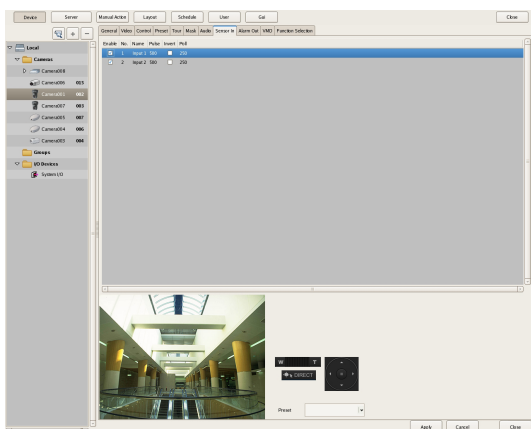
2 画面左側の［デバイス］ツリーで［I/O デバイス］を開き、［System I/O］をクリックして選択する。

3 ［センサー入力］タブで、各項目を設定し、［適用］をクリックする。

各項目の詳細は、「［センサー入力］タブの設定項目」（91 ページ）をご覧ください。

センサー入力の設定が変更されます。

カメラのセンサー入力端子の設定を変更する

1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

2 画面左側の［デバイス］ツリーからセンサー入力端子の設定を変更したいカメラを選択する。

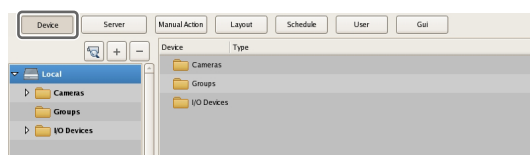
3 ［センサー入力］タブで、各項目を設定し、［適用］をクリックする。

各項目の詳細は、「［センサー入力］タブの設定項目」（91 ページ）をご覧ください。

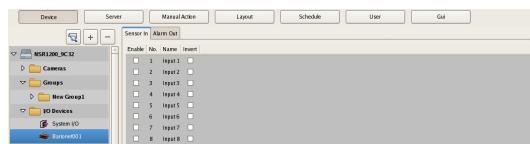
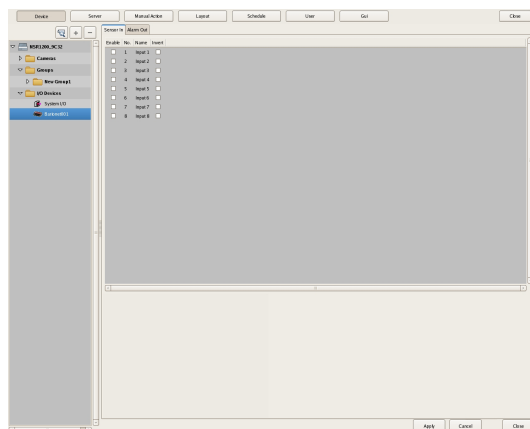
センサー入力の設定が変更されます。

Barionet のセンサー入力端子の設定を変更する

ご注意

- Barionet は、プロキシ経由では使用できません。
- Barionet は手動でデバイス登録してから、以下の設定を行ってください。
- 詳しくは、Barionet の取扱説明書をご覧ください。

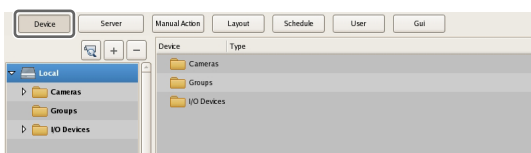
1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

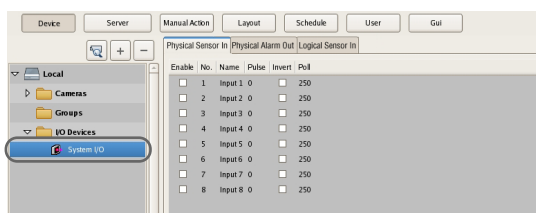
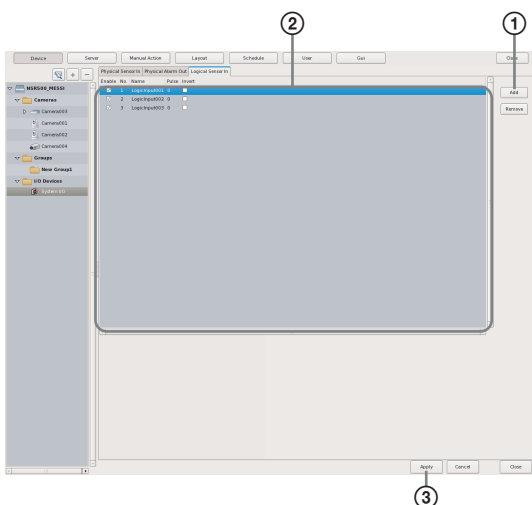
2 画面左側の［デバイス］ツリーで［I/O デバイス］を開き、［Barionet］をクリックして選択する。

3 ［センサー入力］タブで、各項目を設定し、［適用］をクリックする。

各項目の詳細は、「［センサー入力］タブの設定項目」（91 ページ）をご覧ください。

Barionet のセンサー入力の設定が変更されます。

NSR に論理的センサー入力端子を追加する

NSR に論理的なセンサー入力端子を追加することにより、ネットワークを通して外部機器との連携を行うことができます。追加したセンサー入力端子の操作（オン / オフ）を外部機器から行うことにより、それをトリガーにした記録やアクションが行えます。

1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

2 画面左側の［デバイス］ツリーで［I/O デバイス］を開き、［System I/O］をクリックして選択する。

3 ［論理センサー入力］タブで、論理的センサー入力端子を追加する。

各項目の詳細は、「［センサー入力］タブの設定項目」（91 ページ）をご覧ください。

① ［追加］をクリックする。
リストに論理的センサー入力端子が追加されます。

② 各項目を設定する。

③ ［適用］をクリックする。

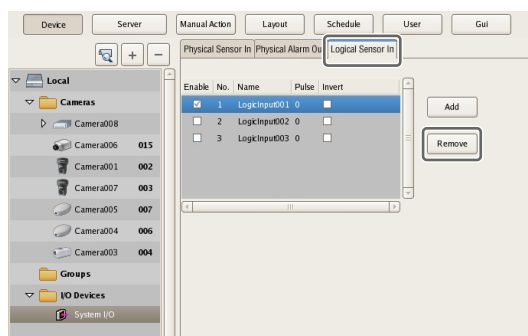
論理的センサー入力端子が追加されます。

NSR に作成した論理的センサー入力端子を削除する

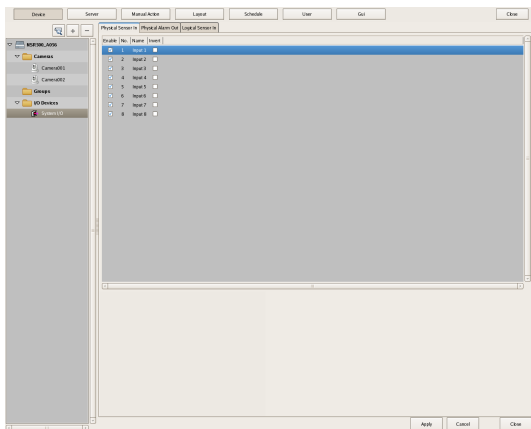
メモ

デフォルトで存在している NSR の物理的センサー入力端子は削除できません。

1 画面左側の［デバイス］ツリーで［I/O デバイス］を開き、［System I/O］をクリックして選択する。

2 ［論理センサー入力］タブで、削除したい論理的センサー入力端子にチェックマークを付け、［削除］をクリックする。

論理的センサー入力端子が削除されます。

［センサー入力］タブの設定項目

センサー入力端子を設定できます。
各項目を設定したら、［適用］をクリックして設定を保存します。
ここでは例として NSR の物理的なセンサー入力端子を設定する画面で説明します。

センサー入力端子リスト

ツリーで選択したデバイスに設定されているセンサー入力端子が一覧表示されます。

有効

センサー入力を有効にする端子にチェックマークを付けます。

ご注意

センサー入力を使用するには、デバイス側のセンサー入力端子設定も有効にしておく必要があります。

No

センサー入力端子の番号が表示されます。
この項目は変更できません。

名前

センサー入力の名前を入力します。

パルス

入力がオンになってから、オンの状態を持続させる期間を 0 ～ 60,000 ミリ秒の範囲で入力します。
この設定を行うことにより、オンの継続時間が短いものを持続させたり、オン／オフの頻度が極端に多い場合に複数の入力を 1 つにまとめたりすることができます。

反転

パルスの極性を反転させる場合にチェックマークを付けます。
例）ON → OFF を OFF → ON に反転させる。

追加

リストに論理的センサー入力端子を追加します。
この項目は、「System I/O」の論理的なセンサー入力の場合にのみ表示されます。

削除

リストで選択したセンサー入力端子を削除します。
この項目は、「System I/O」の論理的なセンサー入力の場合にのみ表示されます。

アラーム出力の設定をする

NSR 本体やカメラに搭載されているアラーム出力、Barionet（Barix 社製 I/O ボックス）のアラーム出力に関する設定を行います。
パトランプやドアの開放など、入力アラーム機能を持つデバイスへのアラーム送出に使われます。

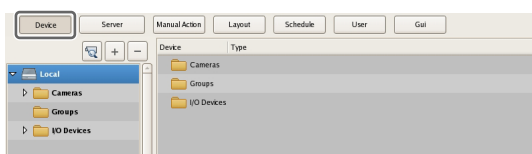
アラーム出力の例）

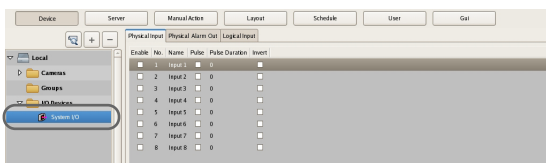
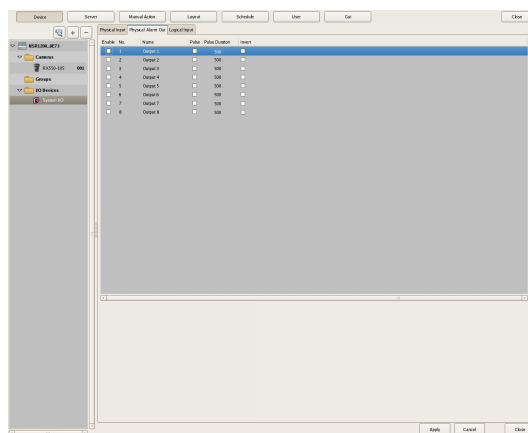
警報サイレン、パトランプ、照明、ドアなど。

アラーム出力に関して、以下の設定ができます。

- NSR のアラーム出力端子の設定を変更する （92 ページ）
- カメラのアラーム出力端子の設定を変更する （92 ページ）
- Barionet のアラーム出力端子の設定を変更する （93 ページ）

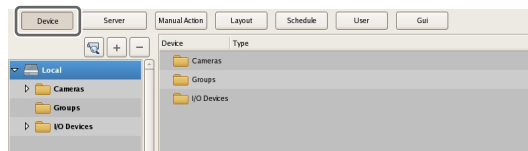
NSR のアラーム出力端子の設定を変更する

1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

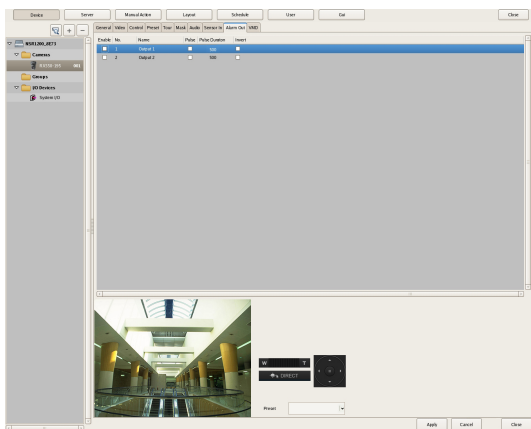
2 画面左側の［デバイス］ツリーで［I/O デバイス］を開き、［System I/O］をクリックして選択する。

3 ［アラーム出力］タブで、各項目を設定し、［適用］をクリックする。

各項目の詳細は、「［アラーム出力］タブ（I/O デバイスの場合）」（93 ページ）をご覧ください。

アラーム出力の設定が変更されます。

カメラのアラーム出力端子の設定を変更する

1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

2 画面左側の［デバイス］ツリーからアラーム出力端子の設定を変更したいカメラを選択する。

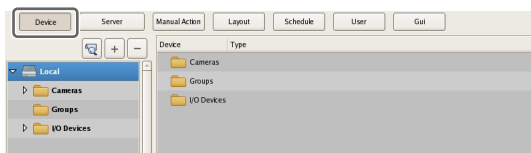
3 ［アラーム出力］タブで、各項目を設定し、［適用］をクリックする。

各項目の詳細は、「［アラーム出力］タブ（カメラの場合）」（94 ページ）をご覧ください。

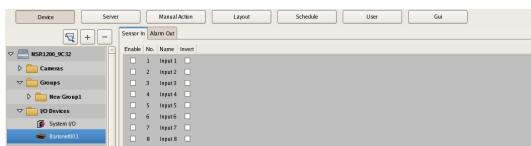
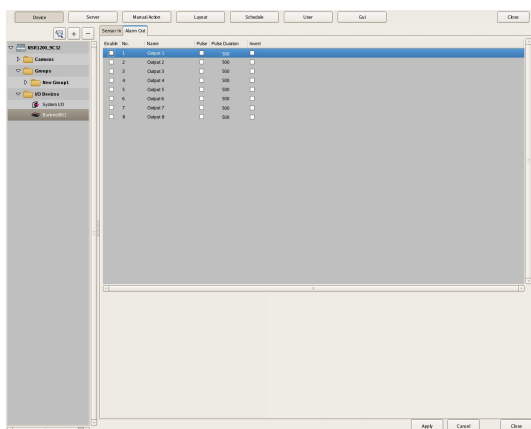
アラーム出力の設定が変更されます。

Barionet のアラーム出力端子の設定を変更する

ご注意

- Barionet のアラーム出力を利用する場合は、あらかじめ Web ブラウザから Barionet に接続し、アラーム出力設定を有効にしておく必要があります。
- Barionet は、プロキシ経由では使用できません。
- Barionet は手動でデバイス登録してから、以下の設定を行ってください。
- 詳しくは、Barionet の取扱説明書をご覧ください。

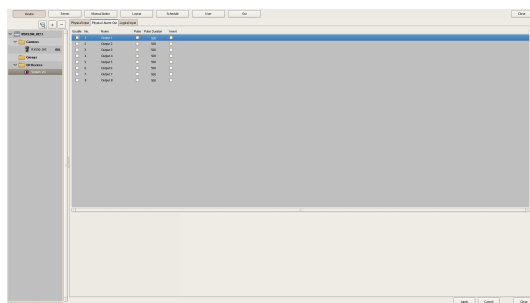
1 「設定」画面上部にある［デバイス］をクリックする。

「デバイス設定」画面が表示されます。

2 画面左側の［デバイス］ツリーで［I/O デバイス］を開き、［Barionet］をクリックして選択する。

3 ［アラーム出力］タブで、各項目を設定し、［適用］をクリックする。

各項目の詳細は、「［アラーム出力］タブ（I/O デバイスの場合）」（93 ページ）をご覧ください。

Barionet のアラーム出力の設定が変更されます。

［アラーム出力］タブの設定項目

［アラーム出力］タブ（I/O デバイスの場合）

NSR および Barionet のアラーム出力端子を設定できます。各項目を設定したら、［適用］をクリックして設定を保存します。
ここでは例として NSR のアラーム出力を設定する画面で説明します。

アラーム出力端子リスト

ツリーで選択した NSR または Barionet に設定されているアラーム出力端子が一覧表示されます。

有効

アラーム出力を有効にする端子にチェックマークを付けます。

No

アラーム出力端子の番号が表示されます。
この項目は変更できません。

ご注意

アラーム出力を使用するには、デバイス側のアラーム出力端子設定も有効にしておく必要があります。

名前

アラーム出力の名前を 32 文字以内で入力します。

パルス

パルス間隔を指定して入力したいときにチェックマークを付けます。ここにチェックマークを付けたときは、［パルス間隔］を入力します。

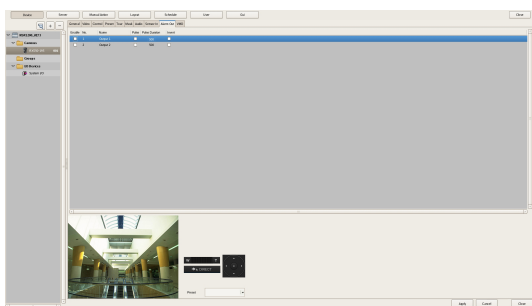
パルス間隔

出力がオンになってから、オンの状態を持続させる期間を 0 ～ 60,000 ミリ秒の範囲で入力します。

反転

出力端子の極性を反転させるときは、ここにチェックマークを付けます。
反転を有効にしても、現在の出力端子の状態は変化しません。反転した状態で出力端子のオン／オフを行うと、実際の出力信号の状態がオフ／オンに反転します。
また、NSR 本体の出力端子は、起動時に反転の設定に応じて、状態の初期化が行われます。
（反転時：起動時にオン、反転なし時：起動時にオフ）

［アラーム出力］タブ（カメラの場合）

ツリーで選択したカメラのアラーム出力端子を設定できます。
各項目を設定したら、［適用］をクリックして設定を保存します。

アラーム出力端子リスト

ツリーで選択したカメラに設定されているアラーム出力端子が一覧表示されます。

有効

アラーム出力を有効にする端子にチェックマークを付けます。

No

アラーム出力端子の番号が表示されます。
この項目は変更できません。

名前

アラーム出力の名前を 32 文字以内で入力します。

パルス

パルス間隔を指定して入力したいときにチェックマークを付けます。ここにチェックマークを付けたときは、［パルス間隔］を入力します。

パルス間隔

出力がオンになってから、オンの状態を持続させる期間を 0 ～ 60,000 ミリ秒の範囲で入力します。

反転

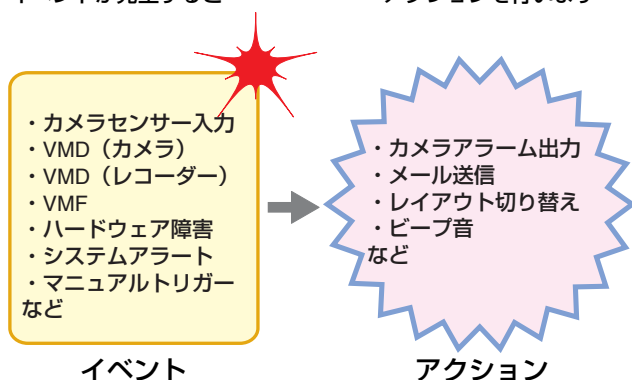
出力端子の極性を反転させるときは、ここにチェックマークを付けます。
反転を有効にしても、出力端子の状態は変化しません。
反転した状態で出力端子のオン／オフを行うと、実際の出力信号の状態がオフ／オンに反転します。

プレビュー

カメラから取り込まれた画像が表示されます。

アクションの設定をする

NSR では、センサー入力や VMD（カメラ）、VMD（レコーダー）、VMF、システムアラートなどを検知したときや、マニュアルアクションを実行したときの動作（アクション）を設定できます。

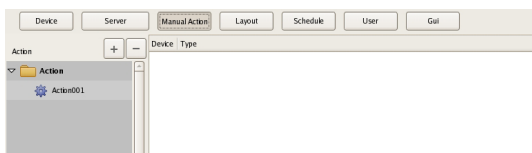
イベントとアクションの関係

アクションの設定には、以下の方法があります。

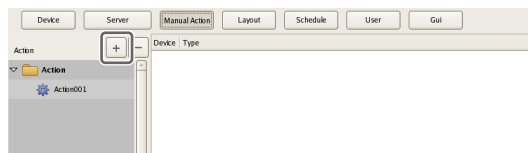
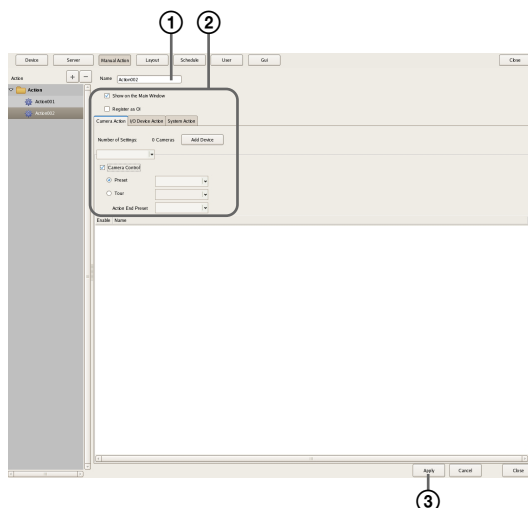
- **マニュアルアクション（95 ページ）**
  手動でトリガーを発生させたときの動作を設定します。
- **イベント／アラームアクション（98 ページ）**
  スケジュールで指定した期間にアラームやイベントが発生した場合に実行するアクションを設定します。

マニュアルアクション

手動でトリガーを発生させたときの動作を設定します。

マニュアルアクションを登録する

1 「設定」画面上部にある［マニュアルアクション］をクリックする。

「マニュアルアクション」画面が表示されます。

2 ＋（追加）をクリックする。

3 以下の項目を設定し、アクションを登録する。

各項目の詳細は、「「マニュアルアクション」画面の設定項目」（96 ページ）をご覧ください。

① アクションの名前を入力する。

② 各項目を設定する。

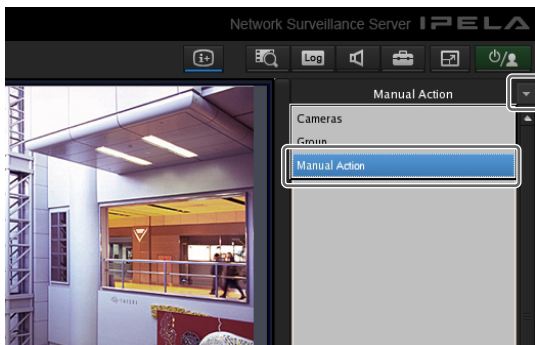
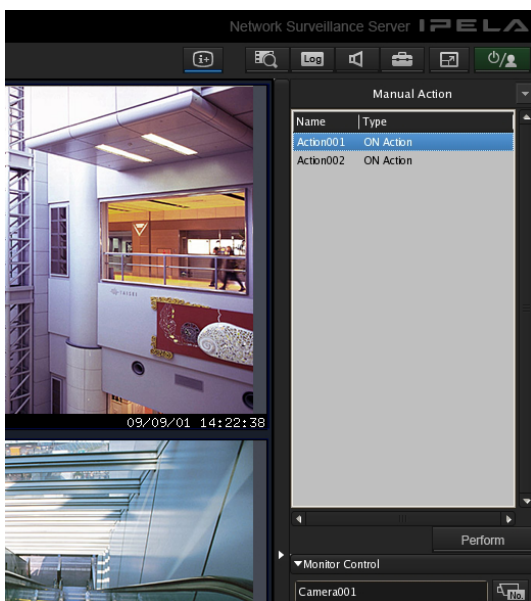
③［適用］をクリックする。

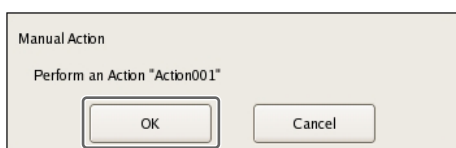
アクションが登録されます。

マニュアルアクションを実行する

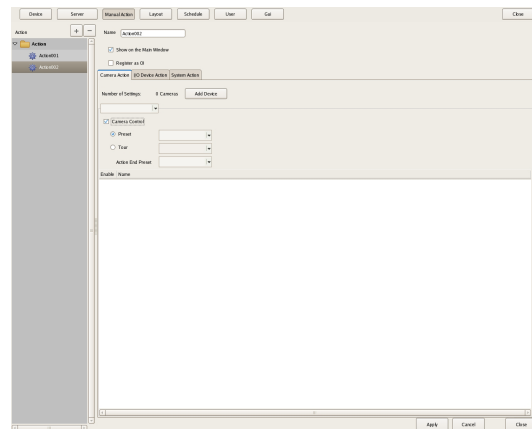
メイン画面の「マニュアルアクション」ツールバーで、アクションを実行できます。

1 メイン画面で「マニュアルアクション」ペインを表示させる。

画面右上のペインにある▼をクリックし、表示されるメニューから［マニュアルアクション］を選択します。

2 行いたいアクションを選択し、［Perform］をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

3 ［OK］をクリックする。

アクションが実行されます。

「マニュアルアクション」画面の設定項目

マニュアルアクションを設定できます。
アクションを実行するデバイスによって、表示される項目は異なります。
各項目を設定したら、［適用］をクリックして設定を保存します。

名前

アクションの名前を 32 文字以内で入力します。

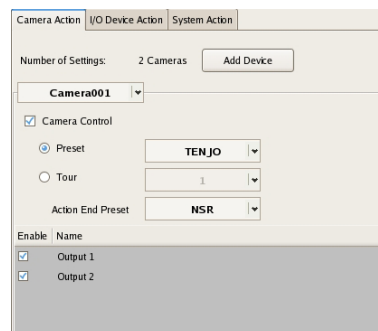
メイン画面に表示

このレイアウトをメイン画面の［マニュアルアクション］ペインに表示するときにチェックマークを付けます。

OFF アクションとして登録

オフにするアクションとして登録するときにチェックマークを付けます。
OFF アクションは、以下のように動作します。

ツアー：	ツアー停止
アラーム出力：	アラーム出力オフ
ビープ：	ビープ停止

［カメラアクション］タブ

設定数

本アクションの対象となるカメラの数が表示されます。

［デバイス追加］ボタン
アクションの対象となるカメラを追加するためのダイアログが表示されます。

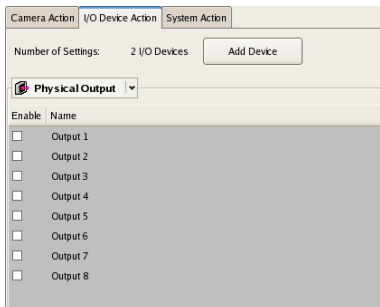
カメラドロップダウンメニュー
カメラを選択します。

カメラコントロール
カメラを制御するアクションを実行するときにチェックマークを付け、制御方法を指定します。

プリセット
指定したプリセット位置にカメラを戻します。

ツアー
指定したカメラツアーを行います。

アクション終了プリセット
アクションが終了したときのプリセット位置を指定します。

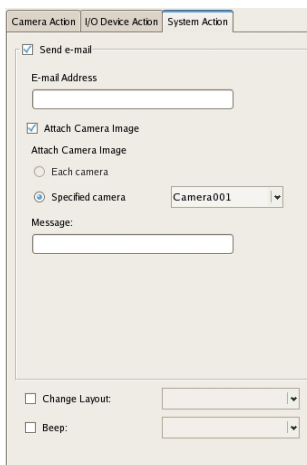
端子リスト
端子の状態を変更するアクションを実行するときに、対象となる端子にチェックマークを付けます。

［I/O デバイスアクション］タブ

設定数
本アクションの対象となる I/O デバイスの数が表示されます。

［デバイス追加］ボタン
アクションの対象となる I/O デバイスを追加するためのダイアログが表示されます。

I/O デバイスドロップダウンメニュー
I/O デバイスを選択します。

端子リスト
状態を変更する端子にチェックマークを付けます。

［システムアクション］タブ

e-mail 送信
指定したメールアドレス宛にメールで通知するときにチェックマークを付けます。

e-mail アドレス
メールアドレスを入力します。

カメラ画像添付
静止画をメール添付で送信するときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、静止画を記録するカメラを指定します。

メモ

コーデックが MPEG4/H.264 のカメラまたはマスクが設定されているカメラは、画像添付されません。

特定のカメラ
指定したカメラで静止画を記録します。

メッセージ
メールの本文を 32 文字以内で入力します。

レイアウト変更
モニター 1 のモニターレイアウトを変更するときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、モニター 1 に表示するモニターレイアウトを選択します。

ビープ
ビープ音を鳴らすときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、ビープ音の種類を選択します。
ビープ音は、NSR のライン出力端子に接続された、音声出力用機器から出力されます。

メモ

ビープ音を止めるには、アクション設定が必要です。あらかじめマニュアルまたはセンサー入力によるイベントで、ビープを停止するアクションを定義しておいてください。

緊急イベントを通知する

指定した緊急イベントを通知するときにチェックマークを付けます。

適用

設定を保存します。

キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

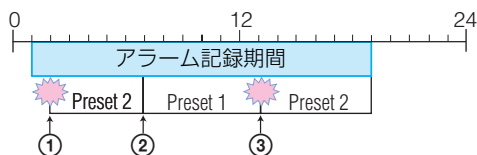
イベント／アラームアクション

スケジュールで設定した期間にアラームやイベントが発生した場合にアクションを実行します。期間内であれば、アラームやイベントが発生する度にアクションを実行できます。

ご注意

アクションの実行により状態が変化しても、自動的には元の状態に戻りません。

イベント／アラームアクション例）

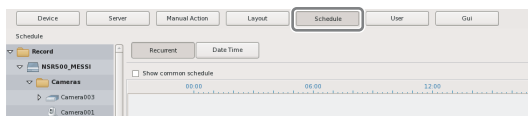
カメラ1のVMD（カメラ）端子が動体を検知するとプリセット位置を「プリセット2」に移動させるイベント／アラームアクションの場合

① VMD（カメラ）端子が動体を検知するとアクションが実行され、カメラ1のプリセット位置が「プリセット2」に移動します。

② 手動で「プリセット1」に戻します。

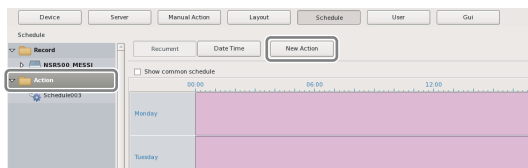
③ 期間内にVMD（カメラ）端子が動体を検知すると、再度アクションが実行され、カメラ1のプリセット位置が「プリセット2」に移動します。

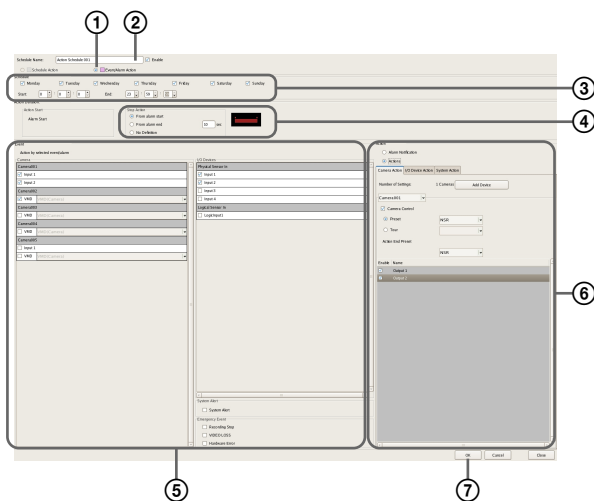
イベント／アラームアクションを登録する

スケジュールで設定した期間にアラームやイベントが発生した場合にアクションを実行するスケジュールを設定します。期間内であれば、アラームやイベントが発生する度にアクションを実行できます。

1 「設定」画面上部にある［スケジュール］をクリックする。

「スケジュール設定」画面が表示されます。

2 周期表示または日付表示にする。

3 ツリーで［アクション］を選択し、［新規アクション］を選択する。

「新規アクション」ダイアログが表示されます。

4 各項目を設定し、［OK］をクリックする。

各項目の詳細は、「「新規アクション」ダイアログ（イベント／アラームアクション）の設定項目」（99 ページ）をご覧ください。

① ［イベント／アラームアクション］を選択する。

② イベント／アラームアクションの名前を入力する。

③ イベント／アラームアクションを実行する曜日にチェックマークを付け、イベント／アラームアクションの開始時刻と終了時刻を設定する。

④ アクションを終了するタイミングを設定する。

⑤ アクションのトリガーとなるイベントを設定する。

⑥ 実行するアクションを設定する。

⑦［OK］をクリックする。
イベント／アラームアクションが作成されます。

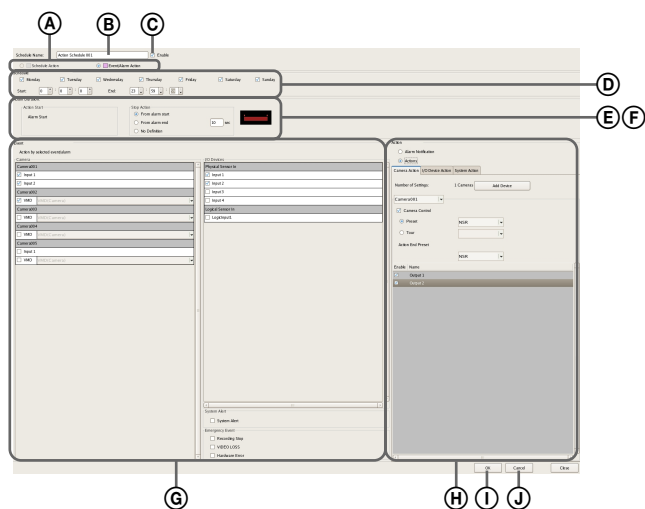
5 ［適用］をクリックする。

イベント／アラームアクションが保存されます。

スケジュールの見かたは、「「スケジュール」画面の詳細」（85 ページ）をご覧ください。

「新規アクション」ダイアログ（イベント／アラームアクション）の設定項目

本ダイアログは、「スケジュール設定」画面でツリーから［アクション］を選択し、［新規アクション］をクリックしたときに表示されます。
各項目を設定したら、［OK］をクリックします。

画面例）イベント／アラームアクションの場合

Ⓐ スケジュールアクション／イベント／アラームアクション

設定するイベント／アラームアクションの種類を選択します。
ここでの選択によって、設定項目が変わります。

Ⓑ 名前

イベント／アラームアクションの名前を 32 文字以内で入力します。

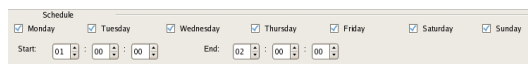
Ⓒ 有効

このイベント／アラームアクションを有効にするときにチェックマークを付けます。

Ⓓ スケジュール

周期的なイベント／アラームアクションを設定するか、日時指定のイベント／アラームアクションを設定するかによって設定内容が異なります。

周期的なイベント／アラームアクションの場合

イベント／アラームアクションを実行する曜日にチェックマークを付け、イベント／アラームアクションの開始時刻と終了時刻を設定します。
指定可能範囲は、00:00:00 から 23:59:59（時分秒）までです。

日時指定のイベント／アラームアクションの場合

イベント／アラームアクションの適用を開始する日時と終了する日時を設定します。

Ⓔ アクション期間

アクションを行う期間を設定します。

アクション開始

アクションを開始するタイミングが表示されます。
この項目は変更できません。

アクション終了

アクションを終了するタイミングを選択します。

イベント開始後

イベントの開始後、指定した時間が経過した時点でアクションを終了します。
ここを選択したときは、イベント開始後の期間を 1 ～ 3,600 秒の範囲で入力します。

イベント終了後

イベントの終了後、指定した時間が経過した時点でアクションを終了します。
ここを選択したときは、イベント終了後の期間を 1 ～ 3,600 秒の範囲で入力します。

未定義
終了するタイミングを指定しません。

Ⓕ サーバー
リモートサーバーを選択します。
この項目は、クライアントのときに表示されます。

Ⓖ イベント
アクションのトリガーとなるイベントを設定します。

カメラ
アクションのトリガーとなるイベントの入力端子にチェックマークを付けます。

I/O デバイス
アクションのトリガーとなるイベントの入力端子にチェックマークを付けます。

メモ

リストには、各カメラや I/O デバイスに設定されている入力端子が表示されます。入力端子の設定については、「動体検知の設定をする」（63 ページ）、「センサー入力の設定をする」（88 ページ）をご覧ください。

システムアラート
トリガーとして使用するシステムアラートにチェックマークを付けます。

システムアラートを使用する
システムアラートをトリガーとして使用するときにチェックマークを付けます。

緊急イベント
トリガーとして使用する緊急イベントにチェックマークを付けます。

記録停止
記録停止のイベントをトリガーとして使用するときにチェックマークを付けます。

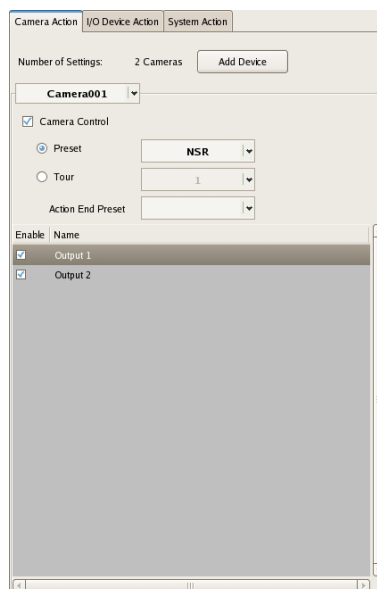
VIDEO LOSS
VIDEO LOSS のイベントをトリガーとして使用するときにチェックマークを付けます。

ハードウェアエラー
ハードウェアエラーのイベントをトリガーとして使用するときにチェックマークを付けます。

Ⓗ アクション
実行するアクションを設定します。

アラーム通知
設定したトリガーがアラームとして通知されます。

アクション
指定したアクションを実行します。

［カメラアクション］タブ

設定数
アクションの対象となるカメラの数が表示されます。

［デバイス追加］ボタン
アクションの対象となるカメラを追加するためのダイアログが表示されます。

カメラドロップダウンメニュー
カメラを選択します。

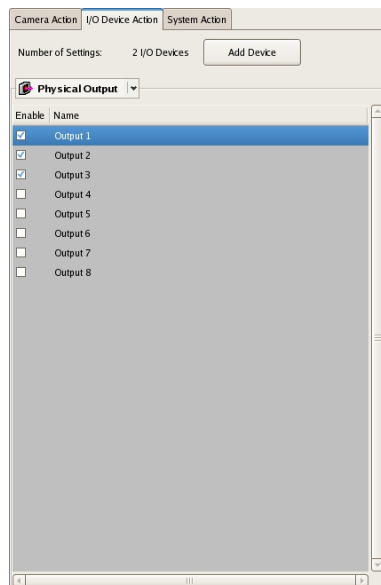
カメラコントロール
カメラを制御するアクションを実行するときにチェックマークを付け、制御方法を指定します。

プリセット
指定したプリセット位置にカメラを戻します。

ツアー
指定したカメラツアーを行います。

アクション終了プリセット
アクションが終了したときのプリセット位置を指定します。

端子リスト

出力端子の状態を変更するアクションを実行するときに対象となる端子にチェックマークを付けます。

[I/O デバイスアクション] タブ

設定数

アクションの対象となる I/O デバイスの数が表示されます。

[デバイス追加] ボタン

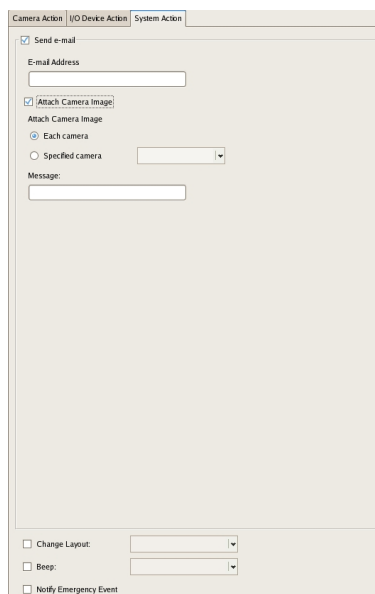
アクションの対象となる I/O デバイスを追加するためのダイアログが表示されます。

I/O デバイスドロップダウンメニュー

I/O デバイスを選択します。

端子リスト

状態を変更する端子にチェックマークを付けます。

[システムアクション] タブ

e-mail 送信

指定したメールアドレス宛にメールで通知するときにチェックマークを付けます。

e-mail アドレス

メールアドレスを入力します。
メール通知の設定については、「メール通知の設定をする」（102 ページ）をご覧ください。

カメラ画像添付

静止画をメール添付で送信するときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、静止画を記録するカメラを指定します。

メモ

コーデックが MPEG4/H.264 のカメラまたはマスクが設定されているカメラは、画像添付されません。

それぞれのカメラ

イベントが発生したカメラで記録された静止画を添付します。
例えば、カメラ A の動体検知とカメラ B のセンサー入力をトリガーに設定した場合、カメラ A の動体検知が発生したときは、カメラ A で記録された静止画が添付されます。カメラ B のセンサー入力がオンになったときは、カメラ B で記録された静止画が添付されます。

特定のカメラ

指定したカメラで記録された静止画が添付されます。

メッセージ

メールの本文を 32 文字以内で入力します。

レイアウト変更

モニター 1 のモニターレイアウトを変更するときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、モニター 1 に表示するモニターレイアウトを選択します。

ビープ

ビープ音を鳴らすときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、ビープ音を選択します。
ビープ音は、NSR のライン出力端子に接続された、音声出力用機器から出力されます。

緊急イベントを通知する

指定した緊急イベントを通知するときにチェックマークを付けます。

Ⓘ OK

設定した内容でイベント／アラームアクションが作成され、ダイアログを閉じます。

Ⓙ キャンセル

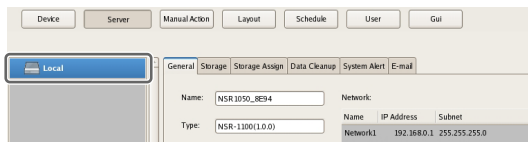
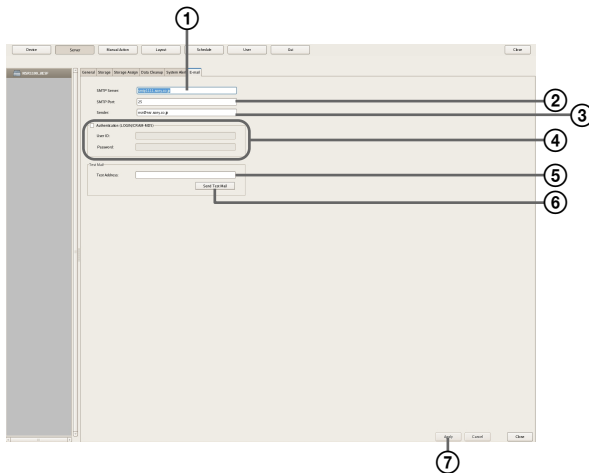
設定をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

メール通知の設定をする

イベントが発生した場合に、あらかじめ登録されているメールアドレス宛に電子メールで通知できます。
メールアドレスはアクションごとに設定できます。SMTP サーバーや送信元アドレスはここで指定します。

1 「設定」画面上部にある［サーバー］をクリックする。

「サーバー設定」画面が表示されます。

2 画面左側の［サーバー］ツリーからメール通知の設定をしたいサーバーを選択する。

3 ［E-mail］で、各項目を設定し、［適用］をクリックする。

① SMTP サーバーのアドレスを入力する。

② SMTP サーバーのポート番号を入力する。

③ 送信者のメールアドレスを入力する。

④ SMTP 認証を使う場合は、［認証］にチェックマークを付け、SMTP 認証のユーザー ID とパスワードを入力する。

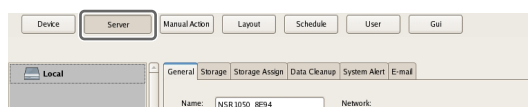
⑤ テストメールを送信するメールアドレスを入力する。

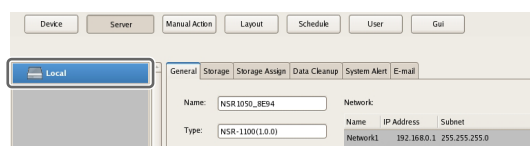
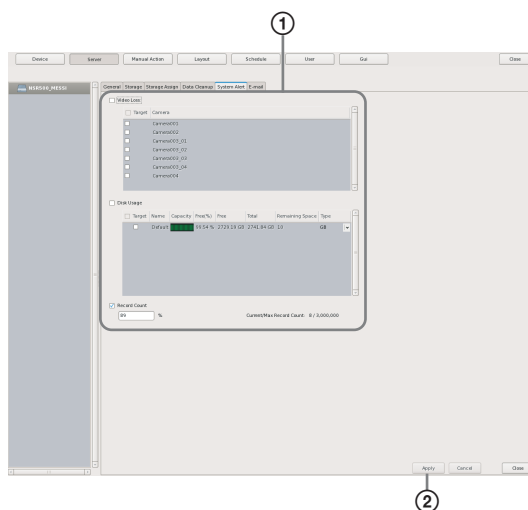
⑥ 各アドレスを入力したら、［テストメール送信］をクリックし、メールが正しく送信できることを確認する。

⑦［適用］をクリックする。

システムアラートの設定をする

カメラの VIDEO LOSS やディスク残量不足を検出したときに、システムアラート（警報）を発生させることができます。システムアラート発生後の動作については、アクションで設定します。

1「設定」画面上部にある［サーバー］をクリックする。

「サーバー設定」画面が表示されます。

2 画面左側の［サーバー］ツリーからシステムアラートの設定をしたいサーバーを選択する。

3［システムアラート］タブで、システムアラートで通知する内容を設定し、［適用］をクリックする。

各項目の詳細は、「［システムアラート］タブの設定項目」（104 ページ）をご覧ください。

① 通知する項目にチェックマークを付け、各項目を設定する。

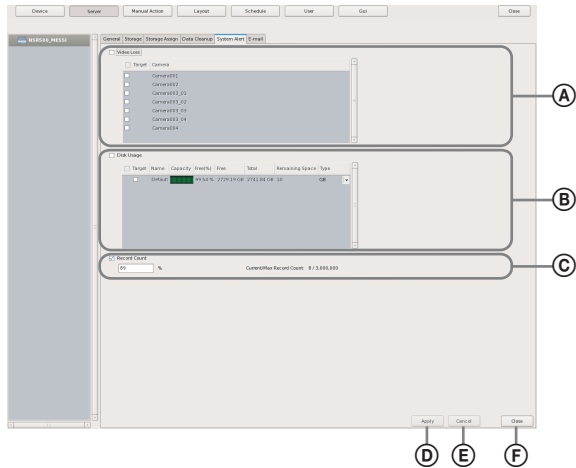
第 4 章　各種設定

② ［適用］をクリックする。
設定が保存されます。

4 システムアラート発生後の動作（アクション）を設定する。

アクションについては「アクションの設定をする」（95 ページ）をご覧ください。

［システムアラート］タブの設定項目

本画面は、［設定］画面で［サーバー］をクリックし、［システムアラート］タブをクリックすると表示されます。
各項目を設定したら、［適用］をクリックします。

Ⓐ VIDEO LOSS

画像信号が切断されたことを通知するときにチェックマークを付けます。

メモ

音声信号の切断は検知対象としておりません。

カメラリスト

VIDEO LOSS の通知設定が一覧表示されます。

対象

通知対象となるカメラにチェックマークを付けます。

カメラ名

NSR に登録されているカメラ名が表示されます。

Ⓑ ディスク使用量

ディスクの残量不足を通知するときにチェックマークを付けます。

対象ストレージリスト

通知対象となるストレージにチェックマークを付けます。

対象

通知対象となるストレージにチェックマークを付けます。

名前

通知対象のストレージ名が表示されます。

容量

ストレージの容量が表示されます。

残り容量（%）

残り容量が%で表示されます。

残り容量

残り容量が GB で表示されます。

総容量

このストレージの総容量が表示されます。

残り容量条件

残容量がどのくらいになったら通知するかを%またはGB で入力します。

Ⓒ レコード数

レコード数が指定した量を超えたことを通知するときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、現在のレコード数が最大のレコード数に対して、どのくらいになったら通知するかを%で入力します。

現レコード数 / 最大レコード数

現在のレコード数と最大レコード数が表示されます。

Ⓓ 適用

設定を保存します。

Ⓔ キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

Ⓕ 閉じる

画面を閉じます。

ご注意

記録エラーや NSR のハードウェアエラーはシステムアラートに含まれ、設定に関わらず常に通知されます。

ユーザーを登録する

NSR にユーザーを登録し、ログオンするときのパスワードや各機能を使用する権限を設定できます。ユーザーには管理者（Level 5）から閲覧（Level 1）まで 5 段階のレベルが用意されています。ユーザーレベルによって、以下の権限が与えられています。必要に応じて、ユーザーごとに権限を個別に設定することもできます。

ご注意

- 作成したユーザーのパスワードを忘れてしまった場合、そのユーザーしか持たない権限については一切実行できなくなりますので、注意してください。
- ユーザーの登録など、ユーザー設定ができるのは、「ユーザー管理」権限が与えられているユーザーだけです。

ユーザーレベルと権限について

ユーザーには、以下の 5 段階のレベルが設定できます。

Level 1：モニタリングとオプションウィンドウの参照が行えます。

Level 2：Level 1 の権限に加え、パン、チルト、ズームなどのカメラコントロールや検索、再生などの基本操作が行えます。

Level 3：Level 2 の権限に加え、ログの管理や、ファイルの削除・保護、エクスポートなど記録ファイルの操作が行えます。

Level 4：Level 3 の権限に加え、デバイスの登録やレイアウト、スケジュールの作成など、デバイスの設定が行えます。

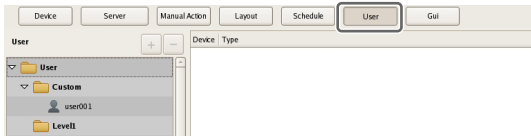
Level 5：Level 4 の権限に加え、管理者としてユーザーの設定やメニューの設定など、すべての操作が行えます。

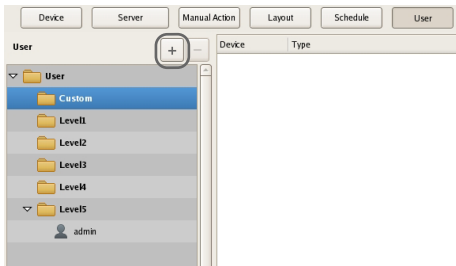
権限	ユーザーレベル				
	1	2	3	4	5
User Configuration	×	×	×	×	○
Administrator Menu Setting	×	×	×	×	○
Schedule Configuration	×	×	×	○	○
Device Configuration	×	×	×	○	○
Server Configuration	×	×	×	○	○
Layout Configuration	×	×	×	○	○
GUI Configuration	×	×	×	○	○
Manul Action Configuration	×	×	×	○	○
Manual Deletion/Protection	×	×	○	○	○
Log Control	×	×	○	○	○
Export Control	×	×	○	○	○
Exit Server	×	×	○	○	○

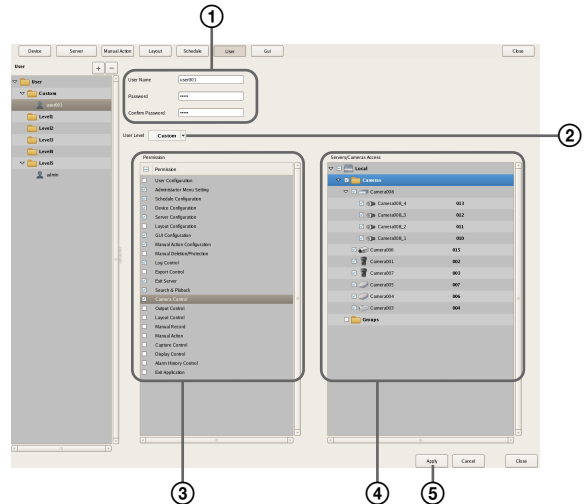
権限	ユーザーレベル				
	1	2	3	4	5
Search & Playback	×	○	○	○	○
Camera Control	×	○	○	○	○
Output Control	×	○	○	○	○
Layout Control	×	○	○	○	○
Manual Record	×	○	○	○	○
Manual Action	×	○	○	○	○
Capture Control	×	○	○	○	○
Display Control	×	○	○	○	○
Alarm History Control	×	○	○	○	○
Exit Application	○	○	○	○	○

ユーザーを登録する

NSR を利用するユーザーを登録し、権限を設定します。

1 「設定」画面上部にある［ユーザー］をクリックする。

「ユーザー設定」画面が表示されます。

2 ［ユーザー］ツリーで、登録したいユーザーのレベルを選択し、＋（追加）をクリックする。

ツリーにユーザーが追加されます。

3 各項目を設定し、［適用］をクリックする。

各項目の詳細は、「［ユーザー］タブの設定項目」（107 ページ）をご覧ください。

① ユーザー名とパスワードを 32 文字以内の半角英数字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）で入力する。

② 必要に応じて、ユーザーレベルを変更する。
個別に権限を設定したいときは、「カスタム」を選択します。

③ このユーザーに与える権限にチェックマークを付けます。

④ デバイスごとにアクセス権を設定するときは、アクセス権を与えるデバイスにチェックマークを付けます。

⑤ ［適用］をクリックする。
設定が保存されます。

メモ

ユーザーレベルを「カスタム」に変更した場合は、「カスタム」のツリーに移動します。

ユーザーの設定内容を変更する

1 「ユーザー設定」画面で、［ユーザー］ツリーから設定を変更したいユーザーを選択する。

2 変更したい項目を設定しなおす。

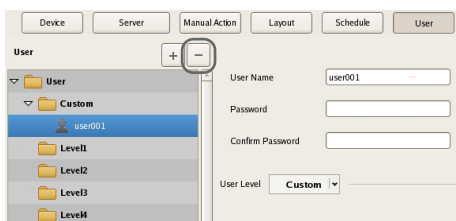
各項目の詳細は「［ユーザー］タブの設定項目」（107 ページ）をご覧ください。

3 各項目を設定したら、［適用］をクリックする。

設定が変更されます。

ユーザーを削除する

1 「ユーザー設定」画面で、［ユーザー］ツリーから削除したいユーザーを選択する。

2 ［−］（削除）をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

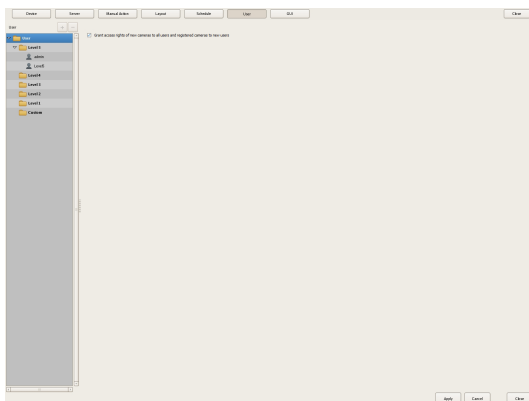
3 ［はい］をクリックする。

ユーザーが削除されます。

デフォルトアクセス権を設定する

通常、ユーザーを追加すると既存のすべてのカメラに対するアクセス権が付与されます。また、カメラを追加すると既存のすべてのユーザーに対し、そのカメラへのアクセス権が付与されます。デフォルトアクセス権を OFF にすると、ユーザーやカメラを追加しても、これらのアクセス権は付与されません。

メモ

デフォルトアクセス権を OFF にしても、レベル 5 のユーザーへは自動でアクセス権が付与されます。

1 「ユーザー設定」画面で、ツリー最上部の「ユーザー」を選択する。

「新規登録時にカメラへのアクセス権を付与する」の選択項目が表示されます。

2 デフォルトアクセス権を ON にするか、OFF にするかを設定します。

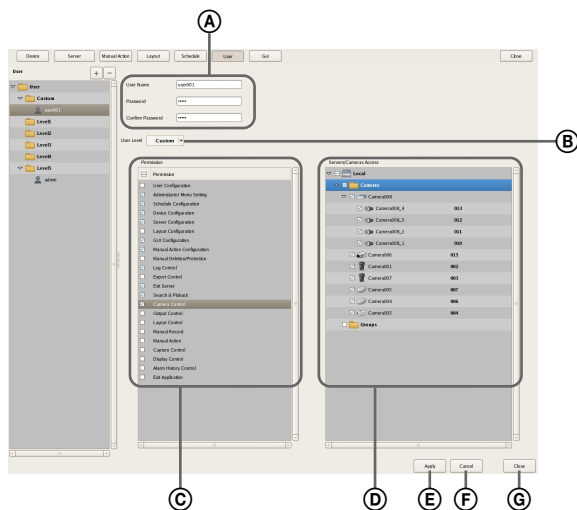
デフォルトアクセス権を ON にするときは、「新規登録時にカメラへのアクセス権を付与する」にチェックマークを付け、OFF にするときはチェックマークをはずします。

3 [適用] をクリックする。

メモ

簡単設定のデバイス追加、ユーザー追加では、この設定にかかわらず、常にカメラへのアクセス権が付与されます。

［ユーザー］タブの設定項目

ユーザーの登録や権限の設定が行えます。
本画面は、［設定］画面で［ユーザー］をクリックすると表示されます。
各項目を設定したら、［適用］をクリックして設定を保存します。

Ⓐ ユーザー

ユーザーの名前を 32 文字以内の半角英数字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）で入力します。

パスワード

ユーザーのパスワードを 32 文字以内の半角英数字、-（ハイフン）、_（アンダーバー）で入力します。

パスワード確認

確認のため、同じパスワードをもう一度入力します。

Ⓑ ユーザーレベル

ユーザーレベルを選択します。
個別に権限を設定したいときは「カスタム」を選択します。

Ⓒ 権限

このユーザーに与える権限にチェックマークを付けます。
一例として、権限には以下のような種類があります。

Camera Control

「カメラコントロール」ペインで、カメラの制御が行えます。

Search & Playback

記録データの検索や再生が行えます。

Export Control

記録画像のエクスポートが行えます。

User Configuration

「ユーザー設定」画面で、ユーザーアカウントの設定や変更が行えます。

Device Configuration

「デバイス設定」画面で、デバイスの追加や削除が行えます。

Ⓓ サーバー／カメラアクセス

このユーザーにアクセスを許可するデバイスおよびサーバーにチェックマークを付けます。

Ⓔ 適用

設定を保存します。

Ⓕ キャンセル

設定の変更をキャンセルします。

Ⓖ 閉じる

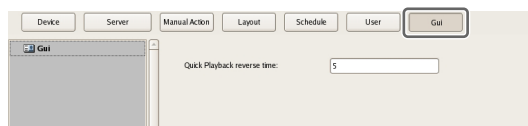
画面を閉じます。

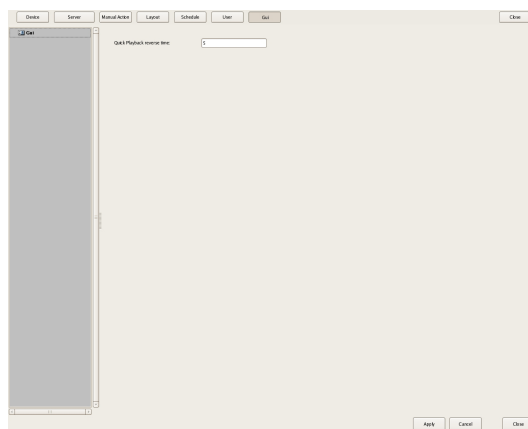
ご注意

サーバーへのアクセス権がない場合は、そのサーバーへのログオンができません。

クイック再生時の巻き戻し時間を設定する

「メイン画面」で［PLAYBACK］をクリックすると、選択されているモニターフレームが再生状態となり、設定されている時間に戻って自動的に再生が開始されます（この機能を「クイック再生」といいます）。
「GUI 設定」画面で、クイック再生時の巻き戻し時間を設定できます。

1 「設定」画面上部にある［GUI］をクリックする。

「GUI 設定」画面が表示されます。

2 クイック再生時の巻き戻し時間を秒単位で入力し、［適用］をクリックする。

クイック再生時の巻き戻し時間が設定されます。

メモ

設定できる時間は 10 秒以上です。

日常の運用

第章

モニタリングする

現在カメラが撮影しているライブ画像や、カメラからの音声をモニタリングできます。また、あらかじめ設定しておいた時間でディスプレイの表示を次々に切り替えるレイアウトツアー機能を使ったモニタリングもできます。

ここでは、以下のモニタリング操作について説明します。
- ライブ画像をモニタリングする （109 ページ）
- レイアウトツアーを使ってモニタリングする（110 ページ）
- カメラからの音声をモニタリングする（110 ページ）

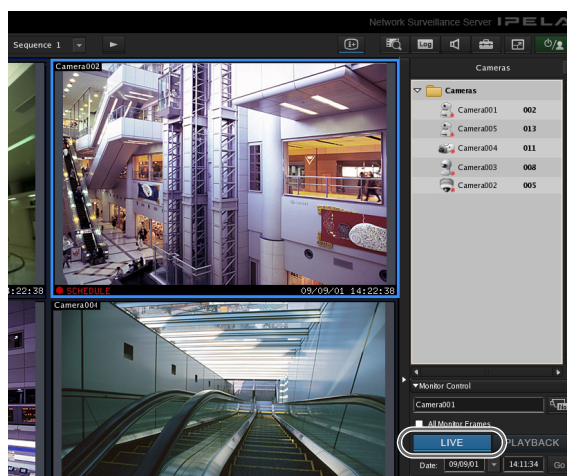
メモ

レイアウトツアー機能を使用するには、あらかじめレイアウトツアーを設定しておく必要があります。設定方法は、「レイアウトツアーを設定する」（62 ページ）をご覧ください。

ライブ画像をモニタリングする

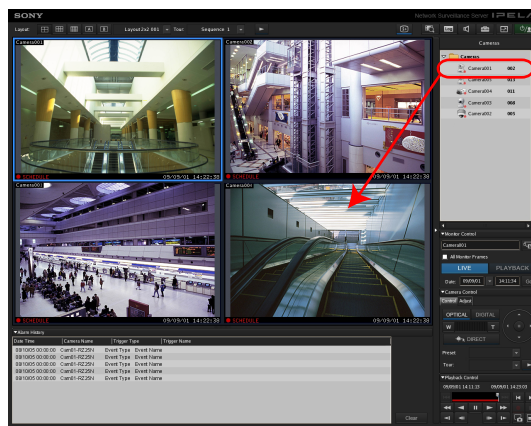
任意のモニターフレームで、現在カメラが撮影している画像をモニタリングできます。

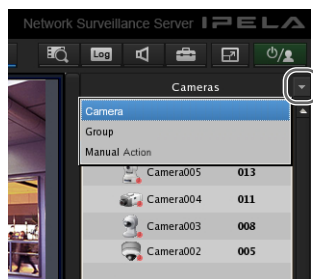
1 メイン画面で、ライブ画像を表示するモニターフレームをクリックして選択する。

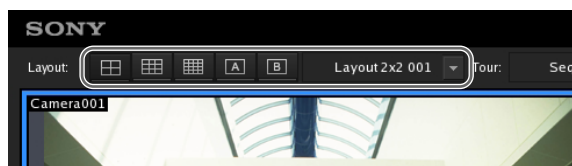
2 「モニターコントロール」ペインの［LIVE］をクリックする。

選択したモニターフレームにライブ画像が表示されます。

各項目の詳細は、「メイン画面の機能と使いかた」（111 ページ）をご覧ください。

別のカメラの画像をモニタリングするには

「カメラ」ペインでカメラを選択し、モニターフレームにドラッグ＆ドロップすると、選択したカメラの画像に切り替わります。
モニターフレームをクリックして選択し、「カメラ」ペインでカメラをダブルクリックしても、選択したカメラの画像に切り替えできます。

メモ

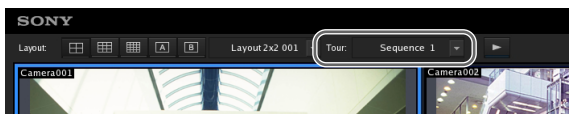
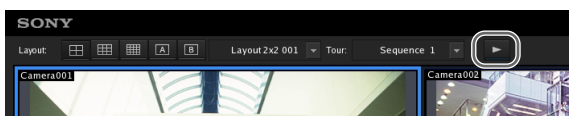
「カメラ」ペインが表示されていないときは、[▾]をクリックし、表示されるメニューで［カメラ］を選択すると、「カメラ」ペインに切り替わります。

レイアウトを変更するには

メイン画面上部の［レイアウト］ツールバーで、レイアウトを選択すると、レイアウトが切り替わります。

レイアウトツアーでモニタリングする

あらかじめ設定しておいた時間でディスプレイの表示を次々に切り替えるレイアウトツアー機能を使ってモニタリングできます。

メモ

レイアウトツアー機能を使用するには、あらかじめレイアウトツアーを設定しておく必要があります。設定方法は、「レイアウトツアーを設定する」（62 ページ）をご覧ください。

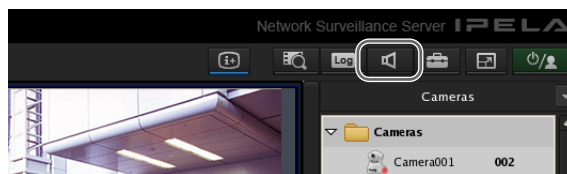
1 メイン画面上部の［ツアー］ツールバーで、レイアウトツアーを選択する。

2 [►]（レイアウトツアーの開始）をクリックする。

シーケンス動作が開始されます。
再度 [►] をクリックすると、レイアウトツアーが終了します。

カメラからの音声をモニタリングする

音声入力対応カメラを使用している場合は、カメラから入力された音声をモニタリングできます。

音声をモニタリングしたいモニターフレームをクリックして選択すると、選択したモニターフレームに割り当てられているカメラからの音声が出力されます。
モニターフレームを複数選択した場合は、最後に選ばれたカメラの音声のみ出力されます。

音量を調節するには

1 [音量アイコン]（音量の調整）をクリックする。

「音量調節」ダイアログが表示されます。

2 スライダーで音量を調節し、［OK］をクリックする。

音を消したいときは、［Muting］にチェックマークを付けます。

メモ

消音状態にすると、どのモニターフレームを選択しても、音声が出力されなくなります。

メイン画面の機能と使いかた

メイン画面では、現在カメラが撮影しているライブ画像のモニタリングや記録画像の再生などが行えます。

Ⓐ ［レイアウト］ツールバー
レイアウトを切り替えるときに使います。

（2 × 2 レイアウト）
2 × 2 のデフォルトレイアウトに切り替えます。

（3 × 3 レイアウト）
3 × 3 のデフォルトレイアウトに切り替えます。

（4 × 4 レイアウト）
4 × 4 のデフォルトレイアウトに切り替えます。

（カスタム A レイアウト）
「カスタム A」グループのレイアウトに切り替えます。

（カスタム B レイアウト）
「カスタム B」グループのレイアウトに切り替えます。

レイアウトメニュー
ドロップダウンメニューからレイアウトを選択します。

Ⓑ ［ツアー］ツールバー
レイアウトツアーを実行するときに使います。

ツアーメニュー
ドロップダウンメニューからレイアウトツアーを選択します。

（レイアウトツアーの開始・停止）
レイアウトツアーを開始または停止します。

Ⓒ **（情報表示）**
レイアウト設定で設定されているモニターフレームの情報の表示／非表示を切り替えます。

Ⓓ **（記録画像の検索）**
検索条件を指定するための「検索」画面（123 ページ）が表示されます。

（ログの表示）
最近のログメッセージが表示される「ログ」画面（133 ページ）が表示されます。

（音量の調整）

NSR から出力される音量を調節します。
選択したモニターフレームのカメラの音声が出力されます。

（設定管理）

デバイスの登録やカメラの動作などを設定するための「デバイス設定」画面（41 ページ）が表示されます。

（フルスクリーン）

現在のレイアウト（モニターフレームの並び）で全画面表示します。
全画面にすると、操作ボタンなどが非表示になります。

（フルスクリーン解除）

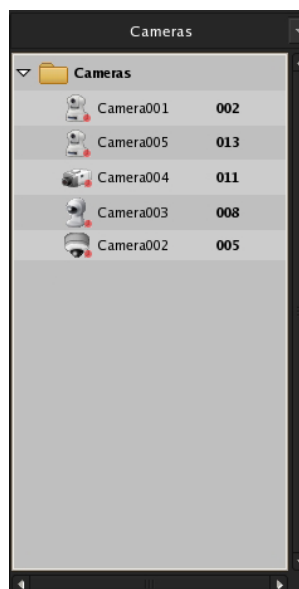
全画面表示から通常画面に戻ります。
このボタンは、全画面表示にしているとき、画面右上の角にカーソルを合わせると表示されます。
キーボードの Esc キーを押しても通常画面に戻ります。

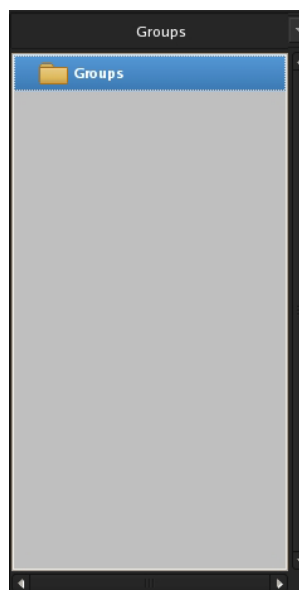
Ⓔ

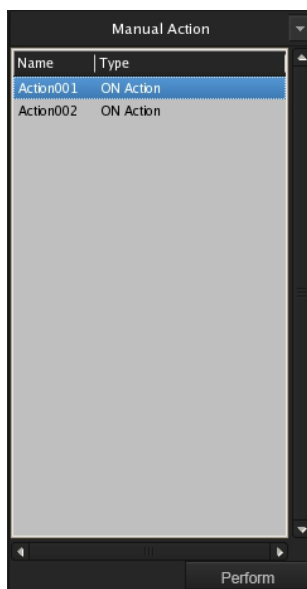
ログオフ、ロック、再起動、シャットダウンができます。

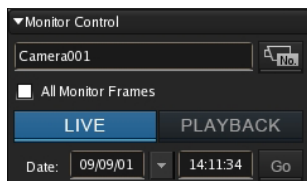
Ⓕ 「カメラ」／「グループ」／「マニュアルアクション」ペイン

をクリックし、表示されるメニューで各ペインに切り替えできます。

「カメラ」ペイン

モニターフレームに画像を表示させるカメラを選択できます。
ツリーからカメラを選択し、モニターフレームにドラッグ＆ドロップすると、選択したカメラの画像に切り替わります。

「グループ」ペイン

デバイスグループ単位でカメラリストが表示され、モニターフレームに画像を表示させるカメラを選択できます。
ツリーからカメラを選択し、モニターフレームにドラッグ＆ドロップすると、選択したカメラの画像に切り替わります。

「マニュアルアクション」ペイン

手動でアクションを実行できます。
一覧からアクションを選択し、［Perform］をクリックします。

Ⓖ 「モニターコントロール」ペイン

ライブ画像と記録画像の切り替えができます。

選択されているモニターフレームに割り当てられているカメラの名前が表示されます。
カメラの割り当てを変更するときは、［No.］（カメラID選択）をクリックし、表示される入力ボックスにカメラのIDを入力し、Enterキーを押します。

すべてのモニターフレーム

ここにチェックマークを付けると、ライブ画像のモニタリングやクイック再生が、すべてのモニターフレームに対して有効となります。

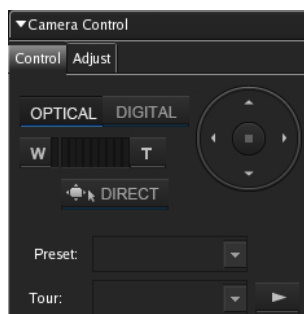
メモ

レイアウト内の合計モニターフレーム数が9以下の場合のみ［すべてのモニターフレーム］をチェックできます。

選択しているモニターフレームでライブ画像をモニタリングするときは［LIVE］を、記録画像を再生するときは［PLAYBACK］をクリックします。
また、モニターフレームを選択するとボタンが点灯し、ライブとプレイバックのどちらの状態になっているかを示します。
［PLAYBACK］をクリックすると、選択されているモニターフレームが再生状態となり、「GUI設定」で設定されている時間に戻って自動的に再生が開始されます（この機能を「クイック再生」といいます）。

Date: 09/09/01 14:11:34 Go

記録画像の再生位置を日時で指定できます。
日付と時刻を指定して［Go］をクリックすると、選択したモニターフレームに指定した位置から記録画像が再生されます。

Ⓗ 「カメラコントロール」ペイン
［コントロール］タブ

カメラからの画像を操作できます。

OPTICAL

カメラを光学ズームモードにします。

DIGITAL

画像をモニター上で拡大／縮小して表示します。

広角ズーム／望遠ズーム

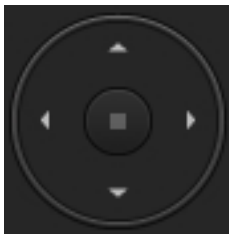
広角側／望遠側にズームします。
[W] はワイド（広角側）、[T] はテレ（望遠）になります。
「W」と「T」の間をクリックすると、絶対値にズームします。

DIRECT

このボタンをクリックすると、マウスの操作でパン・チルト、ズーム、センタリングの操作ができるようになります。
また、以下のショートカットキーも利用できます。

ショートカットキー	操作
Ctrl ＋左クリック	選択したポイントが中心となるように移動
Ctrl ＋左クリックでドラッグ	赤い枠が表示され、マウスボタンを離すと枠内の画像をウィンドウいっぱいに拡大表示
Ctrl ＋ホイールを前方に回す 1)	ズームイン
Ctrl ＋ホイールを後方に回す 1)	ズームアウト

1) デジタルでのズームイン／ズームアウトには対応していません。

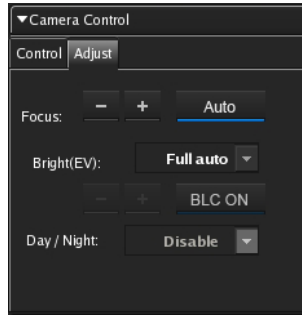
パン／チルト

カメラを上下左右に動かします。

プリセット

選択したプリセット位置にカメラが移動します。

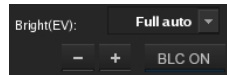
ツアー

選択したカメラツアーを実行します。

[調整] タブ

カメラからの画像を調整できます。

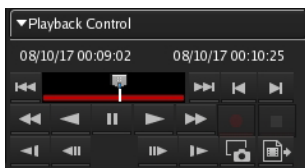
フォーカス

[AUTO] を選択すると、フォーカスが常時自動調整されます。
[−] [＋] をクリックすると、自動状態が解除され、手動でフォーカスを調整できます。[＋] 側に調整すると近くのものにピントが合い、[−] 側に調整すると遠くのものにピントが合います。

明るさ（EV）

[Full auto] を選択すると、明るさが常時自動調整されます。[BLC ON] をクリックするたびに、逆光補正がオン／オフします。
[−] [＋] をクリックすると、自動状態が解除され、手動で明るさを調整できます。[＋] 側に調整すると明るめに、[−] 側に調整すると暗めになります。

デイ / ナイト

デイ／ナイト機能を持つカメラの場合に、デイ／ナイト機能のオン（ナイトモード）／オフ（デイモード）を選択します。

Ⓘ 「再生コントロール」ペイン

記録画像を再生するときに使います。
記録画像をファイルとしてエクスポートしたり、記録画像の一場面を、静止画ファイルとしてエクスポートすることもできます。

日時表示部

画像が記録されたときの日時が表示されます。

（前のアラーム）をクリックすると記録データ内の前のアラームに、（次のアラーム）をクリックすると次のアラームにジャンプします。
スライダーをドラッグすることで、再生したい時刻に再生ポイントを移動できます。

（巻戻し）
巻き戻しをします。
また、ボタンをクリックするたびに、巻き戻し速度が次のように変わります。

2倍 → 5倍 → 10倍 → 20倍 → 50倍

（逆再生）
逆再生します。（1倍速）

（一時停止）
再生を一時停止します。

（再生）
再生します。（1倍速）
メタデータが記録されていて、VMF（Video Motion Filter）が設定されている場合は、同時に再生されます。（1倍速再生時のみ）

（早送り）
早送りします。
また、ボタンをクリックするたびに、早送り速度が次のように変わります。

2倍 → 5倍 → 10倍 → 20倍 → 50倍

（逆スロー再生）
逆スロー再生します。（1/5倍速）

（コマ戻し）
1フレーム戻します。

（コマ送り）
1フレーム進めます。

（スロー再生）
スロー再生します。（1/5倍速）

（前の記録）
1つ前のレコードにジャンプします。

（次の記録）
次のレコードにジャンプします。

（記録開始）
モニターフレームで選択したカメラの画像の記録を開始します。

（記録停止）
マニュアル記録を停止します。
記録を停止できるのは、マニュアル記録だけです。

（静止画のキャプチャ）
記録画像の一場面を静止画ファイルとしてエクスポートします。
静止画はJPEGでエクスポートされます。
詳しくは、「静止画としてエクスポートする」（131ページ）をご覧ください。

（記録画像のエクスポート）
動画は独自フォーマット（.camファイル）でエクスポートされます。エクスポートされた動画は、CAMファイル再生用アプリケーションで再生します。

Ⓙ ［ALARM］ランプ

ALARM ERROR

アラームが発生したときに点灯します。
アラーム履歴ペインにある[Clear]ボタンをクリックして履歴をクリアすると、[ALARM]ランプが消灯します。

［ERROR］ランプ

ERROR

エラーが発生したときに点灯します。
[ERROR]ランプをクリックするとログウィンドウが開きます。エラーの内容を確認することにより[ERROR]ランプが消灯します。[ERROR]ランプが点灯したまま

ですと、クライアントへのサーバーエラー通知が継続されます。

Ⓚ ペイン伸縮ボタン

ペイン部の表示／非表示を切り替えます。

Ⓛ 「アラーム履歴」ペイン

▼Alarm History

Date Time	Camera Name	Trigger Type	Trigger Name
2008-10-16 23:20:07	Camera007	VMD(Camera)	(ON)
2008-10-16 23:13:07	Camera007	VMD(Camera)	(ON)
2008-10-16 23:12:41	Camera007	VMD(Camera)	(ON)
2008-10-16 23:11:12	Camera007	VMD(Camera)	(ON)
2008-10-16 23:07:36	Camera007	VMD(Camera)	(ON)
2008-10-16 23:07:23	Camera007	VMD(Camera)	(ON)
2008-10-16 23:07:08	Camera007	VMD(Camera)	(ON)
2008-10-16 22:18:57	Camera001	VMD(Recorder)	(ON)
2008-10-16 22:18:54	Camera001	VMD(Recorder)	(ON)
2008-10-16 22:18:50	Camera001	VMD(Recorder)	(ON)
2008-10-16 22:16:53	Camera001	VMD(Recorder)	(ON)
2008-10-16 22:15:29	Camera001	VMD(Recorder)	(ON)
2008-10-16 22:14:43	Camera001	VMD(Recorder)	(ON)

Clear

アラームが発生したときの履歴が一覧表示されます。タイトルの先頭にある▼をクリックすると、リストの表示／非表示が切り替わります。
また、ペイン上部をマウスでドラッグすることで、ペインの大きさを変更できます。

Clear

履歴をクリアします。

Ⓜ モニターフレーム

それぞれのモニターフレームで、ライブ画像の表示や記録画像の再生ができます。
ライブ画像をモニタリングするときは、モニターフレームをクリックして選択し、［LIVE］をクリックします。
記録画像を再生するときは、再生したいモニターフレームをクリックして選択し、［PLAYBACK］をクリックします。

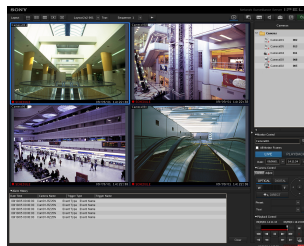
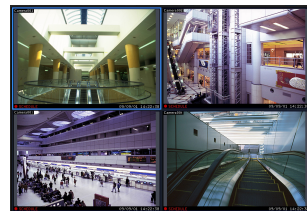
クリックアクションが設定されている場合

レイアウトに貼り込まれた画像やモニターフレームにアクションが設定されている場合、指定したオブジェクトの位置にマウスをかざすと、ポインターが変わります。

ポインターが変わったところでマウスをクリックすると、アクションが実行されます。

2 番目のモニター（モニター 2）

本機にモニターを 2 台接続した場合、モニターコネクター 2 に接続したモニターには、1 × 1、2 × 2、3 × 2、3 × 3、4 × 4 のいずれかに指定したモニターレイアウトが表示されます。モニター 2 は、ホットスポット用モニターとして使用できます。

モニター 1 の画面

モニター 2 の画面

表示される画像は、モニター 1 で選択されたモニターフレームと同じものです。ただし、センサー入力や動体検知があった場合は、該当するカメラの画像が表示されます。
2 台のモニターを接続したときの動作は、次のようになります。

- 選択された画像、またはセンサー入力や動体検知があったカメラの画像が左上から右上、左下、右下の順に、空いているモニターフレームに表示されます。
- すでに同じ画像がモニターフレームに表示されている場合は、別のモニターフレームへの表示は行われません。

メモ

- モニター 2 では、設定操作を行うことはできません。
- モニター 2 の表示を行うと、モニター 1 の表示のパフォーマンスが低下することがあります。

モニターフレーム

Ⓐ カメラ名
カメラの名前が表示されます。

Ⓑ 帯域
ネットワーク接続で画像を転送するために使用される帯域の値が表示されます。

Ⓒ フレームレート
カメラから画像を取り込む速度が表示されます。

Ⓓ VMD（レコーダー）
Video Motion Detection（レコーダー）の検知状況が表示されます。

Ⓔ 表示フレーム数
カメラ画像がモニター上で更新される速度が表示されます。

Ⓕ 時刻
ライブ画像のモニタリング中や記録中には現在の日時、記録画像の再生中には記録時の日時が表示されます。

Ⓖ 状態
記録時には、記録種別（MANUAL、ALARM、SCHEDULE、EVENT）を表示します。
記録画像の再生時には、再生操作の状態（PAUSE など）や再生速度（＋ 1 x 、－ 0.2 x など）を表示します（正方向の再生速度には「＋」、逆方向の再生速度には「－」が付きます）。

メモ

- ホットスポットに設定されているモニターフレームでは、以下の場合などに該当するカメラの画像が表示されます。
  －モニターフレームが選択されたとき
  －センサー入力があったとき
  －動体検知や VMF パッケージのアラームが発生したとき
- センサー入力や動体検知、VMF パッケージのアラームが発生したときに、アラームが入力されている、またはアラームが発生しているカメラの画像がモニターフレームに表示されている場合は、赤枠を表示します。

モニターフレームを 1 × 1 表示にする

モニターフレーム上でダブルクリックすると、そのモニターフレームが 1 × 1 表示になります。
再度ダブルクリックすると、元のレイアウトに戻ります。

メモ

1 × 1 表示に切り替えた後に別のレイアウトに切り替えたり、アクション、レイアウトツアーによってレイアウトの切り替えが行われた場合は、続けてダブルクリックしても元のレイアウトには戻りません。

カメラをコントロールする

パン・チルト機能を備えたカメラの場合は、画面右側にある［カメラコントロール］ペインやマウスを使って、パン、チルト、ズームの操作をしながらカメラからの画像をモニターできます。

［カメラコントロール］ペインの使いかたのついては、「メイン画面の機能と使いかた」（111 ページ）をご覧ください。

メモ

カメラのコントロールは、ネットワークに対応したカメラにのみ有効です。

パン、チルト、ズームの操作をする

［カメラコントロール］ペインを使ってコントロールする

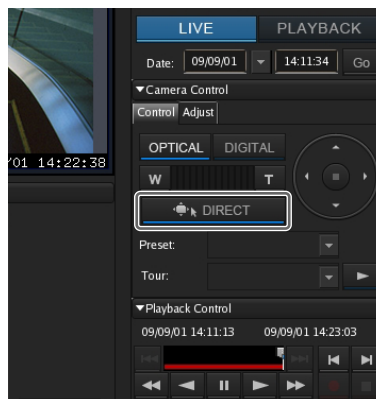
1 任意のモニターフレームを選択し、コントロールしたいカメラの画像を表示する。

2 ［カメラコントロール］ペインを使って、カメラをコントロールする。

マウスを使ってコントロールする

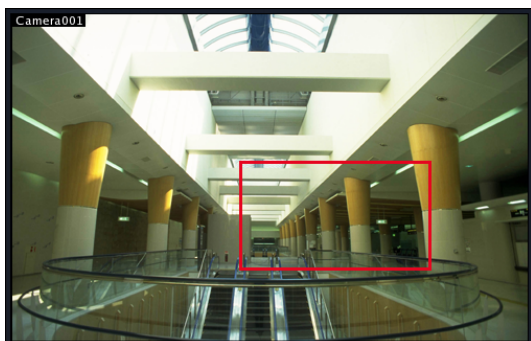
カメラモニターフレームに表示されている画像上でマウスを操作することにより、センタリングや、パン、チルト、ズームなどの操作ができます。

1 任意のモニターフレームを選択し、コントロールしたいカメラの画像を表示する。

2 ［カメラコントロール］ペインの DIRECT をクリックする。

■画像をセンタリングするには

画像上でマウスをクリックすると、クリックした位置が中心になるようにカメラが移動します。

■パン、チルト、ズームの操作を行うには

画像上でマウスをドラッグすると、赤い枠が表示されます。マウスから指を離すと、赤い枠内の画像が画面いっぱいに表示されるようにカメラが移動します。

■ズームイン、ズームアウトの操作を行うには

ホイール付きのマウスをお使いの場合は、ホイールを回すと、ズームイン、ズームアウトができます。

- ホイールを前方に回すと、ズームイン 1)
- ホイールを後方に回すと、ズームアウト 1)

1) デジタルズームでのズームイン／ズームアウトには対応していません。

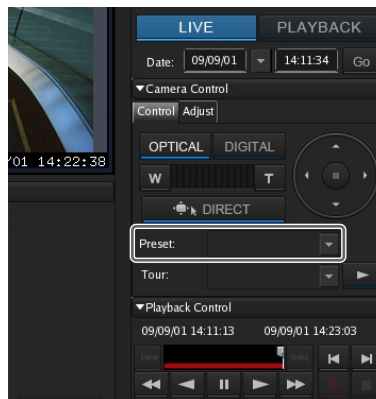
カメラのプリセットを使う

カメラに記憶されているプリセット位置にカメラを移動できます。

メモ

新しいプリセットを設定することもできます。設定方法は、「プリセット位置を設定する」（47 ページ）をご覧ください。

1 任意のモニターフレームを選択し、コントロールしたいカメラの画像を表示する。

2 ［カメラコントロール］ペインの［プリセット］で、プリセットを選択する。

カメラがプリセットの位置に移動します。

カメラツアーを実行する

プリセットに指定されているパン、チルト、ズーム位置にカメラを順に移動させる「ツアー」を実行できます。カメラは、あらかじめ設定されている時間だけ、各プリセット位置に留まります。

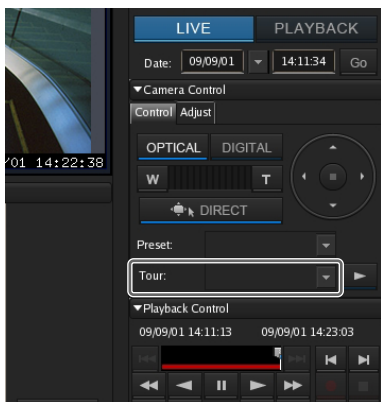
また、シャドーツアー機能を使って記録したカメラ動作を実行することもできます。

メモ

カメラツアー機能やシャドーツアー機能を使うには、あらかじめカメラツアーやシャドーツアーを設定しておく必要があります。設定方法は、「カメラツアーを設定する」（48 ページ）、「シャドーツアーを設定する」（49 ページ）をご覧ください。

1 任意のモニターフレームを選択し、コントロールしたいカメラの画像を表示する。

2 ［カメラコントロール］ペインの［ツアー］で、カメラツアーを選択し、►（カメラツアーの開始）をクリックする。

P-1 ～がカメラツアー、S-1 ～ S-4 がシャドーツアーです。

カメラツアーが実行されます。

画像を記録・検索・再生する

ライブ画像を記録したり、記録済みの画像データや音声データを検索して再生できます。
ここでは、以下の操作について説明します。

- ライブ画像を記録する （120 ページ）
  現在カメラが撮影している画像を記録できます。
- 記録画像を再生する （121 ページ）
  指定した時間分を自動的に巻き戻して再生するクイック再生や日時を指定しての再生、アラーム履歴からの再生するなど、簡単な操作で記録画像を再生できます。
- 記録画像を検索する （122 ページ）
  日時や記録種別を指定して、記録画像を検索できます。
- 検索結果から記録画像を再生する （123 ページ）
  検索結果から記録画像を再生できます。

ご注意

高負荷時やネットワークの遅延などによって、記録した映像のフレームレートにばらつきが生じることがあります。この記録映像を再生すると、一瞬映像が止まったように見えたり、逆に早送りされているように見えたりしますが、映像フレームの欠落によるものではありません。

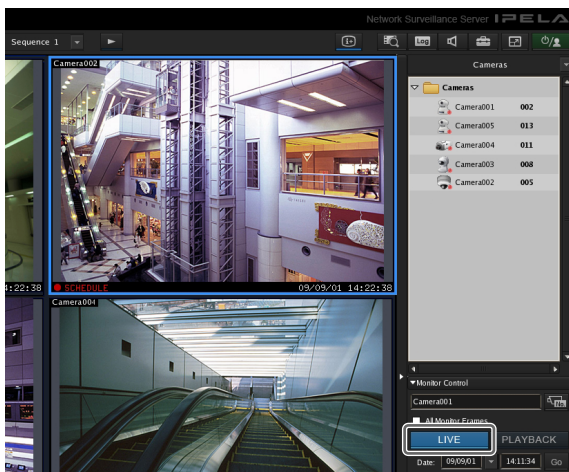
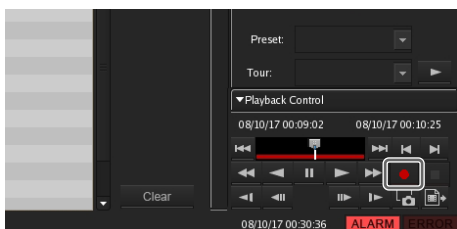
ライブ画像を記録する

現在カメラが撮影している画像を記録できます。

ライブ画像を記録する

1 ライブ画像を記録したいモニターフレームを選択する。

メモ

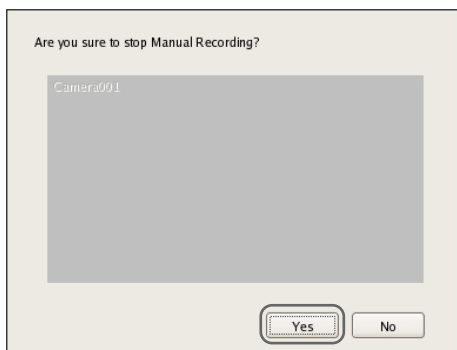
ライブ画像が表示されていない場合は、「モニターコントロール」ペインの［LIVE］をクリックしてください。

2 「再生コントロール」ペインの ●（記録開始）をクリックする。

記録が開始されます。

メモ

レイアウトを変更しても、記録は継続されます。

3 記録を停止するときは、■（記録停止）をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

4 ［はい］をクリックする。

記録が停止します。

記録画像を再生する

指定した時間分を自動的に巻き戻して再生するクイック再生や、再生位置を日時で指定したり、アラーム履歴から再生するなど、簡単な操作で記録画像を再生できます。

クイック再生

モニターフレームをクリックして選択し、［PLAYBACK］をクリックすると、あらかじめ設定されている時間分だけ巻き戻して自動的に記録画像が再生されます。

メモ

クイック再生の巻き戻し時間は、「GUI 設定」画面（108ページ）で設定できます。

日時を指定して再生する

記録画像の再生位置を日時で指定できます。

1 記録画像を再生したいカメラが割り当てられているモニターフレームをクリックして選択する。

2 「モニターコントロール」ペインの［日時］で日付と時刻を指定し、［Go］をクリックする。

指定した時刻のフレームが表示されます。

アラーム履歴から再生する

1 録画像を再生したいモニターフレームをクリックして選択する。

2 「アラーム履歴」ペインで、アラーム履歴をダブルクリックする。

記録画像が再生されます。

記録画像を検索する

検索には、次の種類があります。

- **ノーマル検索**
  記録種別（スケジュール記録、マニュアル記録、アラーム記録、イベント記録）を指定して検索できます。
- **オブジェクト検索**
  すでに記録されている画像に対して、VMD（レコーダー）の動体検知機能や VMF の機能を使った検索ができます。

ノーマル検索

記録種別（スケジュール記録、マニュアル記録、アラーム記録、イベント記録）を指定して検索できます。

1 メイン画面上部の［アイコン］（記録画像の検索）をクリックする。

「検索」画面が表示されます。

2 検索条件を指定し、［検索］をクリックする。

各項目の詳細は、「「検索」画面（ノーマル）の設定項目」（123 ページ）をご覧ください。

① ［ノーマル］をクリックする。

② 検索条件を指定する。

③ ［検索］をクリックする。
検索結果が一覧表示されます（④）。
検索結果から記録画像を再生できます。詳しくは、「検索結果から記録画像を再生する」（123 ページ）をご覧ください。

オブジェクト検索

すでに記録されている画像に対して、VMD（レコーダー）の動体検知機能や VMF の機能を使った検索ができます。

1 「検索」画面で、検索条件を指定し、［検索］をクリックする。

各項目の詳細は、「「検索」画面（オブジェクト）の設定項目」（124 ページ）をご覧ください。

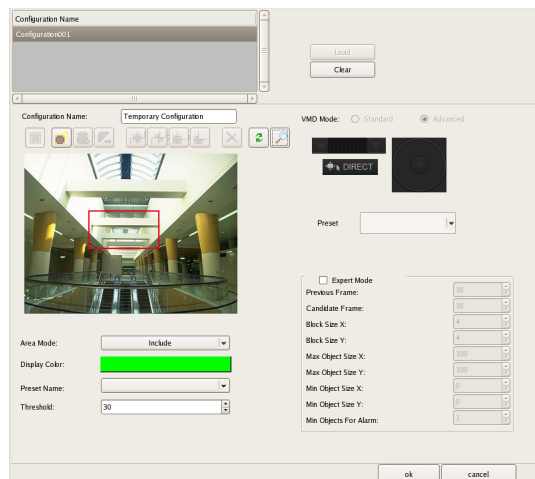
① ［オブジェクト］をクリックする。

② 検索条件を指定する。

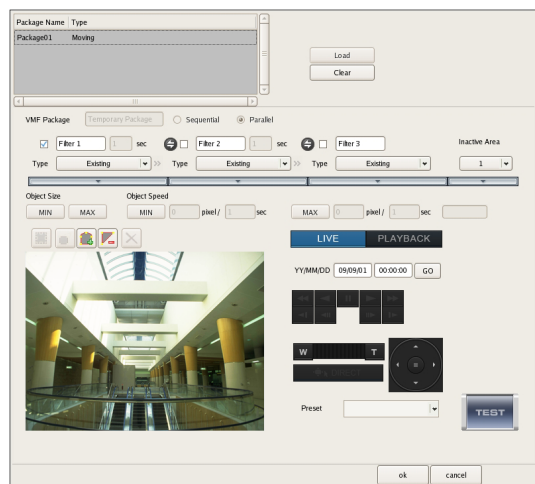
③ ［VMF］または［VMD（Recorder）］を選択する。

④ ［編集］をクリックし、表示されるダイアログで各項目を設定し、［OK］をクリックする。

VMD（Recorder）の場合

検知領域を設定します。

各項目の詳細は、「「オブジェクト検索設定」ダイアログ（VMD）の設定項目」（125 ページ）をご覧ください。

VMF の場合

使用する VMF パッケージを指定します。

各項目の詳細は、「「オブジェクト検索設定」ダイアログ（VMF）の設定項目」（125 ページ）をご覧ください。

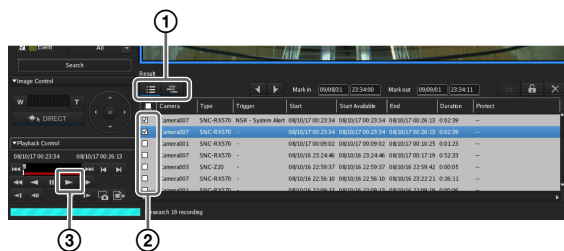
⑤［検索］をクリックする。
検索結果が一覧表示されます（⑥）。

検索結果から記録画像を再生する

検索結果から記録画像の再生ができます。

1 「検索」画面で、記録画像を検索する。

2 記録画像を再生する。

画面例）リスト表示

各項目の詳細は、「検索結果」画面（リスト表示）（125 ページ）、「検索結果」画面（タイムライン表示）（126 ページ）をご覧ください。

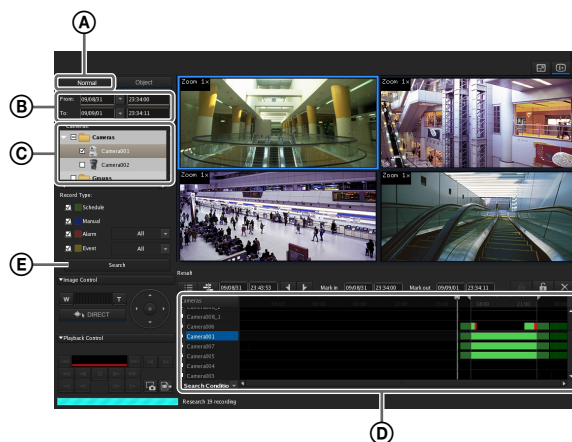
① 必要に応じて、タイムライン表示またはリスト表示に切り替える。
（リストモード）をクリックするとリスト表示に、（タイムラインモード）をクリックするとタイムライン表示に切り替わります。

② 再生したい記録画像にチェックマークを付ける。

③ （再生）をクリックする。
モニターフレームに記録画像が再生されます。
「画像コントロール」ペインや「再生コントロール」ペインで、画像の拡大／縮小や早送り、巻き戻しなどの操作ができます。

「検索」画面の詳細

「検索」画面（ノーマル）の設定項目

ノーマル検索時の検索条件を指定します。
各項目を設定し、［検索］をクリックすると、指定した条件で検索が実行されます。

Ⓐ ［ノーマル］タブ
記録種別（スケジュール記録、マニュアル記録、アラーム記録、イベント記録）を指定して検索するときに選択します。

Ⓑ 日時指定部

検索対象の日時の範囲を指定します。

Ⓒ デバイス指定部

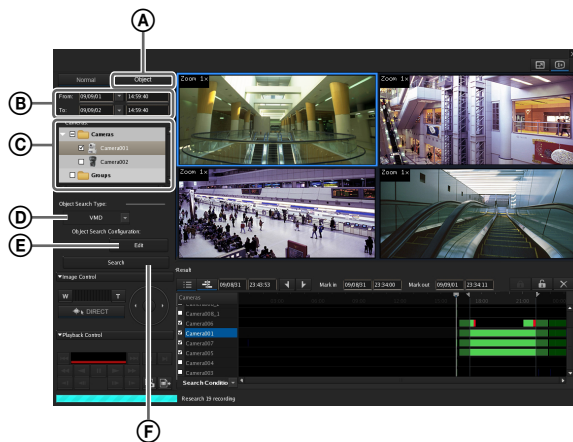
検索対象のデバイスを指定します。
検索対象のデバイスにチェックマークを付けます。

Ⓓ 記録種別

検索対象の記録種別にチェックマークを付けます。
［アラーム記録］と［イベント記録］にチェックマークを付けたときは、ドロップダウンメニューから記録のトリガーを選択します。

Ⓔ ［検索］ボタン
指定した条件で検索を実行します。

「検索」画面（オブジェクト）の設定項目

オブジェクト検索時の検索条件を指定します。
各項目を設定し、［検索］をクリックすると、指定した条件で検索が実行されます。

Ⓐ ［オブジェクト］タブ
VMD（レコーダー）の動体検知をトリガーとして検索したり、動体／不動体の検出条件であるフィルター（VMF：Video Motion Filter）をかけて該当する記録を検索するときに選択します。

Ⓑ 日時指定部

検索対象の日時の範囲を指定します。

Ⓒ デバイス指定部

検索対象のデバイスを指定します。選択できるデバイスやチャンネルは1つだけです。
検索対象のデバイスにチェックマークを付けます。

Ⓓ オブジェクト検索種別

検索対象の動体検知の種類を選択します。

Ⓔ オブジェクト検索設定
［編集］をクリックすると、［オブジェクト検索種別］で選択した動体検知の種類に応じて、検索条件を詳細に設定するためのダイアログが表示されます。

Ⓕ ［検索］ボタン
指定した条件で検索を実行します。

「オブジェクト検索設定」ダイアログ（VMD）の設定項目

VMD（レコーダー）の動体検知機能を使って検索するときの検索条件を詳細に指定します。
本ダイアログは、「検索」画面の［オブジェクト検索種別］（124 ページ）で、［VMD］を選択し、［編集］をクリックしたときに表示されます。
各項目を設定したら、［OK］をクリックします。

Ⓐ **設定名**
検索に使用する設定を選択し、［読み込み］をクリックします。
読み込んだ設定内容が、Ⓑ の各項目に反映されます。

Ⓑ **動体検知領域設定部**
動体検知領域を設定します。
設定方法は［デバイス設定］画面で［VMD（レコーダー）］を設定するときと同様です。各項目の詳細は、「［VMD］タブ（VMD（レコーダー））の設定項目」（64 ページ）をご覧ください。

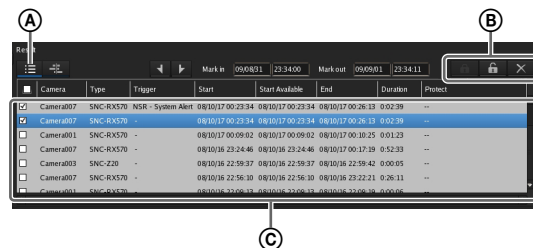
「オブジェクト検索設定」ダイアログ（VMF）の設定項目

動体／不動体の検出条件であるフィルター（VMF：Video Motion Filter）をかけて該当する記録を検索するときの検索条件を詳細に指定します。
本ダイアログは、「検索」画面の［オブジェクト検索種別］（124 ページ）で、［VMF］を選択し、［編集］をクリックしたときに表示されます。
各項目を設定したら、［OK］をクリックします。

Ⓐ **設定名**
検索に使用する VMF パッケージを選択し、［読み込み］をクリックします。
読み込んだ設定内容が、Ⓑ の各項目に反映されます。

Ⓑ **VMF パッケージ設定部**
VMF パッケージの内容を設定します。
設定方法は［デバイス設定］画面で［VMF］を設定するときと同様です。各項目の詳細は、「［VMD］タブ（VMF）の設定項目」（71 ページ）をご覧ください。

検索結果表示部（リスト表示）

リスト表示では、検索結果の一覧が表示されます。
項目によっては、一覧のタイトル部分をクリックすると、その項目でソートできます。クリックするたびに、降順／昇順にソートされます。

Ⓐ **（リストモード）**
リスト表示に切り替えます。

Ⓑ **（保護）**
選択した記録を保護します。

（保護解除）
選択した記録の保護を解除します。

（削除）
選択した記録を削除します。

Ⓒ 検索結果の一覧
記録の再生を行うときは、該当するカメラにチェックマークを付けます。
一覧には、以下の情報が表示されます。

カメラ
カメラ名が表示されます。
この項目はソートできます。

種別
記録の種類（マニュアル／スケジュール／アラーム／イベント）が表示されます。
この項目はソートできます。

トリガー
記録のトリガーが表示されます。
この項目はソートできます。

開始
記録の開始時刻が表示されます。
この項目はソートできます。

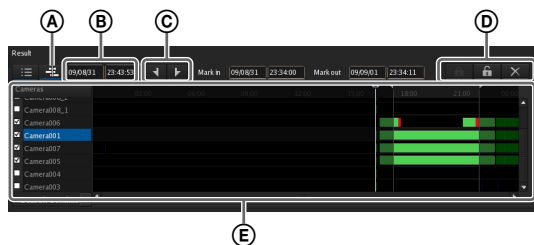
有効開始
再生開始可能な時刻が表示されます。
クリーンアップやデータ上書きにより、記録の先頭から順に古いデータが削除されている場合があります。

終了
記録の終了時刻が表示されます。

期間
記録データの長さが表示されます。

保護
記録データが保護されているときは「保護」と表示されます。

検索結果表示部（タイムライン表示）

リスト表示では、検索結果の一覧が記録の種類ごとに色分けされて表示されます。

Ⓐ （タイムラインモード）
タイムライン表示に切り替えます。

Ⓑ タイムラインの時刻表示
現在、タイムラインのどの位置（時刻）にいるのかが表示されます。

Ⓒ （マークイン）／（マークアウト）
検索された記録をエクスポートする場合に、その一部分を指定できます。
（マークイン）／（マークアウト）をクリックすると、現在の再生位置に開始点／終了点が設定されます。
マークイン／マークアウトの位置は、ドラッグ＆ドロップで移動させることもできます。

Ⓓ （保護）
選択した記録を保護します。

（保護解除）
選択した記録の保護を解除します。

（削除）
選択した記録を削除します。

Ⓔ 検索結果の一覧
記録の再生を行うときは、該当するカメラにチェックマークを付けます。
一覧には、以下の情報が表示されます。

カメラ
記録したカメラ名が表示されます。

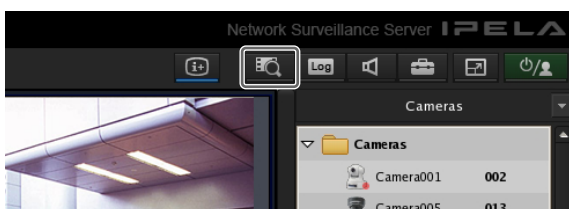
白い線（ウォーカー）
現在、タイムラインのどの位置（時刻）にいるのかを示します。
白い線をドラッグして位置を移動することもできます。
また、タイムラインの目盛（リストのタイトル部分）をクリックしても、白い線を移動できます（クリックした位置に白い線が移動します）。

記録画像を削除する

削除したい記録画像を検索し、手動で削除できます。

メモ

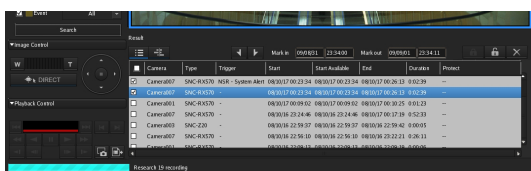
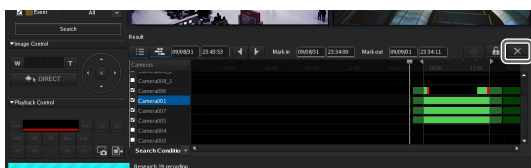
常にディスクの空き容量を確保しておくために、スケジュールを設定して記録画像を削除することもできます。詳しくは、「記録データの削除に関する設定をする」（78ページ）をご覧ください。

1 メイン画面上部の［記録画像の検索アイコン］（記録画像の検索）をクリックする。

「検索」画面が表示されます。

2 検索条件を指定し、［検索］をクリックする。

記録画像の検索については、「記録画像を検索する」（122ページ）をご覧ください。

3 削除したい記録画像を選択し、［×］（削除）をクリックする。

リスト表示の場合

タイムライン表示の場合

メモ

プロテクトされている記録画像は削除できません。

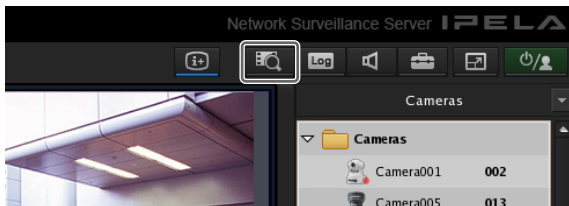
確認メッセージが表示されます。

4 ［はい］をクリックする。

記録画像が削除されます。

記録画像を保護する

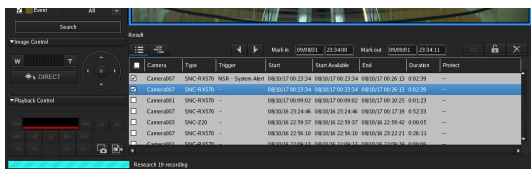
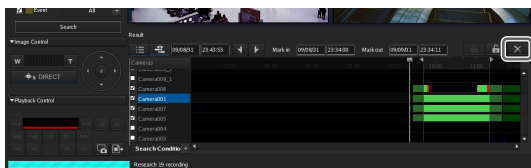
クリーンアップやデータ上書きや誤操作により記録画像が削除されないように保護することができます。

1 メイン画面上部の （記録画像の検索）をクリックする。

「検索」画面が表示されます。

2 検索条件を指定し、［検索］をクリックする。

記録画像の検索については、「記録画像を検索する」（122 ページ）をご覧ください。

3 保護したい記録画像を選択し、 （保護）をクリックする。

リスト表示の場合

タイムライン表示の場合

記録画像が保護されます。
リスト表示の場合は、保護された記録に「保護」と表示されます。

画像の保護を解除するには

上記の手順 3 で保護を解除したい記録画像を選択し、 （保護解除）をクリックします。

記録画像をエクスポートする

保存されている記録画像をファイルとしてエクスポートできます。
動画は独自フォーマット（.cam ファイル）、静止画は JPEG でエクスポートされます。エクスポートされた動画は、CAM ファイル再生用アプリケーションで再生します。

メモ

同時に複数のエクスポート処理を行うことはできません。

記録画像をエクスポートする

保存されている記録画像をファイルとしてエクスポートできます。記録画像のエクスポートは、メイン画面または「検索」画面から行えます。記録画像の一部を指定してエクスポートすることもできます。

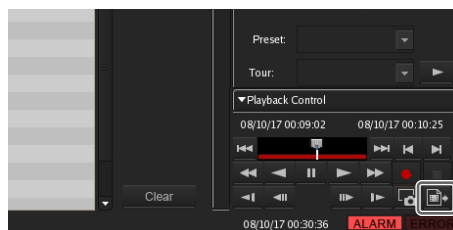
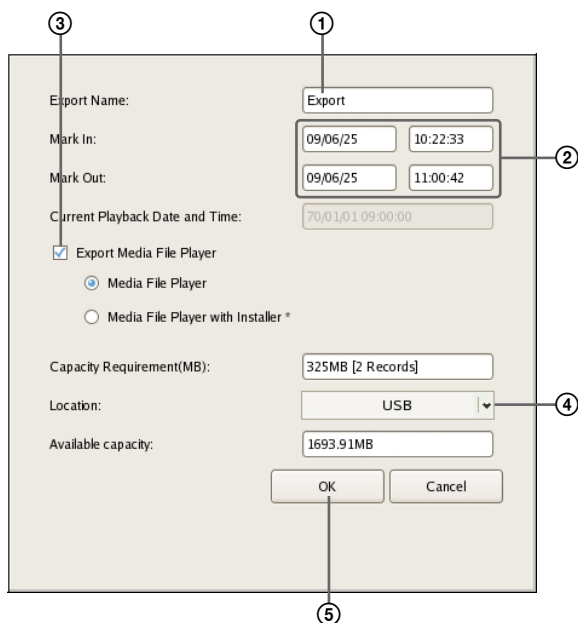
メイン画面からエクスポートする

1 任意のモニターフレームを選択し、エクスポートしたいカメラの画像を表示する。

再生中の記録画像をエクスポートしたいときは、再生を一時停止してから、以降の手順を行ってください。

2 ［再生コントロール］ペインの （記録画像のエクスポート）をクリックする。

「エクスポート」ダイアログが表示されます。

第 5 章　日常の運用

3 各項目を設定し、[OK] をクリックする。

各項目の詳細は、「「エクスポート」ダイアログの設定項目」(130 ページ)をご覧ください。

① エクスポート名を入力する。

② 必要に応じて、エクスポートする記録画像の開始点(マークイン)や終了点(マークアウト)を指定する。

③ エクスポートしたファイルを閲覧するための「Media File Player」も一緒にエクスポートするときにチェックマークを付ける。

④ エクスポート先のメディアを選択する。

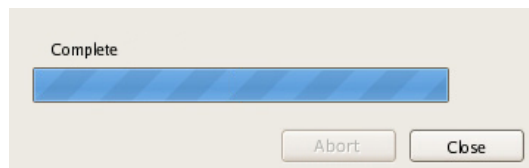
⑤ [OK] をクリックする。

エクスポートが開始されます。
エクスポート中は以下の画面が表示され、進行状況を確認できます。

メモ

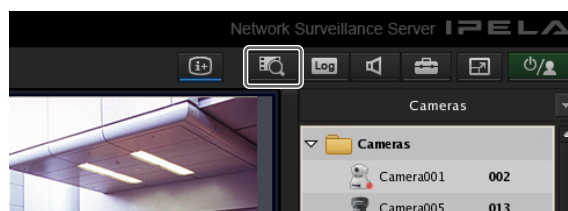
- メディアの空き容量が足りない場合は、警告のメッセージが表示され、エクスポートが中止されます。
- エクスポート中に [閉じる] をクリックすると、エクスポートを続行しながらメイン画面に戻ることができます。
- [中断] をクリックすると、エクスポートは途中で終了しますが、その時点までの記録画像はエクスポートされています。
- エクスポート中にメイン画面に戻っているときに (記録画像のエクスポート) をクリックすると、「エクスポート中」画面が表示されます。
- 「エクスポート」ダイアログの [必要容量] に表示される容量は目安です。[利用可能容量] に表示された容量が [必要容量] に表示された容量よりも多かった場合であっても、まれにメディアの空き容量不足となり、エクスポートが失敗することがあります。
- 記録中のファイルをエクスポートすると、正常に再生できないことがあります。記録中のレコードをエクスポートする場合は、終了点(マークアウト)を現在時刻より離れた時刻に指定してエクスポートしてください。

エクスポートが終了すると、以下のように表示されます。

4 [閉じる] をクリックする。

「エクスポート中」画面が閉じます。

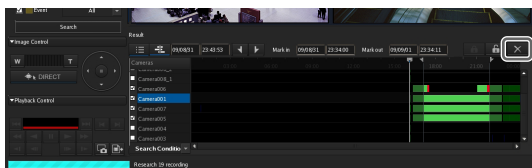
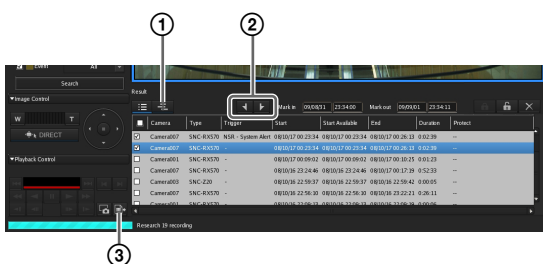
「検索」画面からエクスポートする

「検索」画面では、エクスポートしたい記録画像を検索し、開始点(マークイン)と終了点(マークアウト)を指定してエクスポートできます。

1 メイン画面上部の (記録画像の検索) をクリックする。

「検索」画面が表示されます。

2 検索条件を指定し、［検索］をクリックする。

記録画像の検索については、「記録画像を検索する」（122 ページ）をご覧ください。

3 検索結果の一覧で、エクスポートしたい記録画像をクリックして選択する。

4 タイムライン表示にし、開始点（マークイン）と終了点（マークアウト）を指定してエクスポートする。

① （タイムライン）をクリックし、タイムライン表示にする。

② タイムライン上で、開始点（マークイン）と終了点（マークアウト）指定する。
（マークイン）／ （マークアウト）をクリックすると、現在の再生位置に開始点／終了点が設定されます。
マークイン／マークアウトの位置は、ドラッグ＆ドロップで移動させることもできます。

③ （記録画像のエクスポート）をクリックする。

「エクスポート」ダイアログが表示されます。
以降は、「記録画像をエクスポートする」の手順 3（128 ページ）と同様です。

「エクスポート」ダイアログの設定項目

本ダイアログは、メイン画面（111 ページ）で （記録画像のエクスポート）をクリックしたときに表示されます。各項目を設定したら、［OK］をクリックします。

エクスポート名

エクスポート名を入力します。

マークイン

エクスポートする記録画像の開始点を入力します。
開始点は「検索」画面のタイムライン上でも設定できます。「検索」画面のタイムライン上にマークインが設定されている場合は、その値が自動的に表示されます。必要に応じて、手動で値を調整できます。

マークアウト

エクスポートする記録画像の終了点を入力します。
終了点は「検索」画面のタイムライン上でも設定できます。「検索」画面のタイムライン上にマークアウトが設定されている場合は、その値が自動的に表示されます。必要に応じて、手動で値を調整できます。

現在の再生日時

現在モニターフレームに表示されている画像が記録された日時が表示されます。

Media File Player をエクスポートする

エクスポートしたファイルを閲覧するための「Media File Player」も一緒にエクスポートするときにチェックマークを付けます。

必要容量

指定した記録画像をエクスポートするために必要となる容量が表示されます。

場所

エクスポート先のメディアを選択します。

利用可能容量

出力先の空き容量が表示されます。

OK

エクスポートを実行します。

キャンセル

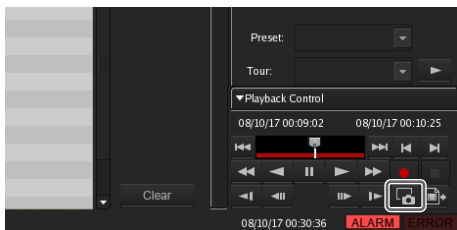
エクスポートをキャンセルし、ダイアログを閉じます。

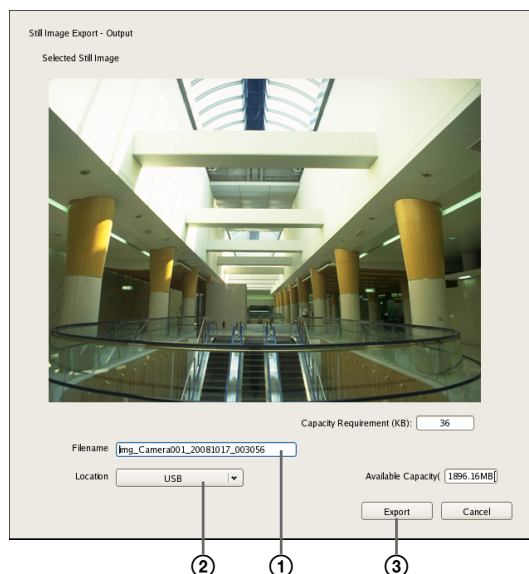
静止画としてエクスポートする

記録画像またはライブ画像の一場面をキャプチャーし、静止画ファイルとしてエクスポートできます。

1 任意のモニターフレームを選択し、エクスポートしたい場面のある記録画像を再生する。

2 エクスポートしたい場面で一時停止する。

3 ［再生コントロール］ペインの （静止画のキャプチャ）をクリックする。

「静止画エクスポート－出力」ダイアログが表示されます。

4 各項目を設定し、［OK］をクリックする。

各項目の詳細は、「「静止画エクスポート－出力」ダイアログの設定項目」（132 ページ）をご覧ください。

① ファイル名を入力する。

② エクスポート先のメディアを選択する。

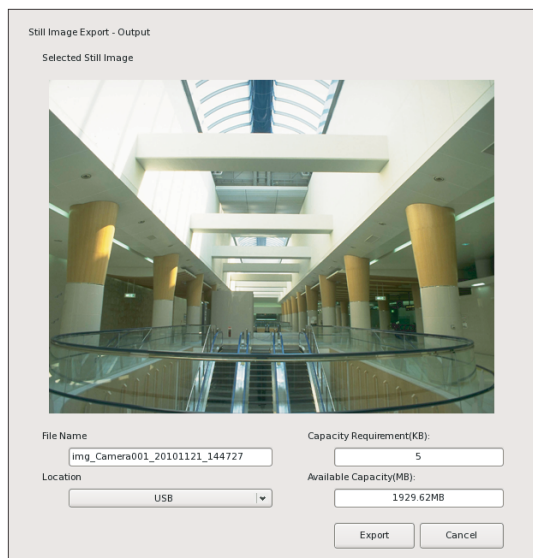
③［エクスポート］をクリックする。

エクスポートされます。

メモ

メディアの空き容量が足りない場合は、警告のメッセージが表示され、エクスポートが中止されます。

「静止画エクスポート－出力」ダイアログの設定項目

本ダイアログは、メイン画面（111 ページ）で (静止画のキャプチャ）をクリックしたときに表示されます。各項目を設定したら、[OK］をクリックします。

ファイル名

ファイル名を入力します。
入力したファイル名と同じ名前のファイルがエクスポート先に存在する場合は、入力したファイル名とは別の名前でエクスポートされることがあります。

場所

エクスポートするファイルの出力先を選択します。

必要容量

指定した静止画をエクスポートするために必要となる容量を表示します。

利用可能容量（MB）

出力先の空き容量を表示します。

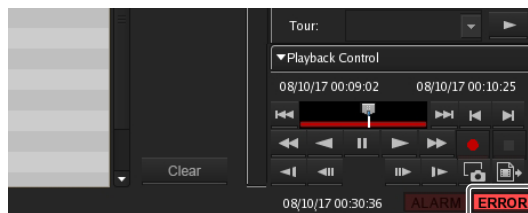
システムの管理をする

日常のシステム管理に必要な操作を説明します。
- NSR の電源を切る／再起動する（34 ページ）
- エラーステータスを監視する （132 ページ）
- ログファイルをエクスポートする （133 ページ）

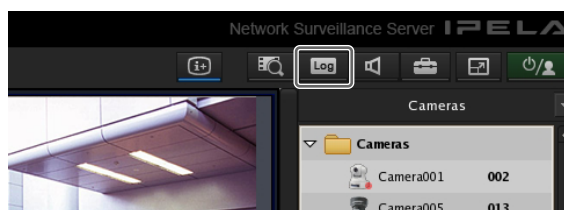
エラーステータスを監視する

本機でエラーが発生したときは、メイン画面または NSR 前面の ERROR ランプで確認できます。

メイン画面の ERROR ランプ

ハードウェアがソフトウェアの主要なエラーを検知すると、メイン画面右下の ERROR ランプが点灯します。

エラーの内容を確認するには

ERROR ランプをクリックすると、「ログ」ダイアログが開き、ログを確認できます。
また、以下の方法でもログを確認できます。

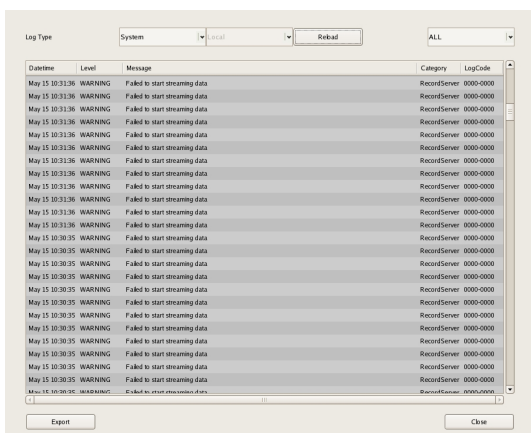
1 メイン画面上部の Log をクリックする。

「ログ」ダイアログが表示されます。

2 エラーの内容を確認する。

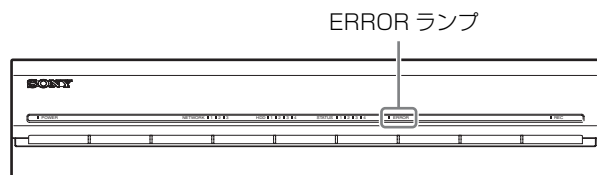
［ログの種類］からシステムログ、イベント／アラームログ、オペレーションログを選択できます。

メモ

システムログを選択したときは、右上のドロップダウンメニューから確認したい項目のレベルを設定できます。［ALL］を選択すると、すべての項目が表示されます。

レベルの高い項目順に、EMERGENCY ＞ ERROR ＞ WARNING ＞ NOTICE ＞ ALL となります。

ハードウェアでエラーが発生した場合

NSR 前面の ERROR ランプが点灯または点滅します。

ERROR ランプ

エラーの内容を確認するには

「STATUS LED の見かた」（137 ページ）をご覧ください。

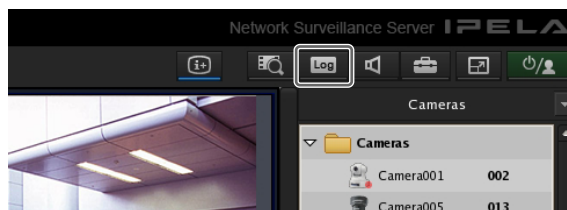
ログファイルをエクスポートする

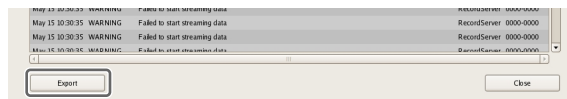
以下のログファイルをエクスポートできます。

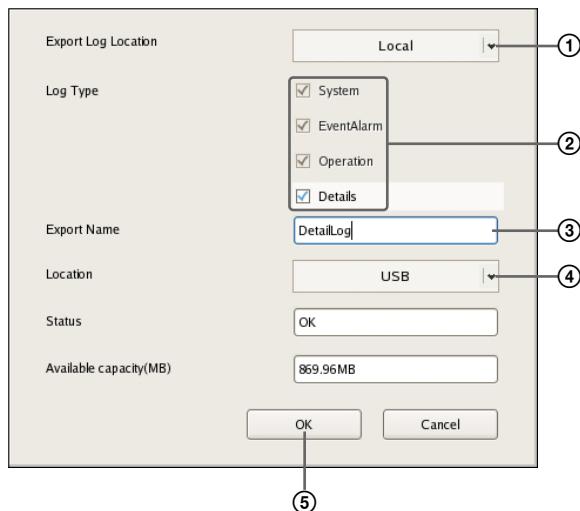
- システムログ
- イベント／アラームログ
- オペレーションログ
- 詳細ログおよびシステム情報

メモ

フィルタリングは反映されません。

1 メイン画面上部の Log をクリックする。

「ログ」ダイアログが表示されます。

2 ［エクスポート］をクリックする。

「エクスポート」ダイアログが表示されます。

3 エクスポートしたいログを指定し、［OK］をクリックする。

① ログが保存されている場所を選択する。

② エクスポートするログにチェックマークを付ける。

メモ

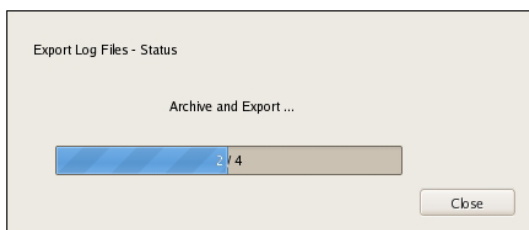
- 「Administrator Menu Setting」権限のあるユーザーのみ、［Details］を選択することが可能です。権限については、「ユーザーを登録する」（105 ページ）をご覧ください。
- ［Details］でエクスポートされるファイルは、「管理メニュー」の［システム情報エクスポート］でエクスポートされるファイルと同じです。

③ ファイル名を入力する。

④ エクスポート先のメディアを選択する。

⑤［OK］をクリックする。

エクスポートが開始されます。
エクスポート中は以下の画面が表示され、進行状況を確認できます。

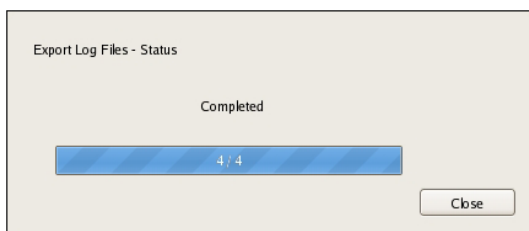
メモ

メディアの空き容量が足りない場合は、警告のメッセージが表示され、エクスポートが中止されます。

エクスポートが終了すると、以下のように表示されます。

4 ［閉じる］をクリックする。

「エクスポート中」画面が閉じます。

その他

第章

I/O ポートについて

I/O ポートのピン配列

センサー入力

Pin NO.	SENSOR IN
1	3.3 v
2	IN_8 −
3	IN_8 +
4	IN_7 −
5	IN_7 +
6	IN_6 −
7	IN_6 +
8	IN_5 −
9	IN_5 +
10	IN_4 −
11	IN_4 +
12	IN_3 −
13	IN_3 +
14	IN_2 −
15	IN_2 +
16	IN_1 −
17	IN_1 +
18	GND

アラーム出力

Pin NO.	ALARM OUT
1	GND
2	OUT_8 −
3	OUT_8 +
4	OUT_7 −
5	OUT_7 +
6	OUT_6 −
7	OUT_6 +
8	OUT_5 −
9	OUT_5 +
10	OUT_4 −
11	OUT_4 +
12	OUT_3 −
13	OUT_3 +
14	OUT_2 −
15	OUT_2 +
16	OUT_1 −
17	OUT_1 +
18	GND

RS-422/485

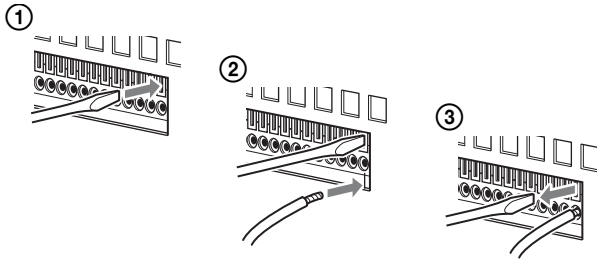
Pin NO.	RS-422	RS-485
19	TX−	TX−
20	TX+	TX+
21	RX−	
22	RX+	

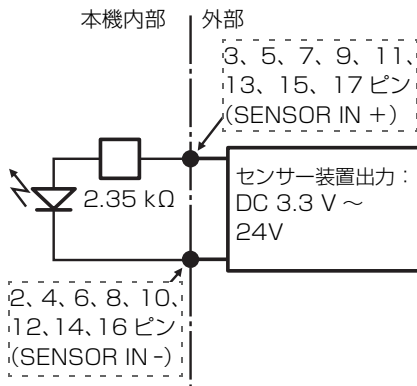
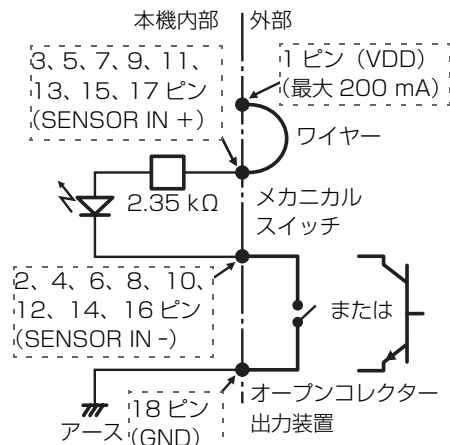
I/O ポートの接続方法

以下のようにして、センサー入力端子とアラーム出力端子にワイヤーを接続します。

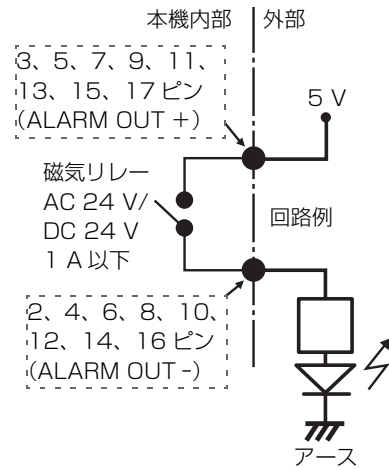
ワイヤー（AWG No.26 ～ 20）を接続したい穴の上、または下のスロットにマイナスドライバーを差し込み、ワイヤーを差し込んでから、マイナスドライバーを引き抜く。

ご注意

マイナスドライバーは、極端に強く差し込まないでください。故障の原因となります。

同じ手順で、必要なワイヤーをすべて接続します。

センサー入力への配線図 1

センサー入力への配線図 2

ご注意

配線図 2 の回路を使用した場合は、NSR と電気的に絶縁されなくなりますので、ノイズや過電圧、過電流を発生しない外部回路を構成してください。

アラーム出力への配線図

STATUS LED の見かた

本機にエラーが発生すると、前面の ERROR LED が状況に応じて点滅または点灯し、STATUS LED は点灯します。

STATUS ▮1 ▮2 ▮3 ▮4　　▮ ERROR

STATUS LED では、以下のようにエラーの状況を示します。

起動中のエラー

（起動中にエラーが発生すると、ERROR LED が点滅します）

エラーコード	STATUS LED	ERROR LED	考えられる原因
1	1 2 3 **4**	点滅	電圧供給に問題があります。
2	1 2 **3** 4	点滅	CPU ファンの故障です。
3	1 2 **3** **4**	点滅	メモリーモジュールに問題があります。
4	1 **2** 3 4	点滅	CMOS バッテリーに問題があります。
5	1 **2** 3 **4**	点滅	ビデオ RAM またはコントローラーに問題があります。
6	1 **2** **3** 4	点滅	ハードディスクのコントローラーに問題があります。
7	1 **2** **3** **4**	点滅	ブート可能なデバイスが見つかりません。
8	**1** 2 3 4	点滅	ブート可能な OS が見つかりません。
9	**1** 2 3 **4**	点滅	1 つ以上のハードディスクに問題があります。
A	**1** 2 **3** 4	点滅	RAID OS ボリュームに問題があります。
B	**1** 2 **3** **4**	点滅	X11 の起動に失敗しました。
C	**1** **2** 3 4	点滅	アプリケーションの起動に失敗しました。
D	**1** **2** 3 **4**	点滅	未使用
E	**1** **2** **3** 4	点滅	未使用
F	**1** **2** **3** **4**	点滅	RAID データボリュームに問題があります。

STATUS LED および ERROR LED は、点灯を▮で示しています。

作動中のエラー

（作動中にエラーが発生すると、ERROR LED が点灯します）

エラーコード	STATUS LED	ERROR LED	考えられる原因
1	1 2 3 **4**	点灯	機内温度に問題があります。
2	1 2 **3** 4	点灯	CPU ファンに問題があります。
3	1 2 **3** **4**	点灯	電源のファンに問題があります。
4	1 **2** 3 4	点灯	電圧供給に問題があります。
5	1 **2** 3 **4**	点灯	ハードディスクファン 1 に問題があります。
6	1 **2** **3** 4	点灯	ハードディスクファン 2 に問題があります。
7	1 **2** **3** **4**	点灯	ハードディスクに障害があります。
8	**1** 2 3 4	点灯	未使用
9	**1** 2 3 **4**	点灯	未使用
A	**1** 2 **3** 4	点灯	未使用
B	**1** 2 **3** **4**	点灯	OS の動作に異常があります。
C	**1** **2** 3 4	点灯	アプリケーションの動作に異常があります。
D	**1** **2** 3 **4**	点灯	「メイン」画面の［ERROR］ランプが点灯しています。
E	**1** **2** **3** 4	点灯	RAID データボリュームに異常があります。
F	**1** **2** **3** **4**	点灯	RAID データボリュームを再構築しています。

故障かな？と思ったら

まず初めに、下記の項目をもう１度チェックしてみてください。それでも解決しないときは、お買い上げ店またはソニー業務用商品相談窓口にご相談ください。

本機が起動しない

- 本機の電源スイッチがオンになっているか確認してください。
- 電源コードが正しく接続されているか確認してください。
- お使いのコンセントに他の機器を接続してみるなどして、コンセントが通電しているか確認してください。
- 本機前面の HDD LED で、ハードディスクがアクセス中でない（HDD LED が点滅していない）ことを確認してから、本機背面の電源スイッチを ⏻ の方向へ長押し（10 秒程度）して強制的に電源を切ってください。電源を切った後、再度電源を入れてください。
- 本機では、起動中にファイルシステムをチェックしますが、使用容量に応じてチェックにかかる時間が長くなります。使用状況によっては、2 時間以上かかることもあります。ファイルシステムのチェック中は、本機前面の HDD LED が点滅します。
- 本機が正しく起動できない場合、以下のような画面が表示される場合があります。

```
1. HDD Restore
2. DOM Restore
3. Software Restore
4. Reset Monitor Setting
5. Initialize (Factory Use)
6. Reboot the system
7. Shutdown the system

Enter your choice:  []
```

この場合、次の手順で確認を行ってください。

1. ［7. Shutdown the system］を選択し、Enter キーを押す。
   電源が切れます。
2. 「ハードディスクにアクセスできない」を参照し、ハードディスクが正しく接続されているか確認する。
3. 電源を入れ直し、正しく起動するか確認する。

モニターに何も表示されない

- 本機の電源スイッチがオンになっているか確認してください。
- 電源コードが正しく接続されているか確認してください。
- モニターケーブルが正しく接続されているか確認してください。モニターがモニター端子 1 に接続されているか確認してください。
- モニターの解像度に対して間違って解像度を高く設定してしまった場合、「out of range」と表示される場合があります。Ctrl キーと Alt キー、－（マイナス）キーを同時に何度か押して、出力されている画像の解像度を下げてください。モニターに合った解像度になると、画面が表示されます。その後メニューからシステムを再起動し、正しい解像度を設定し直してください。詳しくは「「セットアップメニュー」で初期設定を変更する」（14 ページ）をご覧ください。

HDMI モニター端子に接続したモニターが正常に映らない

- HDMI モニターの入力切り替えをしたり、ケーブルの抜き差しをすると、まれに映像が正常に映らない場合があります。その場合は、以下を行ってみてください。
  1. モニターの入力を切り替える。
  2. モニターの電源を入れ直す。

メモ

上記を行っても復帰しない場合は、いったん HDMI ケーブルを取りはずし、アナログ RGB モニターを使用して運用を続けてください。運用を止められるタイミングがきたら、本機を再起動し、再度 HDMI モニターを接続してみてください。

外部接続機器が正しく動作しない

- ケーブルが正しく接続されているか、ピンが折れたり曲がっていないかなどを確認してください。

USB 接続した機器が動作しない

- USB デバイスを接続した際に、メイン画面右下の［ERROR］ランプが点灯する場合があります。本機に対応していない USB デバイスである可能性がありますので、以下の手順で確認してください。
  1. ［ERROR］ランプをクリックする。
     システムログが表示されます。
  2. システムログの中に「Unsupported USB device」というエラーが表示されていないか確認する。
     「Unsupported USB device」が表示されている場合は、この USB デバイスは本機に対応していません。

- USB フラッシュメモリーは、一般的な USB 2.0 マスストレージに対応しています。USB 2.0 マスストレージでも一部の製品によっては、データの書き込みの際にエラーとなる可能性があります。書き込みの際にエラーが発生した場合には、別の機種の USB フラッシュメモリーをお使いください。
- USB デバイスを正しくご使用いただくために、USB ハブ経由などでなく本機の USB コネクタに直接接続してお使いください。USB ハブ、延長ケーブル経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- 接続する USB 機器の説明書を参照してください。

DVD/CD が読めない

- ディスクの種類を確認してください。
- DVD/CDが正しくDVD/CDドライブに挿入されているか確認してください。
- DVD/CD が汚れていないか、傷が付いていないか確認してください。

DVD/CD ドライブのトレイが出てこない

- 本機の電源がオンになっているか確認してください。
- 先の細いもの（クリップの先をのばしたものなど）を、DVD/CD ドライブのイジェクト穴に入れ、トレイが排出されるまでゆっくりと押し込んでください。

NETWORK LED が点灯しない

- ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認してください。

ハードディスクにアクセスできない

- ハードディスクドライブが正しく取り付けられているか確認してください。
- 本機前面の HDD LED で､どのドライブに異常があるかを確認してください。ハードディスクが故障しているときは、該当するハードディスクの LED がアンバー色に点灯します。
- ハードディスクへのアクセスが頻繁になると、HDD LED が高速で点滅するため、明るい場所では消えているように見えることがあります。

リモートクライアントから本機にアクセスできない

- 本機が正しく動作しているか（ハードディスク、ネットワーク、ソフトウェアなどに異常がないか）確認してください。
- 本機のセントラルサーバーの設定が正しいか確認してください。
- 本機のリモートクライアントとのネットワークインターフェイスの設定が正しいか確認してください。
- RealShot Manager Advanced のユーザー名、パスワードおよび接続ポート（IP アドレスまたはホスト名、およびポート番号）が正しいか確認してください。
- RealShot Manager Advanced のユーザーガイドのトラブルシューティングを参照してください。

すぐに温度が上昇する

- 前面、側面、背面の通風孔がふさがれていたり、通風孔にほこりがたまっていないか確認してください。

仕様

NSR-1200/1100/1050H

プロセッサー

CPU　NSR-1200：Quad Core Xeon
NSR-1100：Dual Core Xeon
NSR-1050H：Dual Core Xeon

メモリー

オンボードフラッシュメモリー
4 GB
内蔵メモリー
NSR-1200：　2 GB
NSR-1100：　1 GB
NSR-1050H：　1 GB

記憶装置

内蔵ハードディスクドライブ
DVD/CD ドライブ（前面）
1 台
対応メディア：DVD+R、DVD-R、
DVD-ROM、CD-R、CD-RW、CD-ROM

外部コネクター

前面　モニター出力：
アナログ RGB（ミニ D-SUB 15 ピン）（1）
USB：USB 2.0（3）
背面　モニター出力：
アナログ RGB（ミニ D-SUB 15 ピン）（2）
HDMI（2）
音声出力（L）（1）
音声出力（R）（1）
マイク入力（1)
LAN 端子（1000Base-T/100Base-TX/10Base-T）（RJ-45）（4）
USB：USB 2.0（3）
ミニ SAS 出力（別売の NSRE-S200 接続用、Mini SAS x4 (SFF-8088)、3.0 Gbit/s）（1）
センサー入力（DC 3.3 V 〜 24 V デバイス対応、フォトカップラー入力、本体とは電気的に絶縁）（8）
アラーム出力（最大 DC24 V、1 A）
（メカニカルリレー出力、本体とは電気的に絶縁）（8）
UPS 用シリアル端子：RS-232C（1）
アナログカメラコントロール用端子
（NSR-1050H および NSBK-A16/A16H 搭載時のみ有効）：RS-232C（1）
RS-422/485（1）

使用環境

動作温度：5 〜 40 ℃
動作湿度：20 〜 80％（最大湿球温度：30 ℃）
（結露のないこと）
保存温度：－ 20 〜＋ 60 ℃
保存湿度：20 〜 90％（最大湿球温度 35 ℃、結露のないこと）

電源・その他

電源：　AC 100-127 V / 200-240 V（50/60 Hz）
消費電力：最大 350 W
外形寸法：430（W）× 87（H）× 417（D）mm
（突起含まず）
本体重量：NSR-1200 約 13.5 kg
NSR-1100 約 12 kg
NSR-1050H 約 11.5 kg

別売りアクセサリー

ラックマウントキット NSR-RM1
システムコントローラー RM-NS1000
アナログエンコーダーキット NSBK-A16/A16H
拡張ストレージユニット NSRE-S200

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

・必ず事前に記録テストを行い、正常に記録されていることを確認してください。本機や記録メディア、外部ストレージなどを使用中、万一これらの不具合により記録されなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。
・お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

索引

M

N

P

S

U

V

お問い合わせは
「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/